

工 事 名	新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事																															
<h3>特記仕様書（構造関係）</h3> <h4>I 建物概要</h4> <p>1. 主要用途 体育館</p> <p>2. 工事場所 埼玉県新座市</p> <p>3. 棟名称及び構造・階数等</p> <table border="1"> <tr> <td>棟</td> <td>RC 造 3階建て（地下 一階・P.H 一階）</td> </tr> <tr> <td>建築面積</td> <td>73.67 m²</td> </tr> <tr> <td>延べ面積</td> <td>1556.47 m²</td> </tr> <tr> <td>床面積</td> <td>3階 73.67 m²</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2階 320.65 m²</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1階 1162.15 m²</td> </tr> <tr> <td></td> <td>階 m²</td> </tr> <tr> <td>建物高さ</td> <td>9.980 m 軒高さ 9.465 m</td> </tr> <tr> <td>工事種別</td> <td>新築 ○増築 ・改築 ・移転</td> </tr> <tr> <td>増築計画</td> <td>有り ○無し</td> </tr> <tr> <td>構造種別</td> <td>地上 RC 造 地下 - 造</td> </tr> <tr> <td>架構型式</td> <td>X方向 耐震壁付きラーメン 構造</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Y方向 耐震壁付きラーメン 構造</td> </tr> <tr> <td>耐震構造方式</td> <td>○耐震構造 ・免震構造 ・制振構造</td> </tr> <tr> <td>耐震安全性の分類</td> <td>I 類(I=1.50) ○II 類(I=1.25) ・III 類(I=1.00)</td> </tr> </table>			棟	RC 造 3階建て（地下 一階・P.H 一階）	建築面積	73.67 m ²	延べ面積	1556.47 m ²	床面積	3階 73.67 m ²		2階 320.65 m ²		1階 1162.15 m ²		階 m ²	建物高さ	9.980 m 軒高さ 9.465 m	工事種別	新築 ○増築 ・改築 ・移転	増築計画	有り ○無し	構造種別	地上 RC 造 地下 - 造	架構型式	X方向 耐震壁付きラーメン 構造		Y方向 耐震壁付きラーメン 構造	耐震構造方式	○耐震構造 ・免震構造 ・制振構造	耐震安全性の分類	I 類(I=1.50) ○II 類(I=1.25) ・III 類(I=1.00)
棟	RC 造 3階建て（地下 一階・P.H 一階）																															
建築面積	73.67 m ²																															
延べ面積	1556.47 m ²																															
床面積	3階 73.67 m ²																															
	2階 320.65 m ²																															
	1階 1162.15 m ²																															
	階 m ²																															
建物高さ	9.980 m 軒高さ 9.465 m																															
工事種別	新築 ○増築 ・改築 ・移転																															
増築計画	有り ○無し																															
構造種別	地上 RC 造 地下 - 造																															
架構型式	X方向 耐震壁付きラーメン 構造																															
	Y方向 耐震壁付きラーメン 構造																															
耐震構造方式	○耐震構造 ・免震構造 ・制振構造																															
耐震安全性の分類	I 類(I=1.50) ○II 類(I=1.25) ・III 類(I=1.00)																															

4. 構造計算条件

a 耐震設計条件

地震荷重	建物一次固有周期 () 秒	
地盤種別	第 () 種地盤	
地域係数	Z=	
計算ルート	X方向	※ 許容応力度計算（ルート） ・その他
	Y方向	※ 許容応力度計算（ルート） ・その他
設計層間変形角	X方向	一次設計 二次設計
	Y方向	一次設計 二次設計

b 耐風設計条件

基準風速 (V)	() m/秒
地表面粗度区分	I ・ II ・ III ・ IV

c 耐積雪設計条件

建設地の標高	() m
多雪区域の指定	有り ・ 無し
設計積雪積雪量	() c m

5. 地盤調査資料

調査内容	・ サウンディング（※ 標準貫入試験） ・ 土質試験 ・ 孔内水平載荷試験 ・ 平板載荷試験
調査位置	構造図 (/ 図) による
液状化対策の検討	有り ・ 無し

II 建築工事仕様

(1) 質問回答書、本特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて「埼玉県建築工事特別共通仕様書」及び国土交通大臣官房行政課建設部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」（以下、「標準仕様書」という。）による。

(2) 標準仕様書で「特記がなければ、」以下に具体的な材料・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令等（条例を含む）と異なる場合には、具体的な対応策について監督員と協議すること。

(3) 特記仕様書の表記

- 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
- 特記事項は、○印の付いたものを適用する。○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
- 印と◎印の付いた場合は、共に適用する。○印と※の場合は、○のみを適用する。
- 特記事項に記載の「. . .」内の表示番号は、埼玉県建築工事特別共通仕様書の当該項目、当該図表を示す。
- 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また () 内は製品名を示す。
- ◎は「特定調達物品等」を表す。
- 注は標準仕様書記載事項で、注意すべきものを示す。

章	項 目	特 記 事 項																								
4	1 支持地盤等	<p>・杭基礎 (4.2.1)(4.3.4、5)(4.5.5、6)</p> <p>支持地盤の位置及び種類(基礎ぐいの先端の位置含む) ・ 図示による ()</p> <p>○直接基礎 支持地盤の位置及び種類(基礎底部の位置含む) ○ 図示による () 試験掘り(根切り底の状態の確認等) ・ 行う (位置等) ・ 図示による () (3.2.1)</p> <p>長期設計支持力度 ○ (280) kN/m²</p> <p>・地盤の載荷試験 () 箇所 (4.2.4) 載荷試験の方法 ・地盤工学会基準JGS 1521による 試験の位置、載荷荷重 ※ 図示による ()</p> <p>・液状化対策 工法、施工範囲、仕様及び計測、試験等 ※ 図示</p>																								
	2 既製コンクリート杭地業	<p>種類 (4.3.3)</p> <p>・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭 (PHC杭) ・プレストレスト鉄筋コンクリート杭 (PRC杭) ・外殻鋼管付きコンクリート杭 (SC杭) SC杭の鋼管材料 ・ SKK400 ・ SKK490</p> <p>杭の種類、性能及び曲げ強度等による区分、寸法、継手の箇所数等 (4.2.2)(4.3.3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>コンクリート強度 (W/mm²)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>杭径 (mm)</th> <th>杭長 (m)</th> <th>継手数</th> <th>長期設計支持力 (kN/本)</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本 杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>杭先端部形状 (4.3.3) ・ 開放形 ・ 半開放形 ・ 閉そく形</p> <p>施工方法 (4.2.2)(4.3.1、4) ・セメントミルク工法 試験杭の位置 ・ 図示による () 掘削深さ ・ 図示による () 杭の支持層への根入れ長さ ・ 図示による ()</p> <p>杭の精度 水平方向の位置ずれ寸法 ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ・ 1/100以内 根固め液及び杭周固定液の管理試験 ※標準仕様書4.3.4(6)(3)による</p> <p>・特定埋込杭工法 (4.2.2)(4.3.1、5) ・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力方式の内、α、β、γが下記の値を採用できる工法 α=()、β=()、γ=()</p> <p>工法 ・プレローリング拡大根固め工法 ・中掘り拡大根固め工法</p> <p>抗周固定液 ・ 使用する ・ 使用しない 試験杭の位置 ・ 図示による () 杭の支持層への根入れ長さ ・ 図示による () ・ 評定等の評価内容による</p> <p>杭の精度 水平方向の位置ずれ寸法 ・ 評定等の評価内容による ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ※ 評定等の評価内容による ・ 1/100以内</p>	種類	コンクリート強度 (W/mm ²)	厚さ (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	長期設計支持力 (kN/本)	備 考	試験杭								本 杭							
	種類	コンクリート強度 (W/mm ²)	厚さ (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	長期設計支持力 (kN/本)	備 考																		
試験杭																										
本 杭																										
3 鋼杭地業	<p>鋼杭の材料、寸法、継手等 (4.4.2、3、5)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>板厚 (mm)</th> <th>杭径 (mm)</th> <th>杭長 (m)</th> <th>継手数</th> <th>長期設計支持力 (kN/本)</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本 杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>特定埋込杭工法 (4.2.2)(4.3.1、5) ・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力方式の内、α、β、γが下記の値を採用できる工法 α=()、β=()、γ=()</p> <p>工法 ・中掘り拡大根固め工法</p> <p>試験杭の位置 ・ 図示による () 杭の支持層への根入れ長さ ・ 図示による () ・ 評定等の評価内容による</p> <p>杭の精度 水平方向の位置ずれ寸法 ・ 評定等の評価内容による ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ※ 評定等の評価内容による ・ 1/100以内</p> <p>杭の継手の工法 (4.4.3、5)(7.2.5) ・溶接継手 形状 ・ JIS A 5525 による 溶接材料 ・標準仕様書7.2.5(1)、(2)による ・ 図示による ()</p>	種類	板厚 (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	長期設計支持力 (kN/本)	備 考	試験杭							本 杭										
種類	板厚 (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	長期設計支持力 (kN/本)	備 考																				
試験杭																										
本 杭																										

4	場所打ちコンクリート杭地業	<p>・機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの) 工法 ※ 評定等を受けた工法 検査 ※ 評定等により定められた項目 施工 ※ 評定等をされた施工管理基準による</p> <p>杭頭の処理 (4.3.8)(4.4.6) ・ 処理する 処理方法(切断ともなう補強方法含む) ・ 図示による ()</p> <p>杭頭の中詰め材料 (4.3.8) ・ 基礎のコンクリートと同調合のもの</p> <p>工法 (4.5.1、4~6) ・アースドリル工法(安定液 ・ 使用する ・ 使用しない) ・リバース工法 ・オーレケーシング工法(孔内の水張り ・ 行う ・ 行わない) ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管巻き材料 ・ SKK400 ・ SKK490 鋼管径・板厚・長さ ※ 図示による ()</p> <p>併用する工法 ・ 拡張杭工法(安定液 ・ 使用する ・ 使用しない)</p> <p>材料その他 (4.2.2)(4.5.4) 寸法等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験杭</th> <th>軸径 (mm)</th> <th>杭長 (m)</th> <th>杭径 (mm)</th> <th>長期設計支持力 (kN/本)</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本 杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>鉄筋の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び径 (mm)</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ SD235</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ SD345</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>帯筋の加工及び組立 ・ 図示による (構造関係共通図(配筋標準図)6.2帯筋(2)⑥(ロ))</p> <p>鉄筋の最小かぶり厚さ ・ 100mm 鉄筋ごとの補強 ・ 図示による () 組立てた鉄筋の節ごとの継手 ※ 重ね継手(重ね継手の長さ: 標準仕様書 表5.3.2による) ・ 図示による ()</p> <p>主筋の基礎底盤への定着長さ ・ 図示による () セメントの種類 ※ 高炉セメントB種 ◎ コンクリートの設計基準強度 ・ () N/mm² コンクリートの種別 ・ A種 ・ B種 ・ 評定等の評価内容による スラブ ・ 18cm ・ 21cm 構造体強度補正係数 ・ 3N/mm² ・ 評定等の評価内容による</p> <p>試験杭の位置 ・ 図示による () 杭の支持層への根入れ長さ ・ 図示による ()</p> <p>杭の精度 水平方向の位置ずれ ・ 評定等の評価内容による ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ・ 評定等の評価内容による ・ 1/100以内</p> <p>孔壁の保持状況(孔壁測定) 判定箇所 ・ 試験杭()箇所及び本杭()箇所 測定方法 ・ 超音波測定器</p>	試験杭	軸径 (mm)	杭長 (m)	杭径 (mm)	長期設計支持力 (kN/本)	備 考	本 杭						種類の記号	呼び径 (mm)	備 考	・ SD235			・ SD345		
	試験杭	軸径 (mm)	杭長 (m)	杭径 (mm)	長期設計支持力 (kN/本)	備 考																	
	本 杭																						
	種類の記号	呼び径 (mm)	備 考																				
	・ SD235																						
・ SD345																							
⑤ 砂利地業	<p>材料 ○再生クラッシュラン ◎切込砂利又は切込砕石 (4.6.2、3) 施工範囲 ○基礎下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下 ・ 図示による () 厚さ ※ 0mm</p>																						
⑥ 砂地業	<p>材料 ・ シルト (4.6.2、3) ○有機物等の混入しない純固めに適した山砂、川砂又は砕砂 施工範囲 ・ 図示による () 厚さ ※ 0mm</p>																						
⑦ 捨てコンクリート地業	<p>材料 ※普通コンクリート (4.6.4)(6.14.1~3) 設計基準強度 ※18N/mm² スラブ ※15cm又は18cm 施工範囲 ○基礎下、基礎梁下、土に接するスラブ ・ 図示による () 厚さ ※ 50mm (※ 平たん仕上げ)</p>																						
⑧ 床下防湿層	<p>材料 ○ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上 (4.6.2、5) 範囲 ○建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピットを除く)</p>																						
5	① 鉄筋	<p>鉄筋の種類 (5.2.1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び径 (mm)</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ SD235</td> <td>※ D16以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ SD345</td> <td>※ D19以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類の記号	呼び径 (mm)	備 考	・ SD235	※ D16以下		・ SD345	※ D19以上													
	種類の記号	呼び径 (mm)	備 考																				
	・ SD235	※ D16以下																					
・ SD345	※ D19以上																						
2 溶接金網	<p>形状等 (5.2.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>種類の記号</th> <th>鉄線の形状</th> <th>綱目寸法</th> <th>鉄線の径 (mm)</th> <th>使用 部 位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・溶接金網</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・鉄筋格子</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種 類	種類の記号	鉄線の形状	綱目寸法	鉄線の径 (mm)	使用 部 位	・溶接金網						・鉄筋格子									
種 類	種類の記号	鉄線の形状	綱目寸法	鉄線の径 (mm)	使用 部 位																		
・溶接金網																							
・鉄筋格子																							
③ 鉄筋の継手	<p>鉄筋の継手方法等 (5.3.4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部 位</th> <th>継 手 方 法</th> <th>呼 び 径 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柱、梁の主筋</td> <td>○ガス圧接 ・ 機械式継手 ※ D19以上 ・ 溶接継手 ・ 重ね継手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐力壁の鉄筋</td> <td>○重ね継手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎、耐圧スラブ、土圧壁</td> <td>○重ね継手 ○ガス圧接</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他の鉄筋()</td> <td>・ 重ね継手</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>継手位置 ○ 図示による (構造関係共通図(配筋標準図)5.1、6.1、7.1、7.3、8.1) 基礎梁主筋の継手位置 ・ 図5.2 ・ 図5.3 ・ 図5.4 ・ 図示による () 柱及び梁の重ね継手の長さ ・ 図示による () 耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ ※ 図示による (構造関係共通図(配筋標準図)3(1)(9)) ・ 図示による () 柱及び梁の主筋で隣り合う継手を同一箇所における部分の位置及び施工方法等 ・ 図示による ()</p>	部 位	継 手 方 法	呼 び 径 (mm)	柱、梁の主筋	○ガス圧接 ・ 機械式継手 ※ D19以上 ・ 溶接継手 ・ 重ね継手		耐力壁の鉄筋	○重ね継手		基礎、耐圧スラブ、土圧壁	○重ね継手 ○ガス圧接		その他の鉄筋()	・ 重ね継手								
部 位	継 手 方 法	呼 び 径 (mm)																					
柱、梁の主筋	○ガス圧接 ・ 機械式継手 ※ D19以上 ・ 溶接継手 ・ 重ね継手																						
耐力壁の鉄筋	○重ね継手																						
基礎、耐圧スラブ、土圧壁	○重ね継手 ○ガス圧接																						
その他の鉄筋()	・ 重ね継手																						

④	鉄筋の定着	<p>鉄筋の定着長さ (5.3.4) ○ 図示による (配筋標準図)</p> <p>機械式定着工法 適用箇所 ・ 図示による () 種類 ・ 摩擦圧接接合 ・ 蝶合グラウト固定 ・ 嵌合グラウト固定</p> <p>工法 ※ 第三者機関の評定等を取得している工法とする 必要定着長さ ※ 評定等の評価内容による 補強筋形状 ※ 評定等の評価内容による かぶり厚さ ※ 評定等の評価内容による 品質確認 ※ 評定等の評価内容による 検査 ※ 評定等の評価内容による</p> <p>鉄筋の余長の長さ 構造関係共通図(配筋標準図)による。これによらない箇所は図示による。</p>
	⑤ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網含む)	<p>最小かぶり厚さ(目地底から算出を行う) ※ 図示による (構造関係共通図(配筋標準図)4(1)表4.1) ・ 図示による ()</p> <p>柱及び梁の主筋にD29以上の使用 ・ あり 適用箇所 () 主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する 耐久性上不利な部分(塩害等を受けるおそれのある部分等) ・ あり 適用箇所 () ・ 最小かぶり厚さに加える厚さ () mm</p>
	⑥ 各部配筋	<p>※ 図示による (5.3.7)</p>
⑦	圧接完了後の圧接部の試験	<p>圧接完了後の圧接部の試験 (5.4.10) 外観試験 ※ 行う (全ての圧接部) 抜取試験 ※ 超音波探傷試験(試験方法 標準仕様書5.4.10(f)(a)による) ・ 引張試験 試験方法 ※ 標準仕様書5.4.10(f)(b)による</p>
	8 機械式継手	<p>適用箇所 (5.5.3、5) ・ 図示による () H12建告第1463号に適合する性能 ・ A級 種類 ・ ねじ式鉄筋継手 充填方式 ・ 無接グラウト方式 ・ 有機グラウト方式 ・ 端部ねじ加工継手 ・ モルタル充填式継手</p> <p>工法 ※ 第三者機関の評定等を取得している工法 鉄筋相互のあき ※ 評定等の評価内容による 品質の確認 ※ 評定等の評価内容による 検査 ※ 評定等の評価内容による 施工完了後の継手部の試験 ・ 外観試験 試験対象 ※ 全数 試験項目 ・ 評定等の評価内容による 試験方法 ・ 評定等の評価内容による ・ 超音波測定試験 試験対象 ・ 抜取り ロット ・ 1組の作業班が1日に行った継手箇所、最大200箇所程度とする</p> <p>試験の箇所数 ・ 1ロットに対して () 箇所 ・ 全数 試験項目 ※ 挿入長さ 試験方法 ※ JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準)による 不合格となった場合の措置</p>
9	溶接継手	<p>適用箇所 (5.6.3、5) ・ 図示による () H12建告第1463号に適合する性能 ・ A級 溶接継手の工法 ・ 図示による () 鉄筋相互のあき ・ 標準仕様書5.3.5(4)による ・ 評定等の評価内容による ・ 図示による () 施工完了後の溶接部の試験 ・ 外観試験 試験対象 ※ 全数 試験項目 ・ 評定等の評価内容による ・ 超音波測定試験 試験対象 ・ 抜取り ロット ・ 1組の作業班が1日に行った溶接箇所、最大200箇所程度とする</p> <p>試験の箇所数 ・ 1ロットに対して () 箇所 ・ 全数 試験項目 ※ 内部欠陥の検出 試験方法 ※ JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波測定方法及び判定基準)による 不合格となった場合の措置</p>

6 コンクリート工事	① コンクリートの種類等	<p>種類</p> <p>※Ⅰ類 (JIS A 5308 への適合を証されたコンクリート)</p> <p>Ⅱ類 (Ⅰ類以外でJIS A 5308 に適合したコンクリート)</p> <p>普通コンクリート (6.2.1~6.2.4)</p> <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm²)</th> <th>気乾単位容積質量 (t/m³)</th> <th>スラブ</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>○S0</td> <td>2.3程度</td> <td>15又は18・18</td> <td>躯体全般</td> </tr> <tr> <td>○S4</td> <td>2.3程度</td> <td>15又は18・18</td> <td>本間コンクリート</td> </tr> <tr> <td>○S1</td> <td>2.3程度</td> <td>-</td> <td>捨てコンクリート</td> </tr> </table> <p>構造体強度補正値(S) (6.3.2)</p> <p>※標準仕様書表6.3.2による</p> <p>補正値 S=3 (月 日 ~ 月 日, 月 日 ~ 月 日)</p> <p>S=6 (月 日 ~ 月 日, 月 日 ~ 月 日)</p>	設計基準強度 (N/mm ²)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	スラブ	適用箇所	○S0	2.3程度	15又は18・18	躯体全般	○S4	2.3程度	15又は18・18	本間コンクリート	○S1	2.3程度	-	捨てコンクリート
	設計基準強度 (N/mm ²)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	スラブ	適用箇所														
	○S0	2.3程度	15又は18・18	躯体全般														
	○S4	2.3程度	15又は18・18	本間コンクリート														
	○S1	2.3程度	-	捨てコンクリート														
	② セメント	<p>種類</p> <p>※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 (6.3.1)</p> <p>※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 (6.3.1)</p> <p>※普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で 352J/g以下、かつ28日目で 402J/g以下のものとする。</p> <p>高炉セメントB種 (G)</p> <p>適用箇所 (※下記以外全て)</p> <p>普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で 352J/g以下、かつ28日目で 402J/g以下のものとする。</p> <p>高炉セメントB種 (G)</p> <p>適用箇所 (※1FLより下部 (立上り部含む))</p> <p>フライアッシュセメントB種 (G)</p> <p>適用箇所 ()</p>																
	③ 骨材	<p>アルカリシリカ反応性による区分</p> <p>※A・B (コンクリート中のアルカリ総量が 3.0 kg/m³ 以下) (6.3.1)</p>																
	④ 混和材料	<p>混和剤</p> <p>混和剤の種類</p> <p>※標準仕様書6.3.1(4)(a)による</p> <p>混和材</p> <p>混和材の種類</p> <p>※標準仕様書6.3.1(4)(b)による</p>																
	⑤ 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地	<p>打継ぎの位置</p> <p>梁及びスラブ</p> <p>※スパンの中央又は端から1/4の付近</p> <p>図示による ()</p> <p>柱及び壁</p> <p>※スラブ、壁梁又は基礎の上端</p> <p>図示による ()</p> <p>目地の寸法</p> <p>※標準仕様書 9.7.3(1)(7)による</p> <p>※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さは、躯体外側の打増し部で処理する</p> <p>図示による ()</p> <p>ひび割れ誘発目地の位置、形状</p> <p>図示による ()</p>																
	⑥ 湿潤養生	<p>湿潤養生の期間</p> <p>セメントの種類が普通エコセメントの場合 () 日 (6.7.2)</p>																
⑦ 構造体コンクリートの仕上り	<p>合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5)(6.8.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・A種</td> <td>※図示による ()</td> </tr> <tr> <td>・B種</td> <td>※図示による ()</td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td>※図示による ()</td> </tr> </table> <p>コンクリートの仕上りの平たんさ</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・a種</td> <td>※図示による ()</td> </tr> <tr> <td>・b種</td> <td>※図示による ()</td> </tr> <tr> <td>・c種</td> <td>※図示による ()</td> </tr> </table>	種別	適用箇所	・A種	※図示による ()	・B種	※図示による ()	・C種	※図示による ()	種別	適用箇所	・a種	※図示による ()	・b種	※図示による ()	・c種	※図示による ()	
種別	適用箇所																	
・A種	※図示による ()																	
・B種	※図示による ()																	
・C種	※図示による ()																	
種別	適用箇所																	
・a種	※図示による ()																	
・b種	※図示による ()																	
・c種	※図示による ()																	
⑧ 打増し厚さ (打放し仕上げ部)	<p>打増し厚さ (6.8.1)</p> <p>打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)</p> <p>・20mm</p> <p>打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)</p> <p>・10mm</p> <p>外装タイル後張り面の打増し処理</p> <p>・20mm</p> <p>打増し範囲</p> <p>図示による ()</p>																	
⑨ 型枠	<p>せき板の材料及び厚さ (6.8.2)</p> <p>合板 (※12mm) (G)</p> <p>コンクリート打設時の充填性の確認のため、型枠の一部に透明型枠等を使用する場合は、強度、変形等について、事前に監督員と協議する。</p> <p>断熱材を兼用した型枠の使用</p> <p>適用箇所 図示による ()</p> <p>MOC工法用シートの使用</p> <p>適用箇所 図示による ()</p> <p>打増し厚さ 20mm</p> <p>打増し範囲 図示による ()</p> <p>スリーブの材質・規格等</p> <p>図示による ()</p> <p>貯蔵期間及び取外し (6.8.4)</p> <p>※標準仕様書6.8.4による</p> <p>普通エコセメントの場合 (※図示による ())</p>																	
10 軽量コンクリート	<p>適用箇所 図示による () (6.10.1、2)</p> <p>種類</p> <p>1種 2種</p> <p>気乾単位容積質量</p> <p>※標準仕様書表6.10.1による</p> <p>スラブ</p> <p>※21cm</p>																	
11 寒中コンクリート	<p>適用期間 (月 日 ~ 月 日) (6.11.1、2)</p> <p>構造体強度補正値(S)を積算温度を基に定める場合</p> <p>図示による ()、S=()</p>																	
12 暑中コンクリート	<p>適用期間 (月 日 ~ 月 日) (6.12.2)</p> <p>構造体強度補正値(S)</p> <p>※6N/mm² 図示による ()、S=()</p>																	
13 マスコンクリート	<p>適用箇所 図示による () (6.13.1、2)</p> <p>セメントの種類</p> <p>普通ポルトランドセメント、中熱ポルトランドセメント、低熱ポルトランドセメント</p> <p>高炉セメントB種、フライアッシュセメントB種、シリカセメント</p> <p>混和材料の適用</p> <p>あり (※標準仕様書6.13.2(2)(7)による) 標準仕様書6.13.2(4)(4)による</p> <p>スラブ</p> <p>※15cm</p> <p>構造体強度補正値(S)</p> <p>※標準仕様書表6.13.1による</p>																	

7 鉄骨工事	① 鉄骨製作工場	<p>鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.3)</p> <p>建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鉄骨工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」により評価を受け、国土交通大臣から認定を受けた工場、又は同等以上の能力のある工場</p> <p>評価の区分</p> <p>○(M) グレード以上 指定しない</p> <p>○監督員の承諾する工場 (標準仕様書7.1.1以外の適用範囲に限る)</p> <p>配置する (7.1.3、4)</p>															
	② 施工管理技術者	<p>種類等 (7.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類の記号</th> <th>適用箇所 (主要な部分)</th> <th>規格</th> </tr> <tr> <td>SM400B</td> <td>柱、大梁、GPI</td> <td>○JIS規格による</td> </tr> <tr> <td>SM490C</td> <td>ダイヤフラム、ベースプレート</td> <td>○JIS規格による</td> </tr> <tr> <td>SS400</td> <td>小梁</td> <td>○JIS規格による</td> </tr> <tr> <td>SSC400</td> <td>鋼線等</td> <td>○JIS規格による</td> </tr> </table> <p>溶接垂れめつき工法の適用箇所</p> <p>板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験</p> <p>行う 適用箇所 () ○行わない (7.2.10)</p>	種類の記号	適用箇所 (主要な部分)	規格	SM400B	柱、大梁、GPI	○JIS規格による	SM490C	ダイヤフラム、ベースプレート	○JIS規格による	SS400	小梁	○JIS規格による	SSC400	鋼線等	○JIS規格による
	種類の記号	適用箇所 (主要な部分)	規格														
	SM400B	柱、大梁、GPI	○JIS規格による														
	SM490C	ダイヤフラム、ベースプレート	○JIS規格による														
	SS400	小梁	○JIS規格による														
	SSC400	鋼線等	○JIS規格による														
	③ 高力ボルト	<p>ボルトの種類 (7.2.2)</p> <p>トルシア形高力ボルト ○JIS形高力ボルト</p> <p>溶融亜鉛めつき高力ボルト</p> <p>ボルトのねじの呼び 図示による ()</p> <p>ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)</p> <p>○図示による (構造関係共通図(鉄骨標準図)1-1 縁端距離及びボルト間隔)</p> <p>JIS形高力ボルトの締付け (本締め) (7.4.7)</p> <p>ナットの回転法の場合で、ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量</p> <p>図示による () ○軸力導入試験を行う</p> <p>摩擦面の処理方法等 (7.4.2)(7.12.5)</p> <p>溶融亜鉛めつき以外</p> <p>※標準仕様書7.4.2(1)による</p> <p>溶融亜鉛めつき</p> <p>○プラスト処理 (表面粗度50μm Rz以上)</p> <p>・プラスト処理以外の特別な処理方法</p> <p>図示による ()</p> <p>すべり試験 (※すべり係数試験・すべり耐力試験)</p> <p>行う ()</p> <p>試験の方法等 図示による ()</p>															
	④ 普通ボルト	<p>ボルト及びナットの種類 (7.2.3)(7.5.2)</p> <p>標準仕様書表7.2.3(JIS附属書)又は次による</p> <p>ボルトの規格は JIS B 1180 とする。</p> <p>(ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。ボルトの強度区分は、4.8又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。ナットの規格は、JIS B 1181 とする。ナットの種類は、六角ナットとする。)</p> <p>ボルトのねじの呼び 図示による ()</p> <p>座金 ※ JIS B 1256 による</p> <p>取止め ※二重ナット</p> <p>ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)</p> <p>○図示による (構造関係共通図(鉄骨標準図)1-1 縁端距離及びボルト間隔)</p> <p>母屋又は剛縁の取付けに使用するボルトの孔径 (7.3.8)</p> <p>※ねじの呼び径+1.0mm</p>															
	⑤ アンカーボルト	<p>構造用アンカーボルト (JIS B 1220) (7.2.4)(7.10.3)</p> <p>種類 ABR400 ○ABR490</p> <p>建方用アンカーボルト (JIS G 3101)</p> <p>種類 ○SS400</p> <p>アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度</p> <p>※標準仕様書表7.2.3による</p> <p>ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)</p> <p>○図示による (構造関係共通図(鉄骨標準図)1-1 縁端距離及びボルト間隔)</p>															
⑥ 溶接材料	<p>溶接材料 (7.2.5)</p> <p>標準仕様書7.2.5(1)、(2)による</p> <p>標準仕様書7.2.5(1)、(2)以外の溶接材料</p> <p>材料及び使用箇所 ()</p>																
⑦ ターンバックル	<p>種類 (7.2.6)</p> <p>建築用ターンバックル</p> <p>建築用ターンバックル</p> <p>※手板ボルト</p> <p>建築用ターンバックル</p> <p>※割付式</p> <p>ねじの呼び</p> <p>図示による ()</p>																
⑧ 無筋コンクリート	<p>コンクリートの種類 (6.14.1)</p> <p>※普通コンクリート</p> <p>セメントの種類</p> <p>※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種</p> <p>高炉セメントB種 (G)</p> <p>フライアッシュセメントB種 (G)</p> <p>設計基準強度 ※18 (N/mm²)</p> <p>スラブ ※15cm又は18cm</p> <p>適用箇所</p> <p>※標準仕様書6.14.1(4)による箇所 図示による ()</p> <p>実施要領</p> <p>(1)単位水量の測定は、150m³に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。</p> <p>(2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4)(c)による。</p> <p>(3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。</p> <p>1)測定した単位水量が、計画調合書の設計値(以下、「設計値」という。)±15kg/m³の範囲にある場合はそのまま施工する。</p> <p>2)測定した単位水量が、設計値±15kg/m³を超え±20kg/m³の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打放する。その後、設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。</p> <p>3)設計値±20kg/m³を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m³以内であることを確認する。更に、設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。</p> <p>4)3)の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。</p> <p>(4)単位水量管理についての記録を計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。</p> <p>(5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、17M法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。</p>																
⑨ コンクリートの単位水量測定	<p>15 コンクリートの単位水量測定</p>																

9 床構造用のデッキプレート	材質、形状及び寸法 (7.2.7)(7.7.8)	<table border="1"> <tr> <th>適用箇所</th> <th>材質・形状・寸法</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・デッキプレート</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・単独の構造</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構造</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>開口部補強要領 (補強筋の定着長さ等を含む)</p> <p>図示による ()</p> <p>鉄骨部材への溶接方法</p> <p>図示による ()</p> <p>耐火認定</p> <p>あり (耐火時間 図示による ())</p> <p>頭付キスタッド (JIS B 1198) の種類等 (7.2.8)(7.7.6)</p> <table border="1"> <tr> <th>呼び名</th> <th>呼び長さ (mm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・16</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・19</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・22</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>スタッド溶接完了後、外観試験及び打撃曲げ試験を行う。</p>	適用箇所	材質・形状・寸法	備考	・デッキプレート			・単独の構造			・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構造			呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所	・16			・19			・22																									
	適用箇所	材質・形状・寸法	備考																																														
	・デッキプレート																																																
	・単独の構造																																																
	・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構造																																																
	呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所																																														
	・16																																																
	・19																																																
	・22																																																
	10 スタッド	<p>無収縮モルタルとする場合の材料、調合等 (7.2.9)</p> <p>※標準仕様書7.2.9(2)(7)から(3)による</p> <p>鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則6.鉄骨精度検査基準に加えて、次による。 (7.3.3)</p> <p>通しダイヤフラムの突合せ継手の食い違いの寸法</p> <p>※H12建告第1464号第二号イ(2)による</p> <p>アンダーカットの寸法</p> <p>※H12建告第1464号第二号イ(3)による</p> <p>食い違い、仕口のずれの検査方法及び補強方法</p> <p>「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による</p>																																															
11 柱底均しモルタル	<p>試験の要領 (7.6.3)</p> <p>図示による ()</p> <p>開先の形状 (7.6.4)</p> <p>○図示による (構造関係共通図(鉄骨標準図)1-2 溶接継手の種類別開先標準)</p> <p>鋼製エンドタブの切断する部分 (7.6.7)</p> <p>切断する場所 図示による ()</p> <p>切断範囲</p> <p>鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジ等の端から 5mm 以上残して直線上に切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。</p> <p>切断面の仕上げ</p> <p>標準仕様書7.6.7(1)(a)(b)による</p> <p>完全溶込み溶接</p> <p>板厚が異なる場合の突合せ継手</p> <p>低応力高サイクル疲労を受ける部位</p> <p>図示による ()</p> <p>スカラップの形状</p> <p>図示による (構造関係共通図(鉄骨標準図)1-4(4)改良型スカラップ)</p> <p>○ノンスカラップ工法とする</p> <p>適用箇所</p> <p>図示による ()</p>																																																
12 製作精度	<p>H12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 (7.6.12)</p> <p>○「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による</p> <p>※抜き取り検査②</p> <p>※抜き取り検査①</p> <p>JASS 6 付則6 [鉄骨精度検査基準] の付表3「溶接」に関する確認方法等 (7.6.10.4)</p> <p>○JASS 6 10.4 [受入検査] e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。</p> <p>完全溶込み溶接部の超音波探傷試験</p> <p>○工場溶接の場合</p> <table border="1"> <tr> <th>部</th> <th>※4.0</th> <th>※2.5</th> </tr> <tr> <td>・全て</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>検査水準</td> <td>※第6水準</td> <td></td> </tr> </table> <p>・全数</p> <p>・工事現場溶接の場合</p> <p>※全数</p> <p>塗装の範囲 (7.8.2)</p> <p>耐火被覆材の接着する面</p> <p>図示による ()</p> <p>耐火被覆材の接着する面以外</p> <p>※標準仕様書7.8.2(1)(7)~(7)による部分以外</p> <p>図示による ()</p> <p>塗装の種類 (7.8.4)</p> <p>○鉄鋼面の錆止め塗料</p> <p>屋外</p> <p>○標準仕様書表18.3.1 A種</p> <p>屋内</p> <p>○標準仕様書表18.3.1(B)種</p> <p>○錆止め塗料</p> <p>○標準仕様書表18.3.2(C)種</p> <p>・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面(鉄骨に溶接されたものに限る)</p> <p>・標準仕様書表18.3.1 A種</p> <p>・耐火被覆材の接着する面へ塗装する場合の錆止め塗料</p> <p>・標準仕様書表18.3.1()種 標準仕様書表18.3.2()種</p>	部	※4.0	※2.5	・全て			検査水準	※第6水準																																								
部	※4.0	※2.5																																															
・全て																																																	
検査水準	※第6水準																																																
13 溶接作業を行う技能資格者の技量付加試験	<p>種類、材料、工法等 (7.9.2~8)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>材料・工法</th> <th>性能(耐火時間)</th> <th>適用箇所(部位・部分)</th> </tr> <tr> <td>・耐火材吹付け</td> <td>・乾式吹付0.7kg/L</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・湿式ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・半乾式吹付0.7kg/L</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・耐火板張り</td> <td>・繊維混入けい酸カルシウム板</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・耐火材巻付け</td> <td>・高断熱ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ラス張りモルタル塗り</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・耐火塗料</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種類	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)	・耐火材吹付け	・乾式吹付0.7kg/L				・湿式ロックウール				・半乾式吹付0.7kg/L											・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板							・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール							・ラス張りモルタル塗り				・耐火塗料			
種類	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)																																														
・耐火材吹付け	・乾式吹付0.7kg/L																																																
	・湿式ロックウール																																																
	・半乾式吹付0.7kg/L																																																
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板																																																
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール																																																
・ラス張りモルタル塗り																																																	
・耐火塗料																																																	
15 入熱、パス間温度の管理																																																	
⑩ 溶接部の試験																																																	
⑪ 錆止め塗装																																																	
⑫ 耐火被覆																																																	

19 20 21 22 23	⑬ 建方精度	<p>※JASS6 付則6 [鉄骨精度検査基準] 付表5 [工事現場] による (7.10.2)</p>															
	⑭ アンカーボルト等の設置	<p>構造用アンカーボルトの形状及び寸法 (7.10.3)</p> <p>○図示による (架構詳細図)</p> <p>構造用アンカーフレームの形状及び寸法</p> <p>図示による ()</p> <p>建方(及び付属鉄骨)用アンカーボルトの保持及び埋込み工法(標準仕様書表7.10.1)</p> <p>種別 A種 B種</p> <p>柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別(標準仕様書表7.10.2)</p> <p>種別 ※A種 B種</p> <p>種別等 (7.12.4)(表14.2.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>溶接めつきの種別</th> <th>材料</th> <th>適用部位</th> </tr> <tr> <td>・A種</td> <td>最小板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・B種</td> <td>最小板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td>普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>最小板厚2.3mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板</td> <td></td> </tr> </table> <p>外観検査 ※行う 行わない</p> <p>補強形式</p> <p>○図示による (構造関係共通図(鉄骨標準図)1-6)</p> <p>適用箇所</p> <p>※図示による ()</p>	溶接めつきの種別	材料	適用部位	・A種	最小板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板		・B種	最小板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板		・C種	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類			最小板厚2.3mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	
	溶接めつきの種別	材料	適用部位														
	・A種	最小板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板															
	・B種	最小板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板															
	・C種	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類															
		最小板厚2.3mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板															
	⑮ 溶融亜鉛めつき(基礎、主要構造部及びその他構造耐力上主要な部分に限る。)																
	⑯ 梁貫通孔の補強																

構造関係共通図（配筋標準図）

総則

- 適用範囲
 - 本構造関係共通図は鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立の一般的な標準図とする。
 - 本構造関係共通図以外については、設計図及び監督員の指示による。
- 用語の定義
 - 設計図とは、建築構造のうち特記仕様書（構造関係）、構造関係共通図以外の図面をいう。
 - 異形鉄筋の径（本文、図、表において「d」で示す。）は、呼び名に用いた数値とする。
 - 長さ、厚さの単位は、特記なき限りmmとする。
- 優先順位
 - 設計図書の図面のうち配筋方法に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
 - 特記仕様書（構造関係）
 - 図面 2-1 設計図
 - 図面 2-2 構造関係共通図（配筋標準図）
 - 国土交通省大臣官房官庁官署建築部建築「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」

表A 異形鉄筋の断面表示記号

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築		●	×	◇	●	○	◎	⊗	⊙

表B 各階伏図における記号

記号	説明	記号	説明
S*	スラブの配筋種別	⊕	杭の位置
◇	スラブ厚さ	+	試験杭の位置
○	階段の配筋種別	▨	打増しの範囲
DO	土間コンクリート	⊗	スラブ開口
□	コンクリートブロック壁（C壁）	⊕	ボアリング位置
▨	梁・スラブの上がり下がり	(±)	FLからの上がり下がり
EW○○	耐力壁の種別	W○○	一般壁の種別
EKW○○	片持ちスラブ形階段を受け、かつ耐力壁の種別	KW○○	片持ちスラブ形階段を受け、かつ一般壁の種別
ERW○○	土圧を受け、かつ耐力壁の種別		

表C 梁貫通孔記号

区分	径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400
建築		⊕	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗

表D スリーブ材質の凡例

管名	鋼管	溶融亜鉛めっき鋼管	硬質塩化ビニル管	つば付き鋼管（黒管）
記号（建築用）	SGP（白管）	GA	VU	RS

※建築用以外のスリーブ材質は各工事による。

1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径は、表1.1を標準とする。

表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径

折曲げ角度	折曲げ図（余長）	折曲げ内法直径(D)		
		SD295, SD345	SD390	
		D16以下	D19 ~ D38	D19 ~ D38
180°				
135°				
90°		3d以上	4d以上	5d以上
135°及び90°（幅寸め筋）				

- 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
- 90°未満の折曲げの内法直径は特記による。

2 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。
(1) 柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部

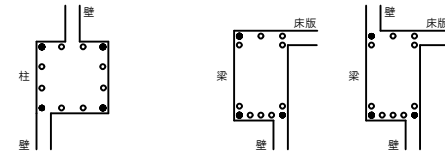


図2.1 末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋（●印）

- 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
- 杭基礎のベース筋
- 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3 継手及び定着

- 鉄筋の重ね継手
 - 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
 - 柱及び梁主筋並びに耐力壁を除く鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	L ₁ (フックなし)		L _{1h} (フックあり)
		小梁	スラブ	
SD295	18	45d	40d	35d
	21	40d	35d	30d
	24, 27	35d	30d	25d
SD345	18	50d	45d	35d
	21	45d	40d	30d
	24, 27	40d	35d	25d
SD390	18	50d	45d	35d
	21	45d	40d	30d
	24, 27	40d	35d	25d

- L₁、L_{1h}：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
- フックありの場合のL_{1h}は、図3.1に示すようにフック部分Qを含めない。
- 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

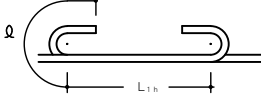


図3.1 フックありの場合の重ね継手の長さ

- 耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず40d以上（軽量コンクリートの場合は50d以上）と表3.1の重ね継手の長さのうちいずれか大きい値とする。
- 隣り合う継手の位置は、表3.2による。

ただし、スラブ筋でD16以下の場合及び壁筋の場合は除く。

表3.2 隣り合う継手の位置

重ね継手	フックありの場合	
	フックなしの場合	
溶入圧接継手	-	ガス圧接継手・溶接継手 a ≥ 400mm
機械式継手	-	カップラー a ≥ 400mm, かつ、a ≥ (b+40)mm

(2) 鉄筋の定着

(ア) 鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	直線定着の長さ				フックあり定着の長さ			
		L ₁	L ₂	小梁	スラブ	L _{1h}	L _{2h}	小梁	スラブ
SD295	18	45d	40d	35d	30d	30d	30d	30d	25d
	21	40d	35d	30d	25d	20d	25d	20d	20d
	24, 27	35d	30d	30d	25d	20d	25d	20d	20d
SD345	18	50d	40d	20d	10d	35d	30d	10d	-
	21	45d	35d	20d	10d	30d	25d	10d	-
	24, 27	40d	35d	20d	10d	30d	25d	10d	-
SD390	18	50d	40d	25d以上	150mm	30d	25d	10d	-
	21	45d	35d	25d以上	150mm	25d	20d	10d	-
	24, 27	40d	35d	25d以上	150mm	25d	20d	10d	-

- L₁、L_{1h}：2. から4. まで以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
- L₂、L_{2h}：斜め定着のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
- L₃：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐力スラブ及びこれを受ける小梁を除く。なお、() は片持ち小梁及び片持ちスラブの場合を示す。
- L_{3h}：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
- フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分Qを含めない。また、中間部での折曲げは行わない。
- 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

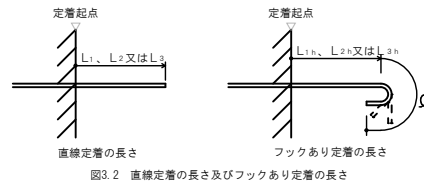


図3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

- 梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の(a)、(b)及び(c)をすべて満足するものとする。
 - 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
 - 余長は8d以上
 - 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さL_a及びL_bは表3.4に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

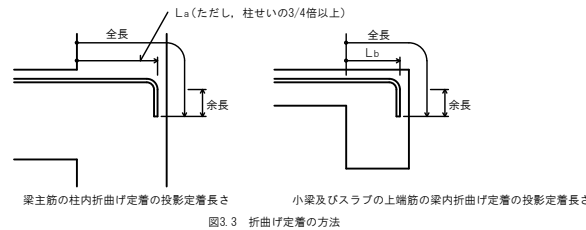


図3.3 折曲げ定着の方法

表3.4 鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	L _a	L _b
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
SD390	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d

- L_a：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
- L_b：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
- 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

- 溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。なお、L₁は表3.3に、L₂及びL₃は表3.3による。

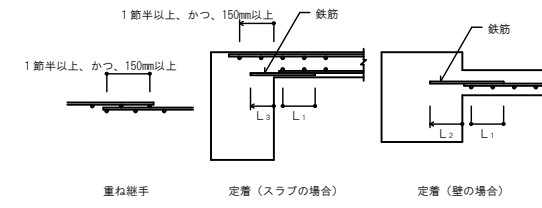


図3.4 溶接金網の継手及び定着

- スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

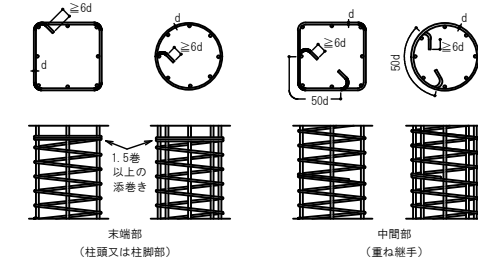


図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

4 鉄筋の最小かぶり厚さ及び間隔

- 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ

構造部分の種類	最小かぶり厚さ(mm)		
	仕上げあり	仕上げなし	
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	20	
	柱、梁、耐力壁	屋内	30
		屋外	40
		埋設、耐圧スラブ	40
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁	*40	
	基礎、埋設、耐圧スラブ	*60	
煙突等高熱を受ける部分		60	

- この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。また、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
- 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（土塗材、塗料等）のものを除く。
- スラブ、梁、基礎及び埋設で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含めない。
- 杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。

- 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
- 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
- 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のものを以上とする。
- 組材の最大寸法の1.25倍
- 25mm
- 隣り合う鉄筋の径（呼び名の数値）の平均の1.5倍

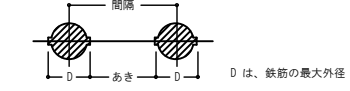


図4.1 鉄筋相互のあき及び間隔

- 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨のあきは、(4)による。
- 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

5.1 基礎梁

- 一般事項
 - 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。
 - 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(2)(イ)による。

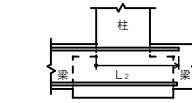


図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

- 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。

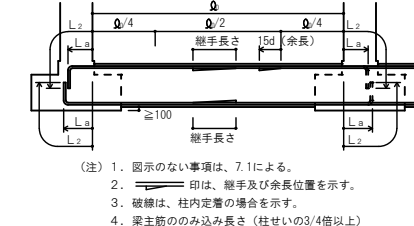


図5.2 主筋の継手、定着及び余長（その1）

- 図示のない事項は、7.1による。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

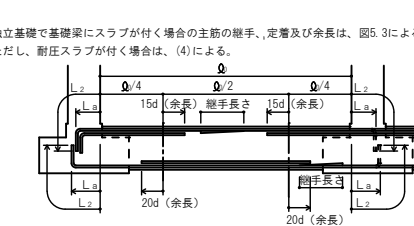


図5.2 主筋の継手、定着及び余長（その2）

- 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。ただし、耐力スラブが付く場合は、(4)による。

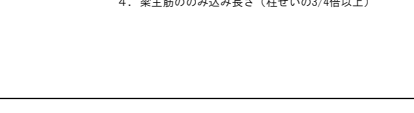


図5.3 主筋の継手、定着及び余長（その3）

- 図示のない事項は、7.1による。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

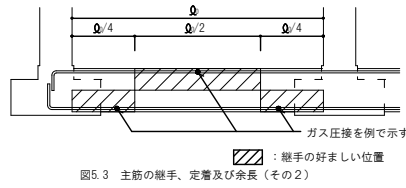
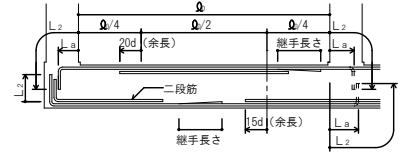


図5.3 主筋の継手、定着及び余長(その2)

(4) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。(副圧スラブがつく場合を含む)



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
 2. 印は、継手及び余長位置を示す。
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
 4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)

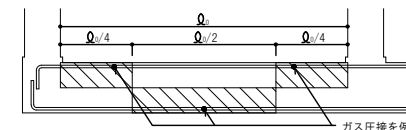


図5.4 主筋の継手、定着及び余長(その3)

5.2 基礎梁のあばら筋等

- (1) 一般事項
 (ア) あばら筋の径および間隔は、設計図による。
 (イ) あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(2)による。
 また、副あばら筋組立の形及びフックの位置は7.2(3)による。
 ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることできる。

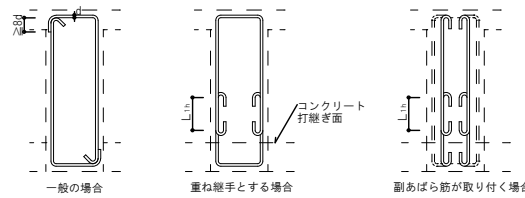
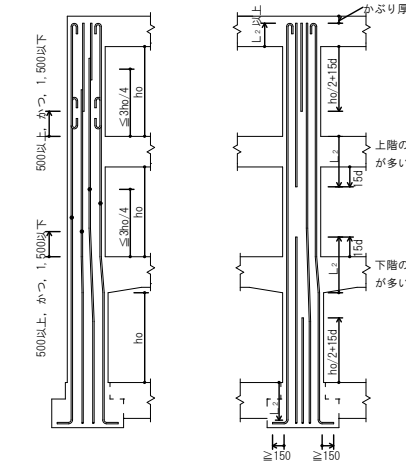


図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

- (2) 腹筋及び幅止め筋は、7.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は設計図による。
 (3) あばら筋の割付けは、7.2(4)による。

6.1 柱

- (1) 一般事項
 (ア) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、3ho/4 (hoは柱の内法高さ) 以下とする。
 (イ) 継手、定着及び余長は、図6.1による。
 ただし、柱頭定着長さL₂が確保できない場合は、設計図による。



- (注) 1. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上層の柱頭にある場合には、フックを付ける。
 2. 隣り合う継手の位置は、表3.2「隣り合う継手の位置」による。
 3. 継手及び定着は、すべての層に適用できる。

図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

(2) 柱打増し部

- (ア) 打増し部分に、壁、梁及びスラブ等がつく場合は、壁、梁及びスラブ筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。
 (イ) 土に接する柱周囲の打増しは図6.2による。

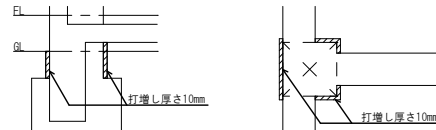


図6.2 柱打増し部

6.2 帯筋

- (1) 帯筋の種類及び間隔は、設計図による。
 (2) 帯筋組立の形は図6.3により、適用は構造図による。構造図に記載がなければ次による。
 (ア) 形は、図6.3(イ)とする。
 ただし、H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
 (イ) 溶接する場合の溶接長さLは、両面重ねアーク溶接の場合は5d以上、片面重ねアーク溶接の場合は10d以上とする。
 (ウ) S P形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻きを行う。

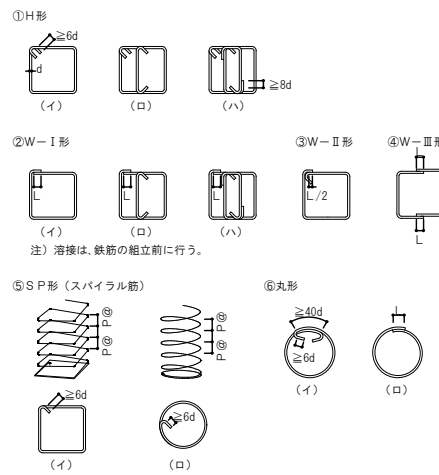
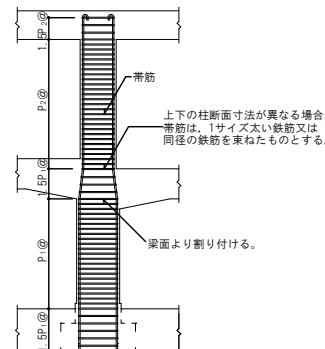


図6.3 帯筋組立の形

- (3) フック及び継手の位置は交互とする。
 (4) 帯筋の割付けは図6.4とし、それ以外の場合は設計図による。



- (注) 1. 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P₁または1.5P₂とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。
 2. 図中のP₁、P₂は、特記された帯筋の間隔を示す。

図6.4 帯筋の割付け

7.1 大梁

- (1) 一般事項
 (ア) 梁の上り下り及びFLを基準とした寸法値とする。
 (イ) 地中梁下の砂利地層厚及び捨てコンクリート地層厚は設計図による。
 (ウ) 打増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合は、スラブ、壁、梁筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。
 (2) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項
 (ア) 継手中心位置は、次による。
 上端筋：中央 $Q/2$ 以内
 下端筋：柱面より梁せいの(D)以上とし、 $Q/4$ を加えた範囲以内
 (イ) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は図7.3及び図7.4による。
 (ウ) 梁筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が、同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。

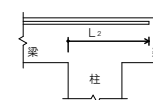


図7.1 梁主筋の梁内定着

- (エ) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。
 なお、定着の方法は3(2)(イ)による。
 上端筋：曲げ降ろす
 下端筋(一般)：原則、曲げ上げる。
 下端筋(ハンチ付き)：原則、曲げ上げる。
 (オ) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は設計図による。
 (カ) 段違い梁は、図7.2による。

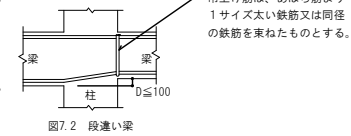
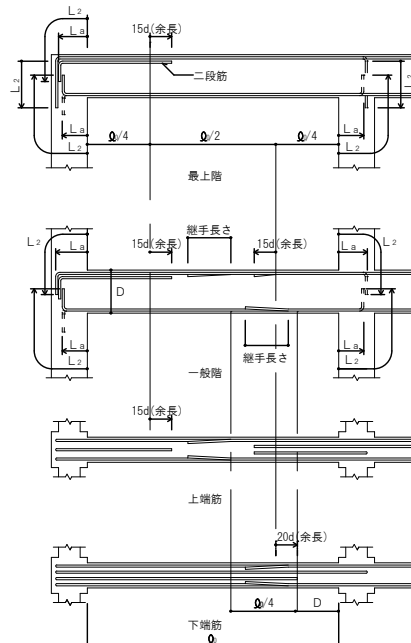


図7.2 段違い梁

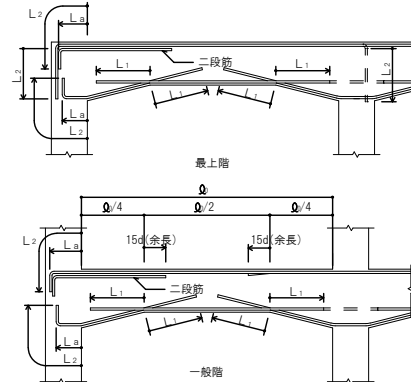
(3) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合(基礎梁を除く)には、フックを付ける。
 2. 印は、継手及び余長を示す。
 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
 4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)

図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

(4) ハンチのある場合の定着及び余長は、図7.4による。



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合(基礎梁を除く)には、フックを付ける。
 2. 印は、継手及び余長を示す。
 3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、 \equiv のように引き通すことができる。
 4. 破線は、柱内定着を示す。
 5. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)

図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

7.2 あばら筋等

- (1) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項
 (ア) あばら筋の種類、径及び間隔は、設計図による。
 (イ) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7.6による。
 ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ、定着長さは設計図による。
 (ウ) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000程度とする。
 (2) あばら筋組立の形及びフックの位置
 (ア) 形は、図7.5.1(イ)とする。
 ただし、L形梁の場合は、②または③、T形梁の場合は②～④とすることができる。

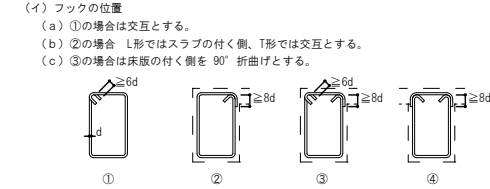


図7.5.1 あばら筋組立の形

- (3) 副あばら筋組立の形及びフックの位置
 (ア) 形は、図7.5.2(イ)または(ロ)とする。
 ただし、L形梁またはT形梁の場合は(ウ)とすることができる。

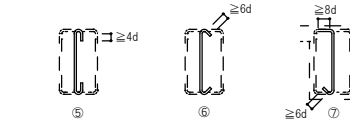
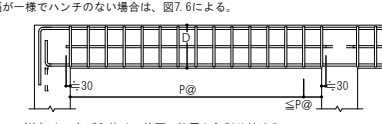


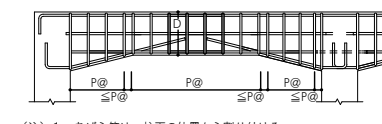
図7.5.2 副あばら筋組立の形

(4) あばら筋の割付け
 (ア) 間隔が一様でハンチのない場合は、図7.6による。



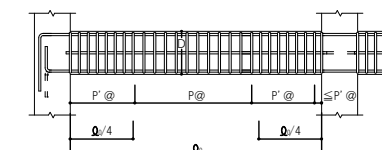
- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
 2. 図中のP₁、P₂は、特記されたあばら筋の間隔を示す。
 図7.6 あばら筋の割付け(その1)

(イ) 間隔が一様でハンチのある場合は、図7.7による。



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
 2. 図中のP₁、P₂は、特記されたあばら筋の間隔を示す。
 図7.7 あばら筋の割付け(その2)

(ウ) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図7.8による。



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
 2. 図中のP₁、P₂は、特記されたあばら筋の間隔を示す。
 図7.8 あばら筋の割付け(その3)

(5) 腹筋及び幅止め筋
 一般の梁は、図7.9による。

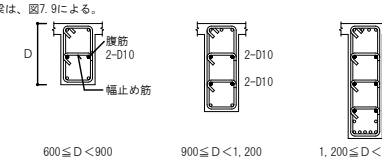
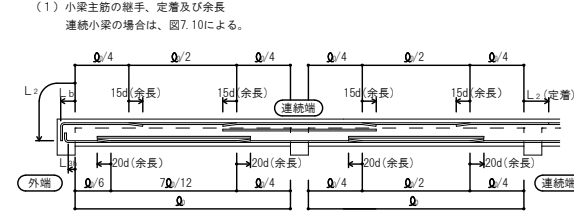


図7.9 腹筋および幅止め筋

7.3 小梁

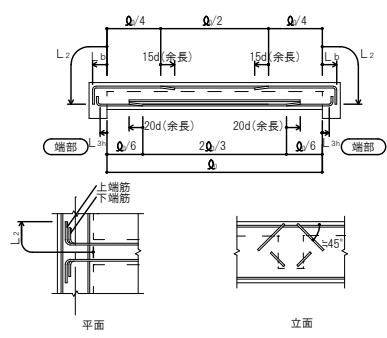
(1) 小梁主筋の継手、定着及び余長
 連続小梁の場合は、図7.10による。



- (注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。
 2. 印は、余長位置を示す。
 図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)

整理番号	注記	設計年月日	工事名称
	KBM1(校舎FL): GL±0(TP30.00) KBM2(樹天端): GL+1000(TP31.00) KBM3(北東側市道): TP30.82(GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H308H-8(31.672 TP)を使用 設計GL: GL+1000(TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1FL: GL+300(TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位: TP※(GL-※) 校舎1FL: GL±0(TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465(校舎FLより)	2026.03	新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事
			図面名称 構造関係共通図(配筋標準図・その2)
			縮尺 A1= NS A3= NS

(2) 単独小梁の場合は、図7.11による。

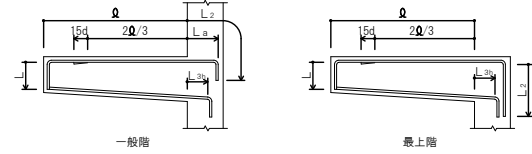


直交する梁へ斜めに定着する場合
 (注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。
 2. 印は、余長位置を示す。
 図7.11 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その2)

(3) あばら筋は、7.2による。

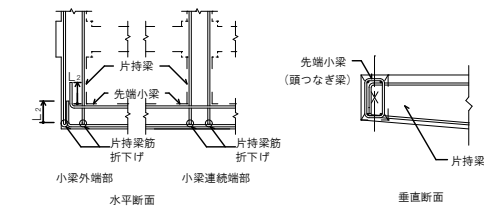
7.4 片持梁

(1) 片持梁主筋の定着及び余長
 (ア) 先端に小梁のない場合は、図7.12による。



(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
 2. 印は、余長位置を示す。
 3. 先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。

(イ) 先端に小梁がある場合は、図7.13による。



(注) 1. 図示のない事項は、(ア)による。
 2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
 3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

(2) あばら筋は、7.2による。

8.1 壁

(1) 一般事項

(ア) 一般壁筋の重ね継手の長さはL₂とし、耐力壁筋の重ね継手長さは特記による。
 また定着の長さはL₂とし、鉄筋の継手位置は、柱・梁部以外とする。
 (イ) 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000@程度とする。
 (ウ) 打増し部分に、壁及びスラブ等が取り付く場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し部分は含まない。

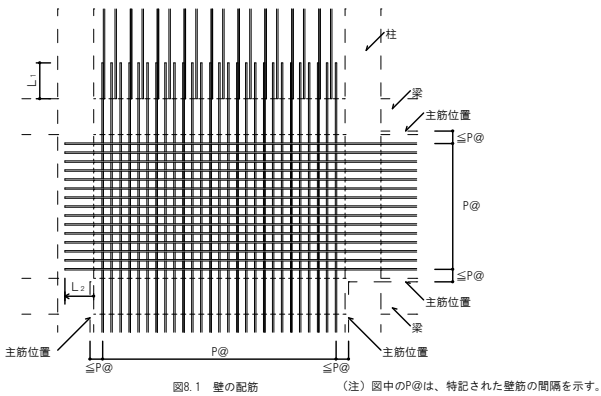


図8.1 壁の配筋 (注) 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。

(2) 壁の配筋は表8.1により、種別は設計図による。

表8.1 壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W12	D10-200#シングル	120
W15A	D10-150#シングル	150
W15B	D10-100#シングル	150
W18A	D10-200#ダブル	180
W18B	D10-150#ダブル	180
W20A	D10-200#ダブル	200
W20B	D10-150#ダブル	200

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

(3) 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表8.2により、種別は設計図による。

表8.2 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種別(表10.1)
KW1	縦筋	D13-200#ダブル	KA1
	横筋	D10-200#ダブル	KA3
KW2	縦筋	D13-150#ダブル	KA2
	横筋	D10-200#ダブル	KA4

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

(4) 土圧を受ける壁の配筋は、設計図による。
 (5) 壁の交差部及び端部の配筋は、図8.2による。

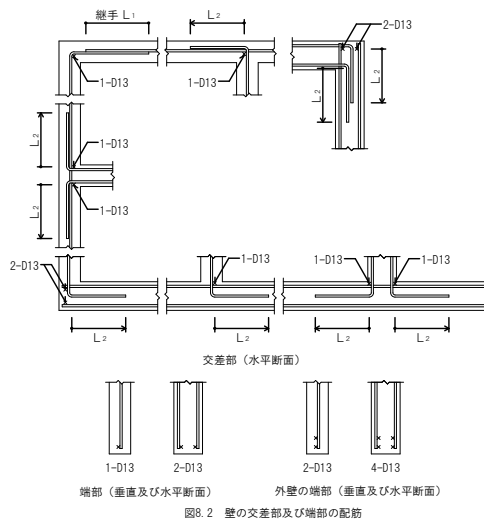


図8.2 壁の交差部及び端部の配筋

8.2 一般壁の補強

(1) 壁開口部の補強

(ア) 耐力壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は構造図による。
 なお、耐力壁の補強筋は、構造図による。

表8.3 壁開口部補強筋 (A形)

壁の種類	補強筋	
W12, W15	縦横	1-D13
W18, W20	縦横	2-D13

表8.4 壁開口部補強筋 (B形)

壁の種類	補強筋	
W12, W15	縦横	2-D13
W18, W20	縦横	4-D13

(イ) 壁開口部補強の定着長さは、図8.3による。

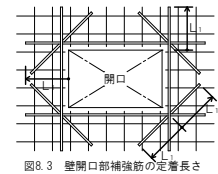


図8.3 壁開口部補強筋の定着長さ

(2) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、設計図による。

9.1 スラブ

(1) スラブ及び土間コンクリートの上り下りりは、FLを基準とした法線とする。
 (2) 土間スラブ下の砂利地床厚及び捨てコンクリート厚は設計図による。
 (3) 土間コンクリート補強筋(D0)の配筋及びコンクリート厚さは設計図による。
 (4) スラブリの配筋(S形配筋)は表9.1及び図9.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、設計図による。

表9.1 S形配筋

配筋種別	短辺方向(主筋) 全域		長辺方向(配力筋) 全域	
	短辺方向(主筋) 全域	長辺方向(配力筋) 全域	短辺方向(主筋) 全域	長辺方向(配力筋) 全域
S 1	D13-100#	D13-100#	S 8	D10, D13-150#
S 2	同上	D13-150#	S 9	同上
S 3	同上	D10, D13-150#	S10	D10, D13-200#
S 4	D13-150#	D13-150#	S11	同上
S 5	同上	D10, D13-150#	S12	同上
S 6	同上	D10-150#	S13	D10-200#
S 7	D10, D13-150#	D10, D13-150#	S14	同上

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

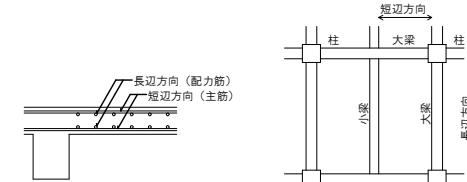


図9.1 スラブリの配筋

(5) 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
 (6) 原則として引き通し、鉄筋の重ね継手長さはL₂とする。
 (7) 定着長さ及び受け筋は、図9.2による。
 ただし、引き通しできない場合は、図9.3により梁内に定着する。

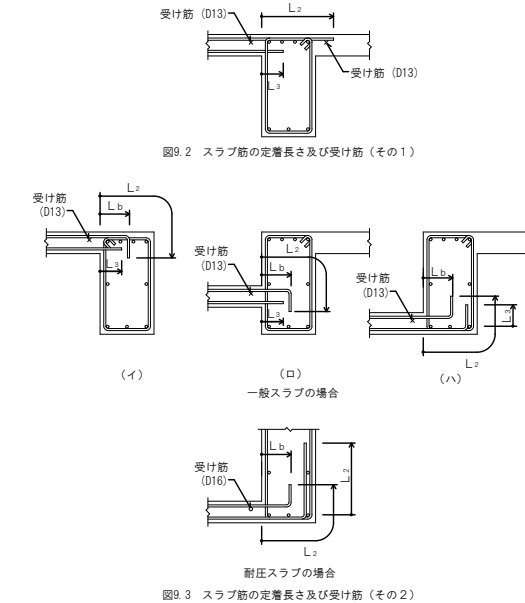


図9.2 スラブリの定着長さ及び受け筋 (その1)

9.2 片持スラブ

片持スラブは、プレキャストコンクリート部材又は現場打ちコンクリート部材とする。
 プレキャストコンクリート部材とする場合の部材への接続方法は、設計図による。
 片持スラブリの配筋は、次による。

(1) 片持スラブリの配筋 (CS形配筋) は、表9.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、設計図による。

表9.2 CS形配筋

配筋種別	主筋		配筋種別	主筋	
	上	下		上	下
CS1	上	D13-100#	CS5	上	D10-200#
	下	D13-200#		下	D10-400#
CS2	上	D13-150#	CS6	上	D10, D13-200#
	下	D13-300#		下	—
CS3	上	D10, D13-150#	CS7	上	D10-200#
	下	D10, D13-300#		下	—
CS4	上	D10, D13-200#			
	下	D10-200#			

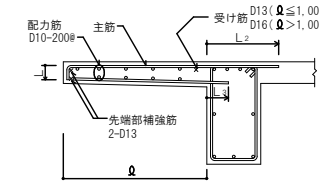


図9.4 片持スラブリの配筋 (CS11 からCS15)

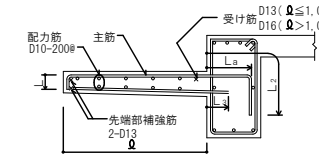


図9.5 片持スラブリの配筋 (CS16及びCS17)

(注) 1. 先端の折曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図9.6による。

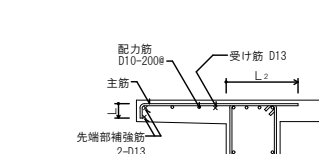


図9.6 先端に壁が付く場合の配筋

(3) 出隅部

(ア) 出隅部の補強筋は設計図により、配筋方法は、図9.7による。
 (イ) 出隅受け部分 (図9.7の斜線部分) の補強筋は設計図による。

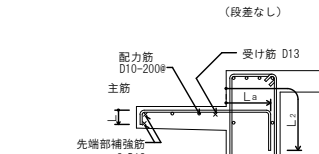


図9.7 片持スラブリ出隅部の補強配筋

(注) 1. $\phi \geq \phi$ とする
 2. 出隅受け部配筋は柱又は梁にL定着する。

出隅部分の補強筋

出隅部分補強配筋

整理番号	注記	設計年月日	工事名称
	KBM1 (校舎FL): GL±0 (TP30.00) KBM2 (樹天端): GL+1000 (TP31.00) KBM3 (北東側市道): TP30.82 (GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H308B-8(31.672 TP) を使用	2026.03	新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事
	設計GL: GL+1000 (TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1FL: GL+300 (TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位: TP※(GL-※)		図面名称
	校舎1FL: GL±0 (TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 (校舎FLより)		構造関係共通図 (配筋標準図・その3)
			縮尺
			A1= NS A3= NS

9.3 スラブ等の補強

- (1) スラブ開口部の補強
スラブ開口部の補強方法は、設計図による。設計図になければ、(ア) (イ)による。
(ア) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合、図9.8により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 (Q=2L) シングルを上下筋の内側に配筋する。

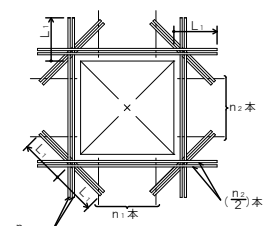
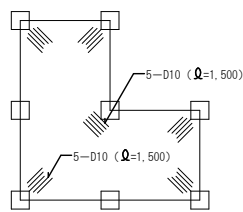


図9.8 スラブ開口部の補強配筋

- (イ) スラブ開口の最大径が同方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることで、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

- (2) 屋根スラブの補強
屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図9.9により、補強筋を上端筋の下側に配置する。



- (3) 土間スラブの打継ぎ補強
基礎梁とスラブを一体打ちとし、打継ぎを設ける場合の補強は図9.10による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

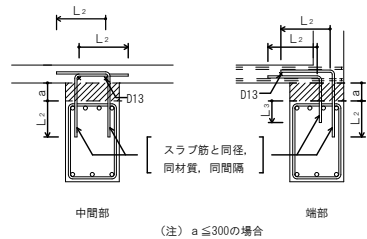


図9.10 打継ぎ補強配筋

- (4) 土間コンクリートの補強
土間コンクリートの補強筋は、設計図による。なお、基礎梁との接合部は、図9.11による。

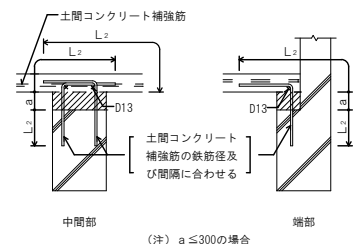


図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10.1 片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の配筋は、表10.1及び図10.1により、寸法及び配筋種別は、設計図による。

表10.1 片持スラブ形階段の配筋 t: スラブ厚さ

配筋種別	配筋図	配筋種別	配筋図
KA1		KA2	
KA3		KA4	

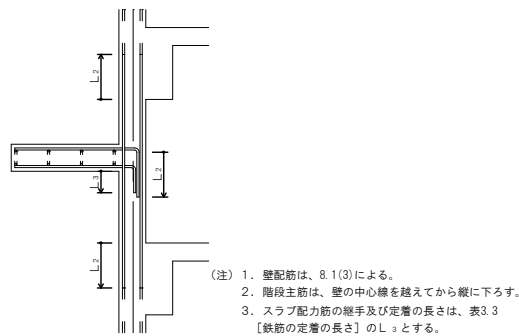


図10.1 片持スラブ形階段配筋の定着

10.2 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段は、プレキャストコンクリート部材又は現場打ちコンクリート部材とする。プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への接続方法は設計図による。
二辺固定スラブ形階段の配筋は表10.2並びに図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は、設計図による。

表10.2 二辺固定スラブ形階段

配筋種別	上端筋、下端筋とも(全域)
KB1	D13-200#
KB2	D13-150#
KB3	D13-100#
KB4	D13, D16-150#
KB5	D16-150#
KB6	D16-125#
KB7	D16-100#

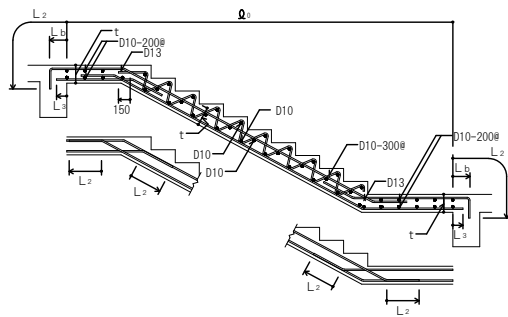


図10.2 二辺固定スラブ形階段配筋(その1)

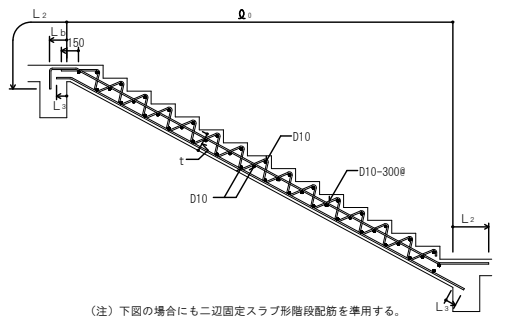


図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

11.1 梁貫通孔

- (1) 梁貫通孔は、次による。
(ア) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図11.1による。
(イ) 孔の径は、梁せいの1/3以下とする。
(ウ) 孔の上下方向の位置は、梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい)の範囲には設けてはならない。
(エ) 孔は、柱面から原則として、1.50以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁を除く。
(オ) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
(カ) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
(キ) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。
(ク) 溶接金網の余長は、1倍以上とし、突出しは10mm以上とする。
(ケ) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 1-13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
(コ) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
(サ) 他の開孔を設けない範囲は、図11.3による。

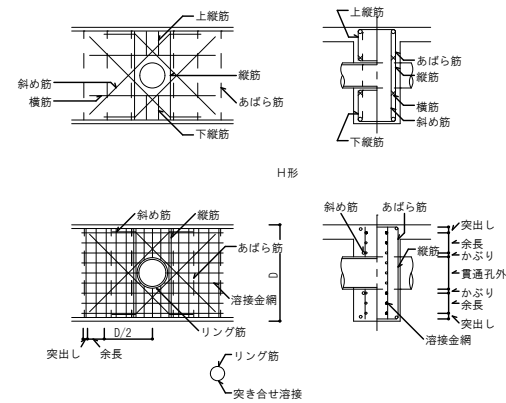


図11.1 梁貫通孔補強筋の名称等

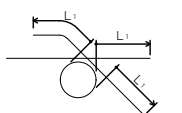


図11.2 補強筋の定着長さ

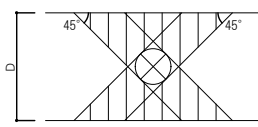


図11.3 他の開孔を設けない範囲

- (2) 梁貫通孔の補強形式は表11.1~表11.2により、配筋種別は設計図による。

表11.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1		なし			
H2	2-2-D13		なし	なし	
H3	4-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16		2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16				
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22				

(注) — — は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.2 M形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1			なし	
MH2	2-2-D13		なし	
MH3	2-2-D13			
MH4	4-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100#	
MH5	4-2-D16			
MH6	4-2-D16			
MH7	4-2-D19	4-2-D13	2-6φ-100#	

(注) — — は、一般部分のあばら筋を示す。

11.2 コンクリートブロック横壁との取合い

- (1) 控壁は、次による。
(ア) 控壁の配置は、設計図による。
(イ) 配筋は、図11.4による。

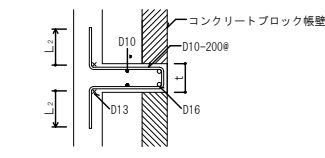


図11.4 控壁の配筋(水平、垂直とも)

- (2) 横壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11.5による。

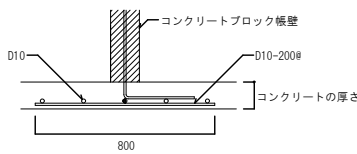


図11.5 壁付き土間コンクリートの補強配筋

11.3 バラベットの

バラベットの先端補強筋は図11.6により、コンクリート厚さ及び配筋は構造図による。

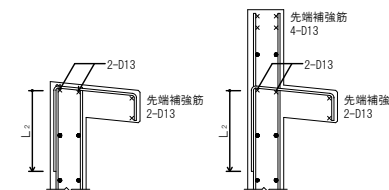


図11.6 バラベットの先端補強筋

12 擁壁

宅地造成等規制区域外での高さ2m以下の擁壁の鉄筋の定着長さは図12により、コンクリートの厚さ及び配筋は構造図による。

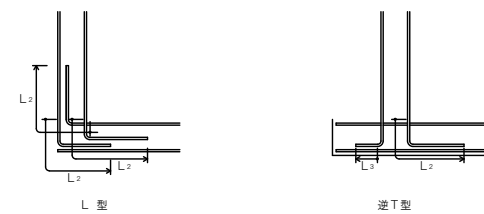
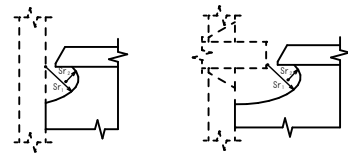


図12 擁壁の鉄筋の定着長さ

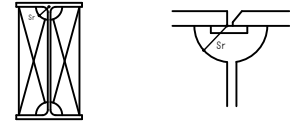
整理番号	注記	設計年月日	工事名称
	KBM1(校舎FL): GL±0 (TP30.00) KBM2(樹天端): GL+1000 (TP31.00) KBM3(北東側市道): TP30.82 (GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H3089M-8(31.672 TP)を使用	2026.03	新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事
	設計GL: GL+1000 (TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1FL: GL+300 (TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位: TP※(GL-※)		図面名称
	校舎1FL: GL±0 (TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 (校舎FLより)		構造関係共通図(配筋標準図・その4)

縮尺	A1= NS A3= NS
----	------------------

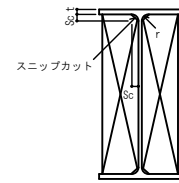
(4) スクラップ
改良型スクラップ
(ア) スクラップ半径 Sr_1 は35mmとする。 Sr_2 は10mmとする。
(イ) スクラップ内弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。



従来型スクラップ
スクラップ半径 Sr は35mmとする。



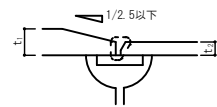
(5) スニップカット
(ア) スニップカット部は溶接により埋めるものとする。



(イ) スニップカットの寸法は、下表による。ただし、既製形鋼のスニップカットについては、 $Sc=r+2t$ により求めるものとする。

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

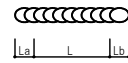
(6) 溶接部分の段差
完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段差が10mmを超える場合、又は低応力高サイクル疲労を受ける場合



1-5 重ねアーク溶接（フレア溶接）を行う場合の溶接長さ

鉄筋又は軽量形鋼に重ねアーク溶接（フレア溶接）を行う場合の溶接長さ（L）は、ビードの始点（La）及びクレーター（Lb）を除いた部分の長さとする。

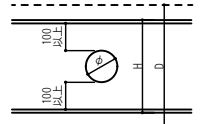
L：片面フレア溶接の場合 10d
両面フレア溶接の場合 5d
La及びLbは1d（軽量形鋼については1S）以上
d：異形鉄筋の呼び名に用いた数値
S：溶接のサイズ



1-6 梁貫通孔補強

(1) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部に貫通孔を設ける場合は、次による。
(ア) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せい H の1/2以下かつ鉄筋コンクリート梁せいの1/3以下とする。
(イ) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。

梁貫通孔の位置の限度（単位：mm）

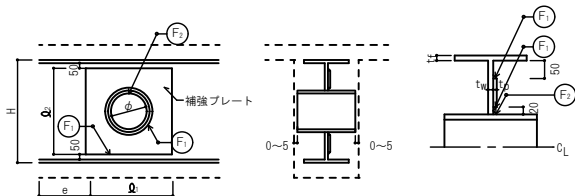


H：鉄骨せい
D：はりせい
 ϕ ：貫通孔内径寸法
($\phi \leq H/2$ かつ $\phi \leq D/3$)

(2) 貫通孔の補強方法は、構造図による。
補強プレート法及び補強トラス法の溶接等は、以下による。

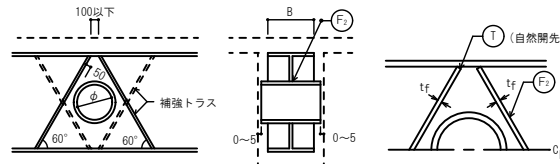
補強プレート法

(ア) 補強プレートが16mm以上となる場合は、必要な長さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。
(イ) 補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。

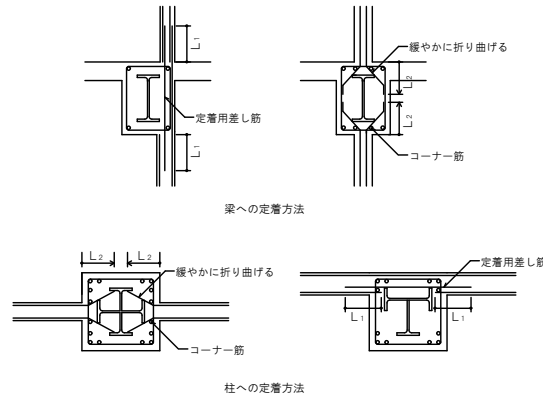


Ω は3 ϕ または Ω_2 のうち小さい方とする。（ $e \geq H$ とする）
e：材端と補強プレートの間隔

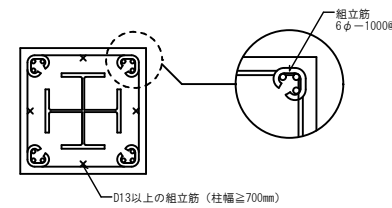
補強トラス法
スリーブの取付けは、全周隅肉溶接とする。



1-7 壁筋の周辺部材への定着

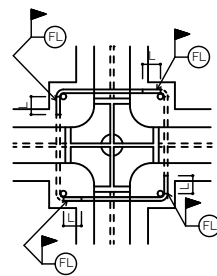


1-8 柱組立筋



1-9 仕口部内の帯筋の加工及び組立

片面溶接の溶接長さ（L）は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135°曲げフックとする。

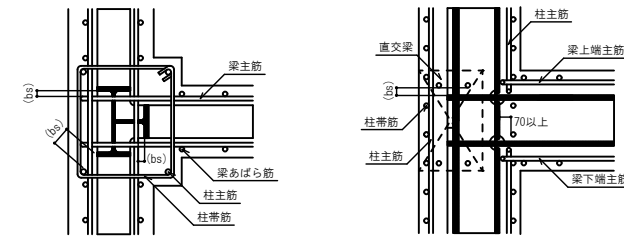


1-10 鉄筋貫通孔の径及び位置

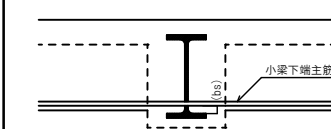
(a) 鉄筋貫通孔の径
鉄筋の貫通孔径の最大値は、下表による。

鉄筋の呼び名	（単位：mm）							
	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46

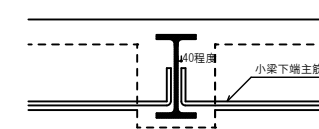
(b) 鉄筋貫通孔の位置
鉄骨フランジには、鉄筋貫通孔を設けないものとする。



小梁下端主筋が貫通する場合



小梁下端主筋が貫通しない場合（単位：mm）



(bs)：主筋と平行する鉄骨とのあき

1-11 広幅平鋼の取り扱ひについて

(a) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スライスプレートは、PL表記であってもFB又はPLとする。
(b) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スライスプレートの適用幅及び厚さは下表による。

幅	厚さ										
	6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40
100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
300	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
350	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
400	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
450	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
500	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

1-12 普通ボルト接合

もや、鋼線類の取付け用ボルトを普通ボルト接合とする場合は、二重ナットとする。

1-13 その他

(a) フィラープレートの材質
フィラープレートを使用する場合、材質はSS400とする。

整理番号	注記
	<p>KBM1(校舎FL)：GL±0(TP30.00) KBM2(樹天端)：GL+1000(TP31.00) KBM3(北東側市道)：TP30.82(GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H508M-8(31.672 TP)を使用</p> <p>設計GL：GL+1000(TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1FL：GL+300(TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高：1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位：TP※(GL-※)</p> <p>校舎1FL：GL±0(TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高：1F-3500/2F-3500/3F-3465(校舎FLより)</p>

設計年月日	工事名称
2026.03	新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事
縮尺	図面名称
A1= NS A3= NS	構造関係共通図（鉄骨標準図・その2）

GI コラム-S 工法 特記仕様書

1 工法概要

本地業はGIコラム工法による地盤改良地業であり、スラリー状のセメント系固化材を地中に注入しながら、GI コラム-S工法専用の攪拌翼（供回り防止翼付の6枚翼）を装備した攪拌ヘッド（攪拌装置）を用いて、現地盤を機械的に混合攪拌し、固化材の化学反応により所要の強度を持つ改良体を築造する工法である。

2 一般事項

- (1) 本工法は「建築技術性能認証委員会」にて証明された技術性能証明取得工法（GBRC 性能証明 第18-01号）とする。
- (2) 本工事は本特記仕様書によるほか、「2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（財団法人 日本建築センター 以下指針という）による。

3 特記事項

- (1) 本工事は、本工法の施工技術に精通し、GIコラム-S工法委員会に所属する指定施工会社が施工するものとする。
- (2) コラムの径、掘削深度（改良長+空堀長）、本数配置等は、設計図書による。
- (3) コラムの改良強度

設計基準強度は $FC = 1100 \text{ kN/m}^2$ とする。

4 施工

- (1) 実施コラム長は、設計図書で示された長さとする。
- (2) 現設計との相違が予想されたり、発生した場合、監督員との協議を行う。

5 施工機器

- (1) GIコラム-S工法専用の攪拌翼が装備された攪拌ヘッドを用いること。
- (2) 所定の施工管理項目の計測及び記録ができる管理装置を用いること。
- (3) 改良機本体はYBM製のGI-50C, GI-80C, GI-130C及びGI-220Cを標準とし、リーダー付きで自走式であること。
- (4) スラリープラントのスラリーミキサーは所定吐出量を十分供給できる能力を有し、圧送ポンプはスラリー吐出量を制御できる機能を備えたものとする。

6 配合試験及び配合管理

- (1) 使用する固化材は、セメント又はセメント系固化材とする。
- (2) 改良体施工に先立ち、改良対象土による室内配合試験を実施し、所定の強度を満足する固化材添加量、セメント水比を決定する。

※使用する固化材は、六価クロム溶出試験の実施により、六価クロム等の土壌環境基準に適合することを確認するとともに、試験結果（計量証明書）を提出するものとする。

- (3) 配合強度 Xf は、設計基準強度 FC と変動係数 α 及び採取箇所数 N により、割増係数 αt を用いて、次式による。
 $Xf = \alpha t \times FC$ 2109.8 kN/m^2 採取箇所数:2, 合格率80%の場合
 割増係数 αt は下表による。（変動係数：25%）

採取箇所数 N	1	2	3	4~6	7~8	9~	
割増係数	合格率80%	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594
係数	合格率95%	2.900	2.301	2.090	1.907	1.799	1.718

- (4) 室内配合強度

室内配合強度 XI は次式の値とする。

$$XI = Xf / \alpha f1 \quad 3102.6 \text{ kN/m}^2$$

$\alpha f1$: 現場/室内強度比 (=quf/qu1)

quf : 現場平均一軸圧縮強さ

qu1 : 室内配合試験供試体の一軸圧縮強さ

現場室内強度比 $\alpha f1$ は砂質土 $\alpha f1=0.72$ 、粘性土 $\alpha f1=0.68$ とする。

- (5) 固化材液の配合及び使用量

固化材添加量	400 kg/m ³
水/固化材比	70 %

※本工法の標準的なセメント水比は60~100%である。

7 施工管理

施工過程における各項目の管理方法は施工管理装置モニターに表示され、次の通りとする。

- ・コラムの鉛直度 : 傾斜計で管理する。
- ・固化材スラリーの吐出量 : 流量計で計測し記録する。
- ・掘進速度 : 速度計で計測し記録する。
- ・回転数 : 回転計で計測し記録する。
- ・掘削深度 : 深度計で計測し記録する。
- ・改良体先端層 : トルク計で測定し記録する。

8 品質管理

- (1) 調査箇所数（検査手法A）

	設計対象層が天端部		設計対象層が深部
	改良長 L < 2 m、かつ改良対象層が単一層	改良長 L > 2m、または改良対象層が複数層	
天端部コア	50コラムに1箇所以上、かつ、1検査対象群に、1箇所以上	100コラムに1箇所以上、かつ、1検査対象群に1箇所以上	
ポーリングコア（全長コア）	1検査対象群に1箇所以上		

※頭部管理試験は 1箇所あたり 3個のコア採取を標準とする。

※深度方向管理試験は、設計対象層毎に採取したコアを用いる。

- (2) 合否の判定

① 各々の設計対象土質での採取箇所数を N （1箇所当り3個の供試体）とし、一軸圧縮試験より採取箇所毎の平均強度を求める。

② 一軸圧縮試験は第三者で行うものとする。

③ 検査手法 A1による品質検査

合否の判定は設計対象層における N 箇所（抜き取り箇所）の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格とする。

$$XN \geq XL = FC + Ka \times \sigma d = FC + Ka \times [FC \times Vd / (1 - 1.3Vd)]$$

XN : N 箇所の一軸圧縮強さの平均値

XL : 合格判定値 $X L \quad 1793 \text{ kN/m}^2$

FC : 設計基準強度

Ka : 合格判定係数

σd : 標準偏差

Vd : 変動係数、品質確認書より想定する。

		合格判定係数					
採取箇所数 N	K a	1	2	3	4~6	7~8	9~
合格判定係数	K a	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

GIコラム-S工法（GBRC性能証明 第18-01号 改1）

株式会社 西尾技建

関東支店

東京都台東区浅草橋一丁目12-3 浅草橋KSビル4階

TEL: 03-5823-4098

FAX: 03-5823-4099

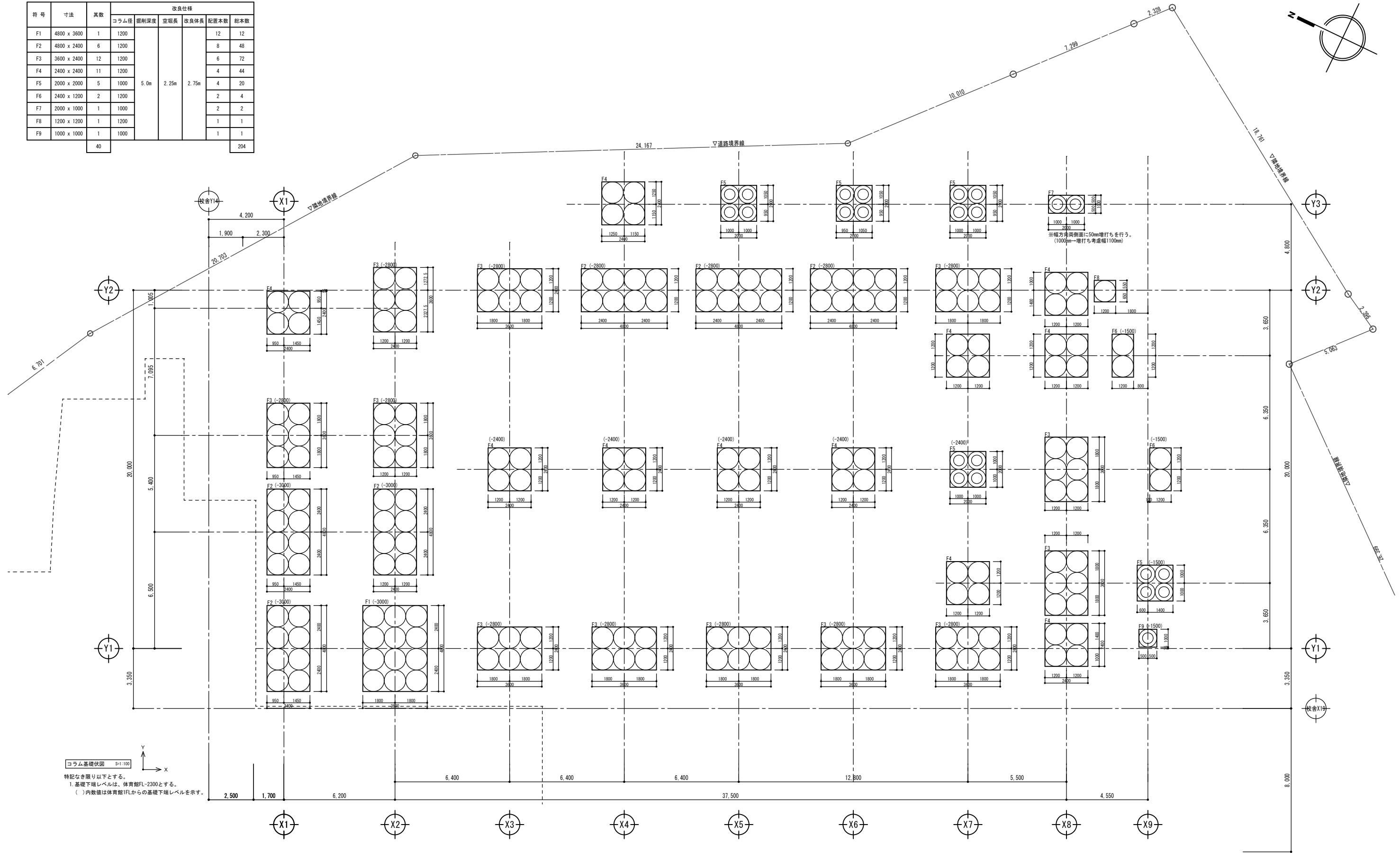
整理番号	注記	KBM1(校舎FL): GL±0(TP30.00) KBM2(樹天端): GL+1000(TP31.00) KBM3(北東側市道): TP30.82(GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H308B-8(31.672 TP)を使用
	設計GL: GL+1000(TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1FL: GL+300(TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位: TP※(GL-※)	
	校舎1FL: GL±0(TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465(校舎FLより)	

設計年月日	2026.03	工事名称	新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事
縮尺	A1= N. S A3= N. S	図面名称	GIコラム-S工法 特記仕様書

杭工法 G1コラム-S工法 (GBRC性能証明 第18-01号)
 Fc設計基準強度 Fc=1100kN/m²

柱内訳

符号	寸法	異数	改良仕様				総本数
			コラム径	掘削深度	空堀長	改良体長	
F1	4800 x 3600	1	1200	5.0m	2.25m	2.75m	12
F2	4800 x 2400	6	1200				8
F3	3600 x 2400	12	1200				6
F4	2400 x 2400	11	1200				4
F5	2000 x 2000	5	1000				4
F6	2400 x 1200	2	1200				2
F7	2000 x 1000	1	1000				2
F8	1200 x 1200	1	1200				1
F9	1000 x 1000	1	1000				1
							204



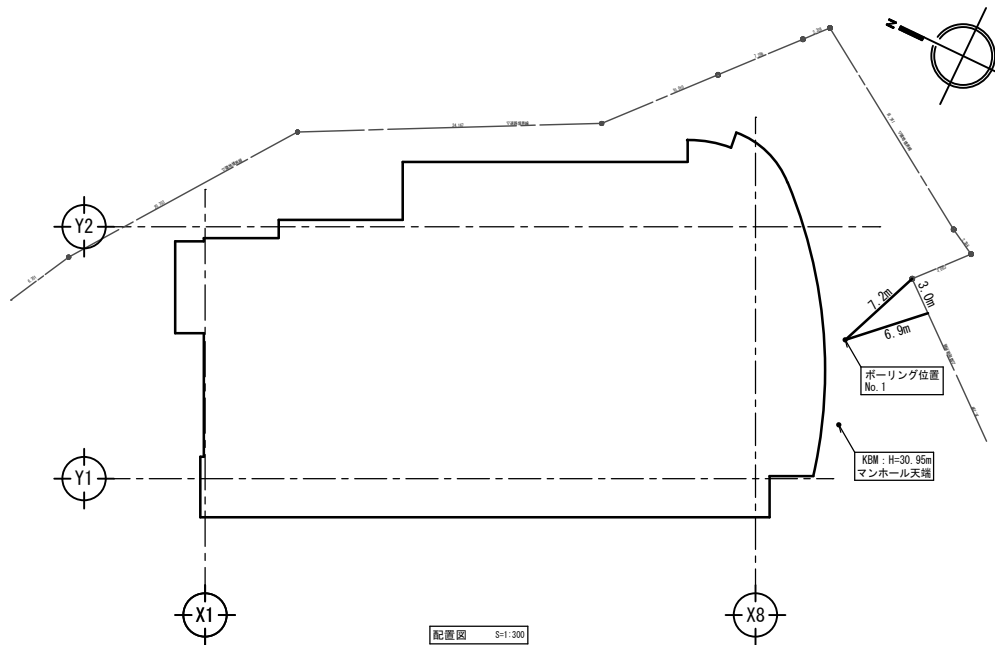
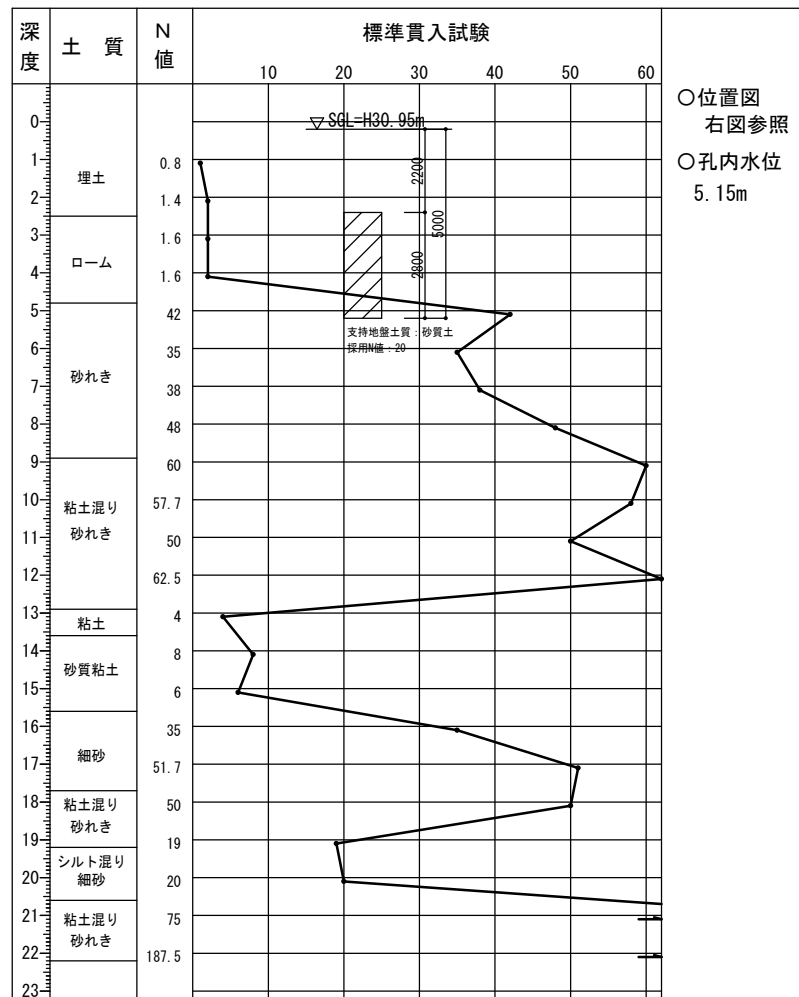
コラム基礎伏図 S=1/100

特記なき限り以下とする。
 1. 基礎下地レベルは、体育館FL-2300とする。
 ()内数値は体育館1FLからの基礎下地レベルを示す。

整理番号	注記	設計年月日 2026.03	工事名称 新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事	縮尺 A1= 1/100 A3= 1/200
	KBM1 (校舎1FL): GL±0 (TP30.00) KBM2 (樹天端): GL+1000 (TP31.00) KBM3 (北東側市道): TP30.82 (GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H309B-8(31.672 TP)を使用 設計GL: GL+1000 (TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1FL: GL+300 (TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位: TP※(GL-※) 校舎1FL: GL±0 (TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 (校舎FLより)			
図面名称 コラム基礎伏図		S-10		

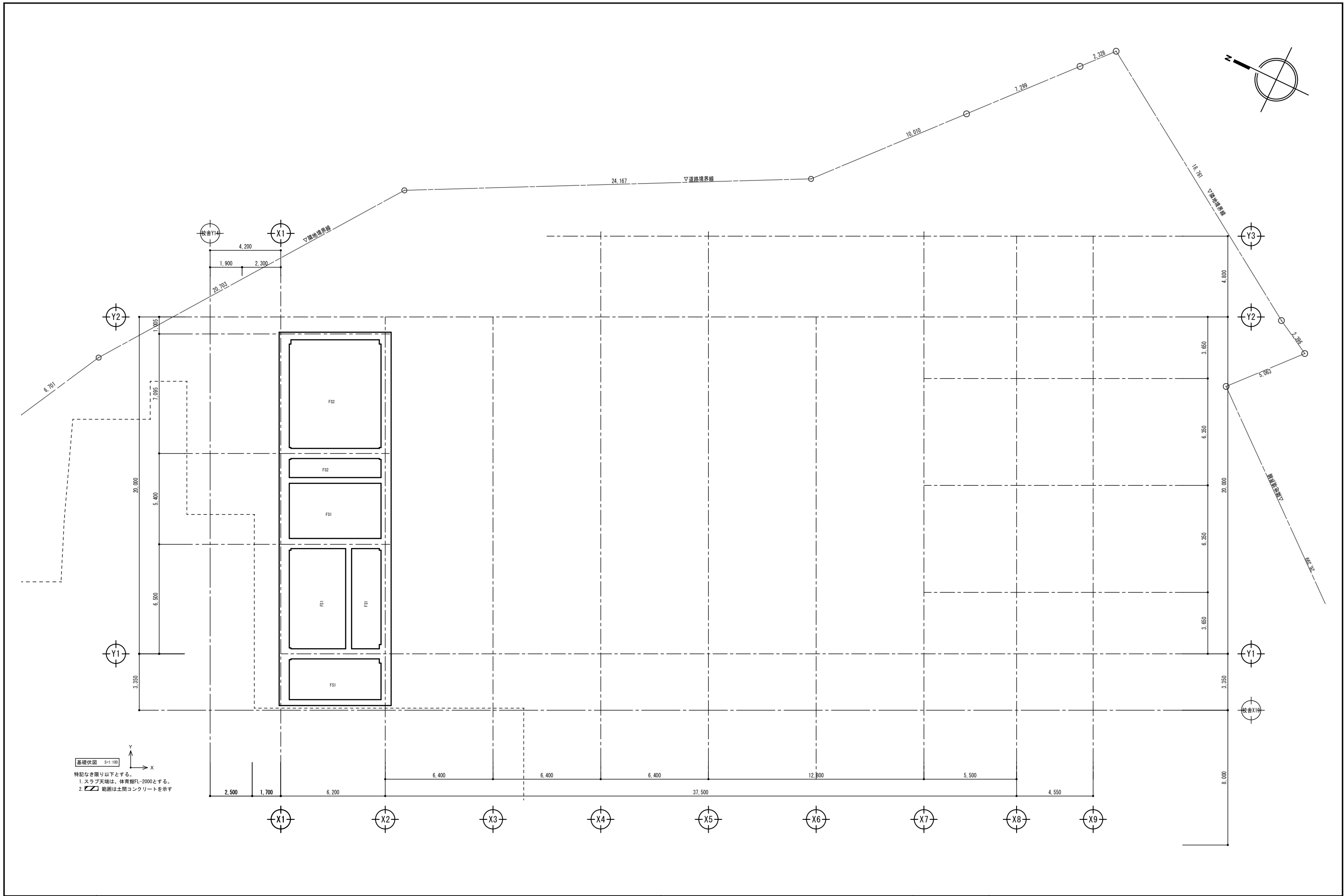
ボーリング標準貫入値、土質構成

NO. 1



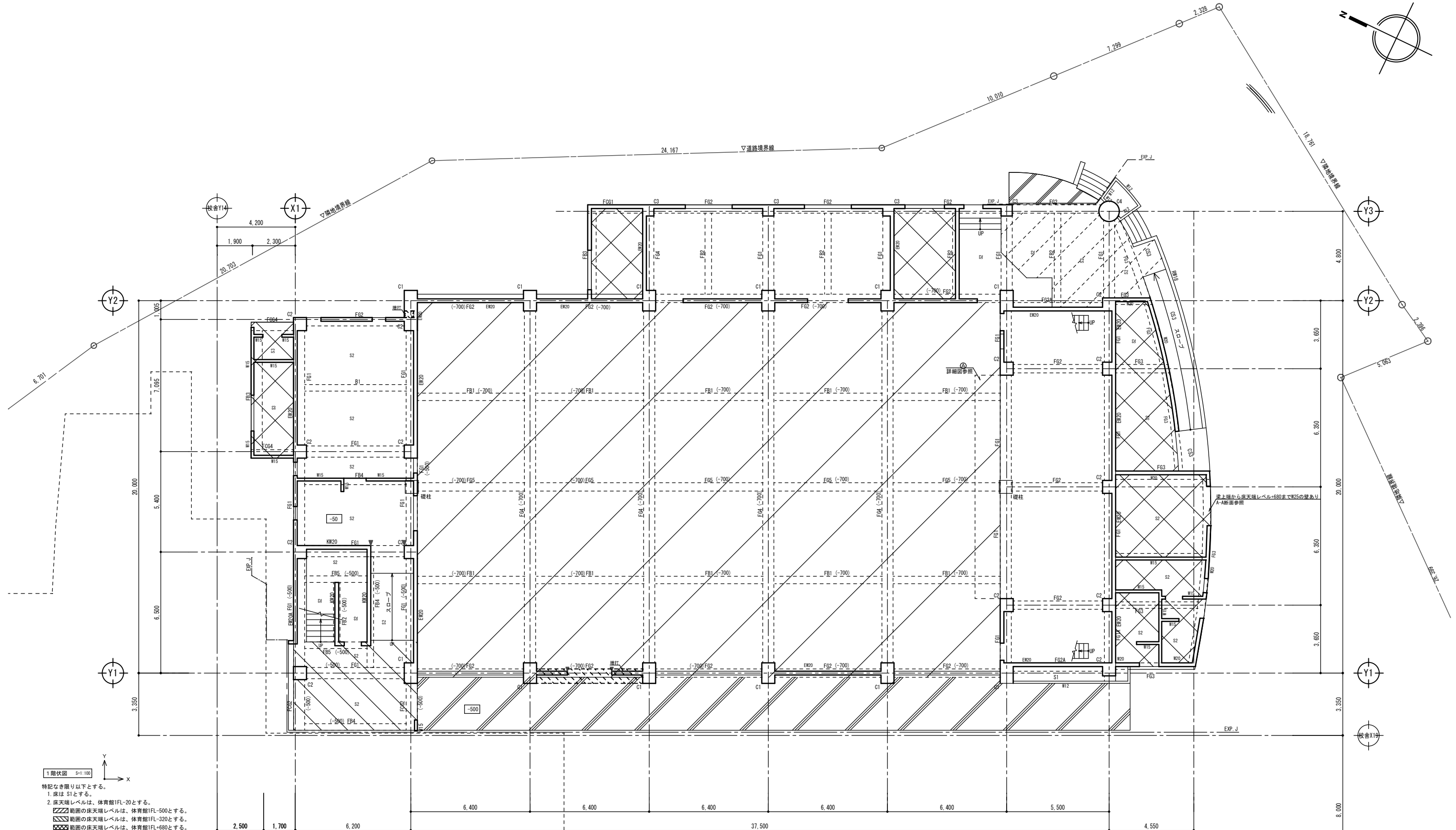
整理番号 注記
 KBM1(校舎FL): GL±0 (TP30.00) KBM2(樹天端): GL+1000 (TP31.00) KBM3(北東側市道): TP30.82 (GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H308M-8(31.672 TP)を使用
 設計GL: GL+1000 (TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1FL: GL+300 (TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位: TP※(GL-※)
 校舎1FL: GL±0 (TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 (校舎FLより)

設計年月日 2026.03
 工事名称 新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事
 図面名称 ボーリング柱状図・位置図
 縮尺 A1= 1/300 A3= 1/600



基礎伏図 S=1:100
 特記なき限り以下とする。
 1. スラブ天端は、体育館FL-2000とする。
 2. 範囲は土間コンクリートを示す

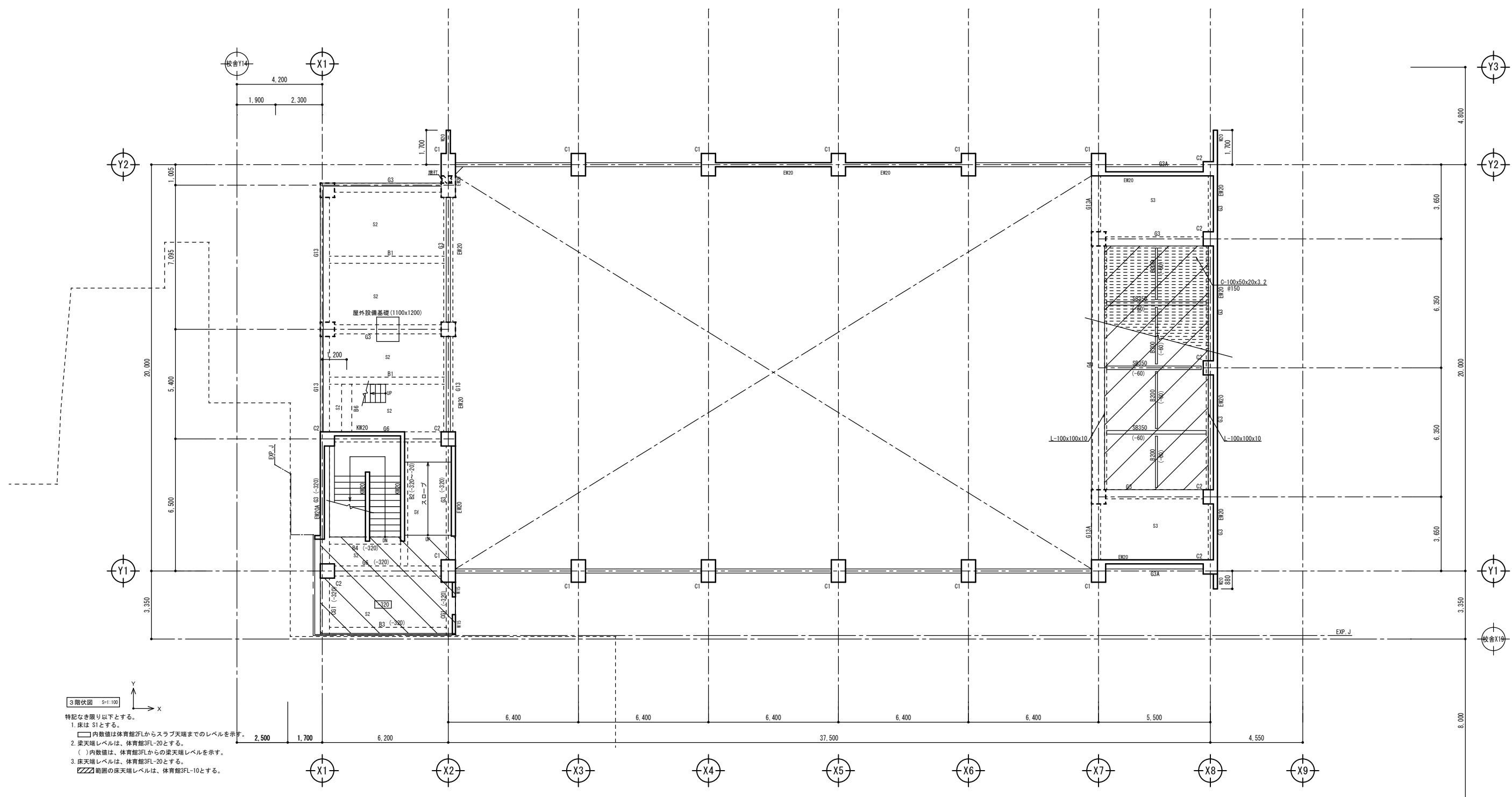
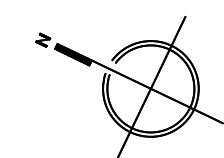
整理番号	注記	KBM1(校舍FL): GL±0(TP30.00) KBM2(樹天端): GL+1000(TP31.00) KBM3(北東側市道): TP30.82(GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H508M-8(31.672 TP)を使用	設計年月日	2026.03	工事名称	新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事	S-11
		設計GL: GL+1000(TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1FL: GL+300(TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位: TP※(GL-※)	縮尺	A1= 1/100 A3= 1/200	図面名称	基礎伏図	
		校舍1FL: GL±0(TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465(校舍FLより)					



1階伏図 S=1/100

- 特記なき限り以下とする。
- 床は S1 とする。
 - 床天端レベルは、体育館1FL-20とする。
 - 範囲の床天端レベルは、体育館1FL-500とする。
 - 範囲の床天端レベルは、体育館1FL-320とする。
 - 範囲の床天端レベルは、体育館1FL-680とする。
 - 範囲の床天端レベルは、体育館1FL-700とする。
 - 範囲の床天端レベルは、体育館1FL-700~40とする。
 - 範囲は土間コンクリートを示す。
 - 内数値は、体育館1FLからのスラブ天端レベルを示す。
 - 基礎梁天端は、体育館1FL-200 (GL+100) とする。
 - 内数値は、体育館1FLからの基礎梁天端レベルを示す。
 - スロープ立上り壁はRW18とし、頂部レベルは体育館1FL+700とする。
 - 壁は、W20とする。
 - は増打を示す。
 - は構造スリットを示す。

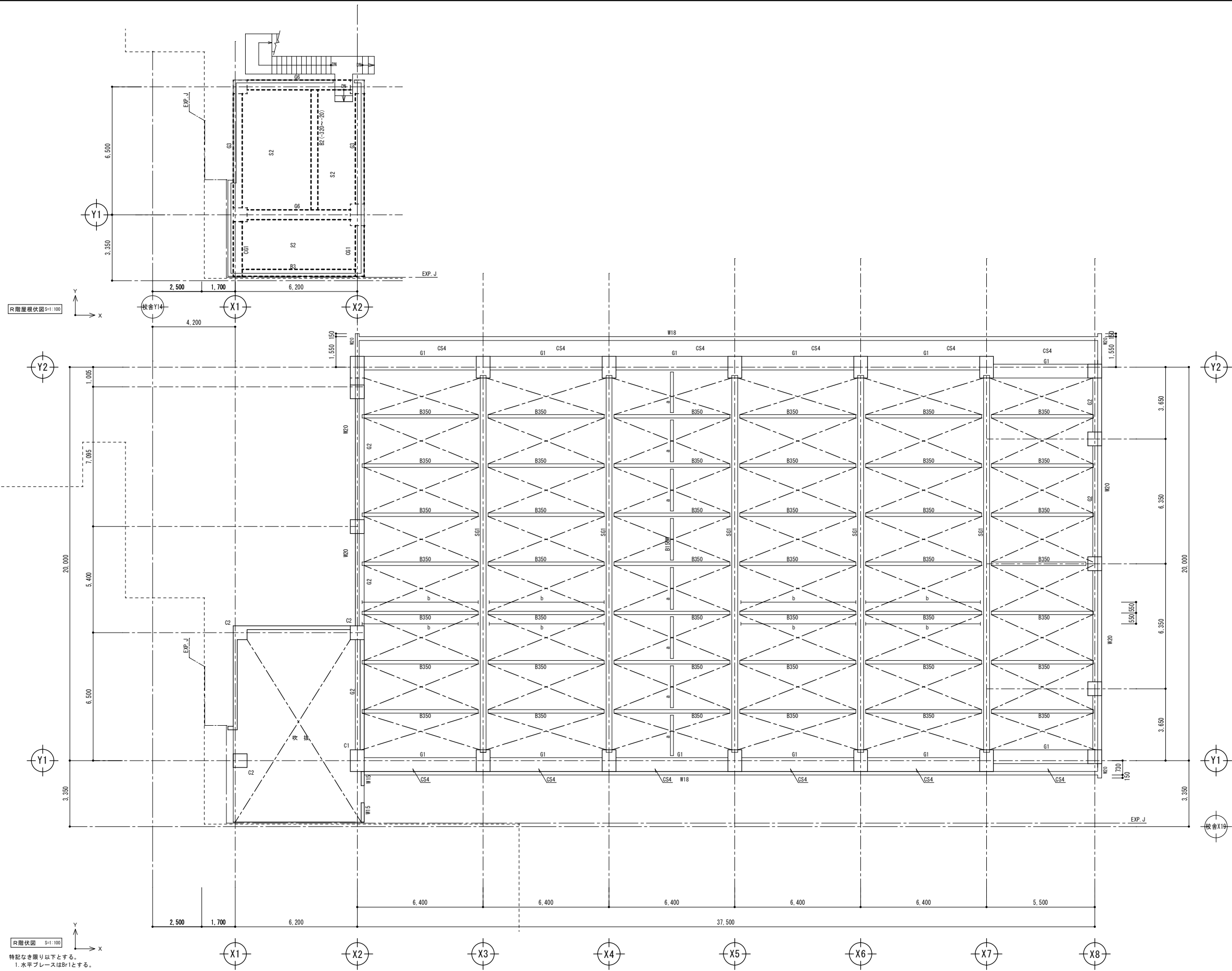
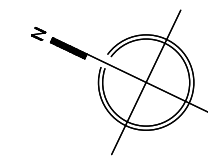
整理番号	注記 KBM1 (校舎1FL): GL±0 (TP30.00) KBM2 (樹天端): GL+1000 (TP31.00) KBM3 (北東側市道): TP30.82 (GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H308M-8(31.672 TP) を使用 設計GL: GL+1000 (TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1FL: GL+300 (TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位: TP※(GL-※) 校舎1FL: GL±0 (TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 (校舎1FLより)	設計年月日 2026.03	工事名称 新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事	縮尺 A1= 1/100 A3= 1/200	S-12



3階伏図 S=1/100

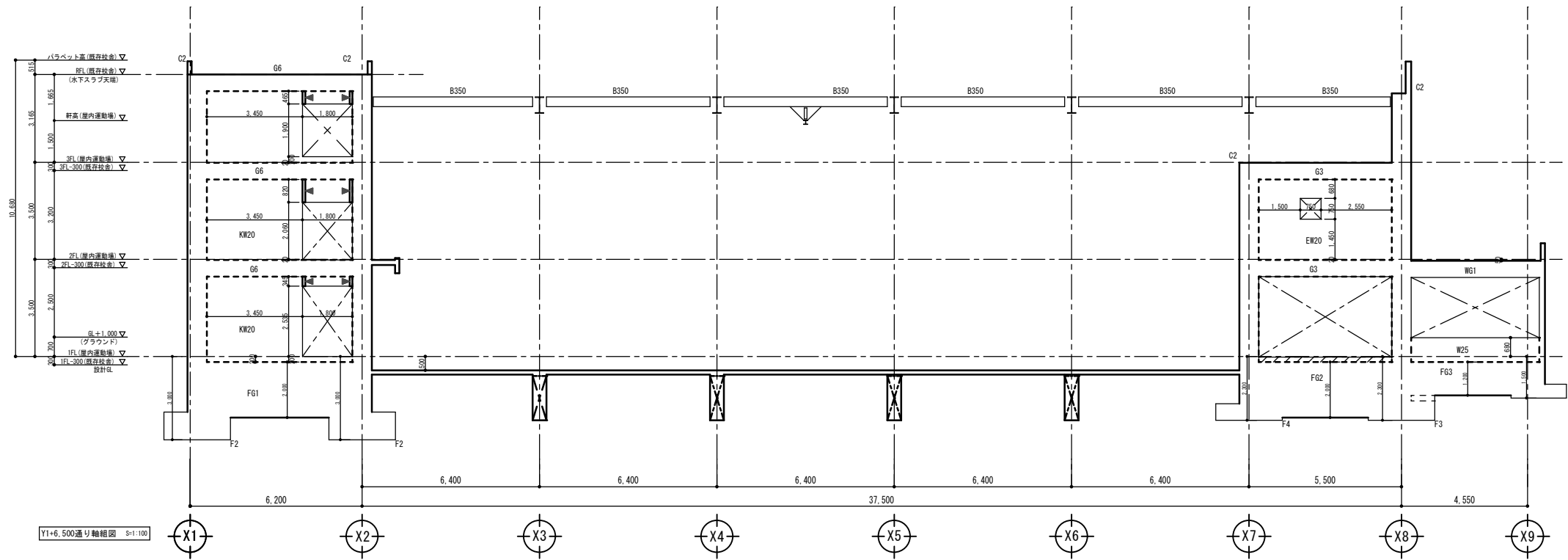
特記なき限り以下とする。
 1. 床は S1とする。
 □内数値は体育館2FLからスラブ天端までのレベルを示す。
 2. 梁天端レベルは、体育館3FL-20とする。
 ()内数値は、体育館3FLからの梁天端レベルを示す。
 3. 床天端レベルは、体育館3FL-20とする。
 ■■■前回の床天端レベルは、体育館3FL-10とする。

整理番号	注記	KBM1 (校舎FL): GL±0 (TP30.00) KBM2 (樹天端): GL+1000 (TP31.00) KBM3 (北東側市道): TP30.82 (GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H308M-8(31.672 TP) を使用	設計年月日	2026.03	工事名称	新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事
		設計GL: GL+1000 (TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1FL: GL+300 (TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位: TP※(GL-※)	図面名称	3階伏図	縮尺	A1= 1/100 A3= 1/200
		校舎1FL: GL±0 (TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 (校舎FLより)				



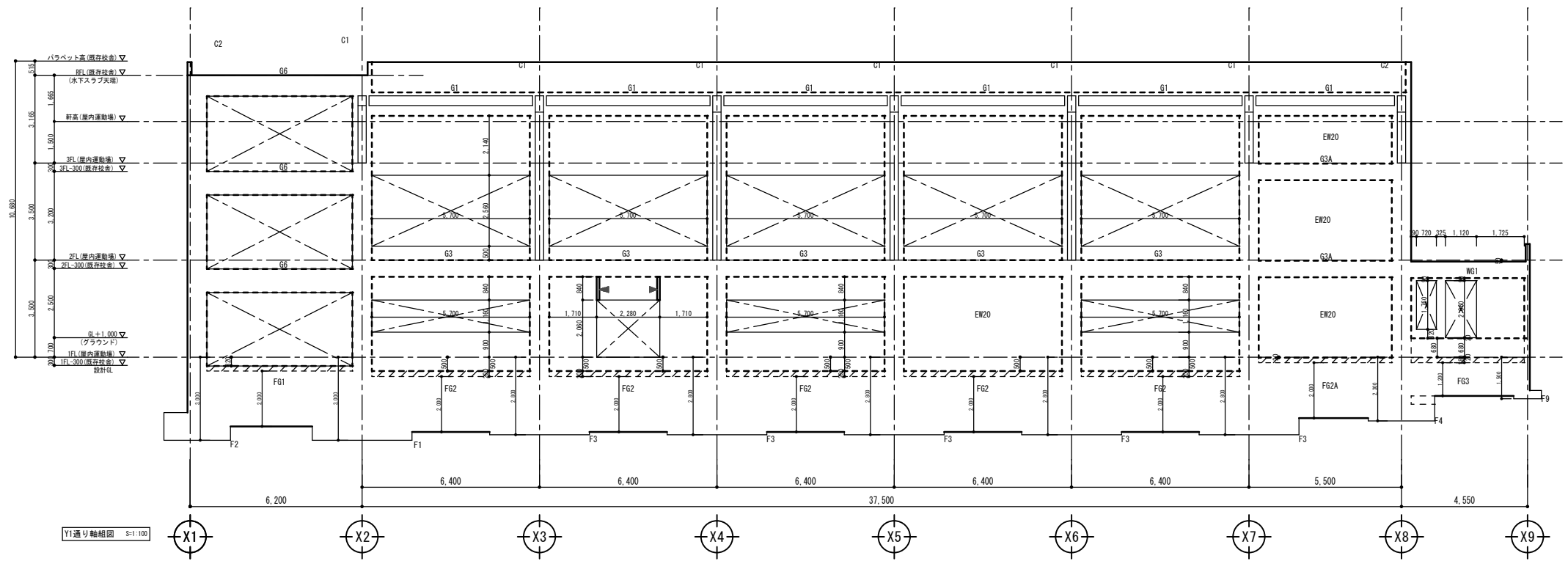
- 特記なき限り以下とする。
1. 水平ブレースはB1とする。
 2. a材は電動防球ネット受 (H=150x150x7x10) を示す (詳細図参照)
 3. b材はバスケットゴール受 (H=250x125x6x9) を示す。S01梁下フランジに取り付く
 4. 壁は、W20とする。

整理番号	注記	設計年月日	工事名称	S-15
	KBM1(校舎FL): GL±0(TP30.00) KBM2(露天場): GL+1000(TP31.00) KBM3(北東側市道): TP30.82(GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H30BM-8(31.672 TP)を使用。	2026.03	新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事	
	設計GL: GL+1000(TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1FL: GL+300(TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位: TP※(GL-※)		図面名称	
	校舎1FL: GL±0(TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465(校舎FLより)		R階伏図	



Y1+6,500通り軸組図 S=1/100

Y1+3650通り軸組図 S=1/100

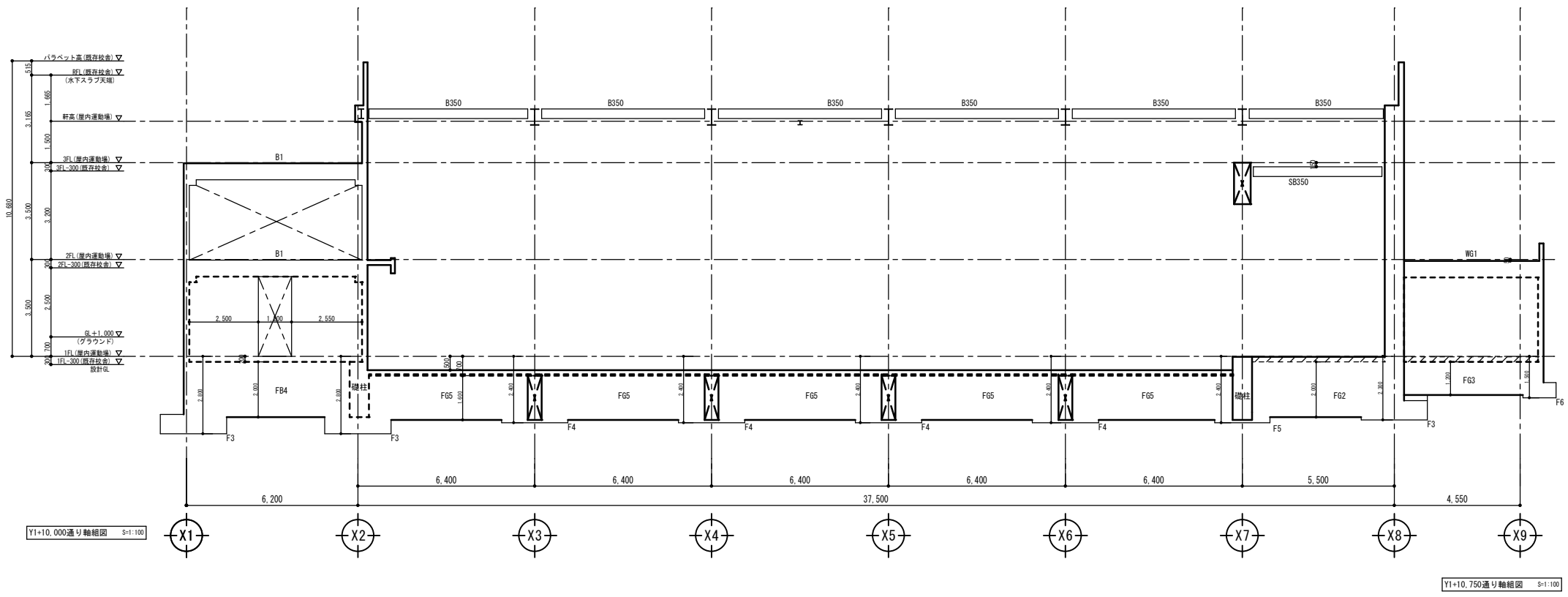
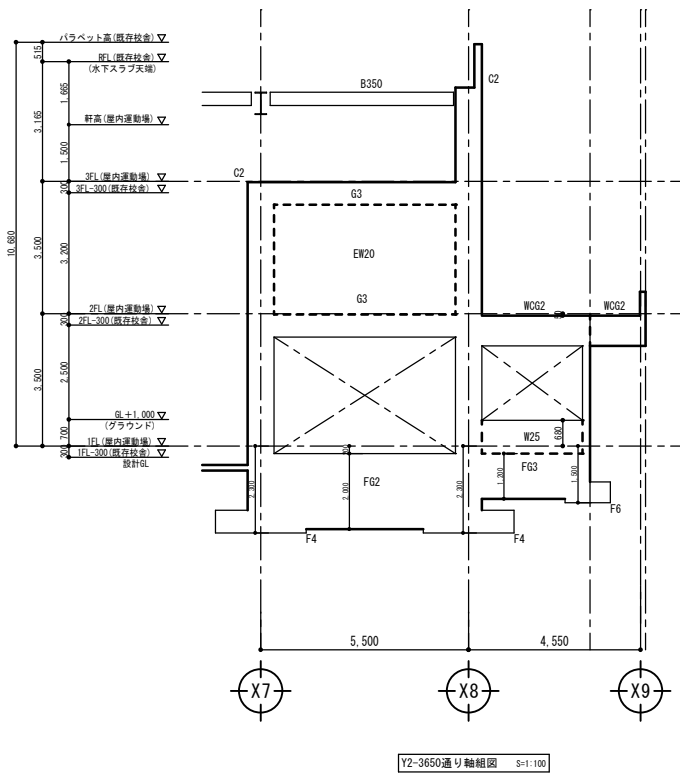
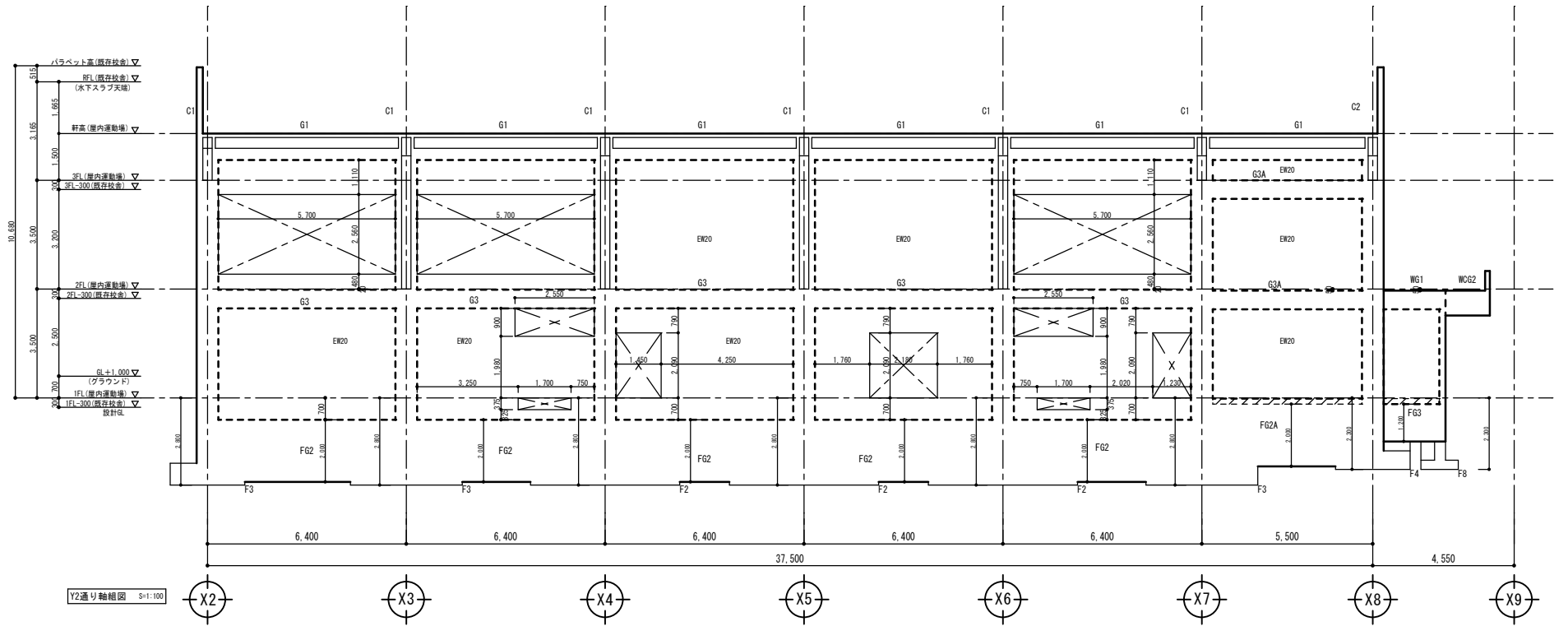
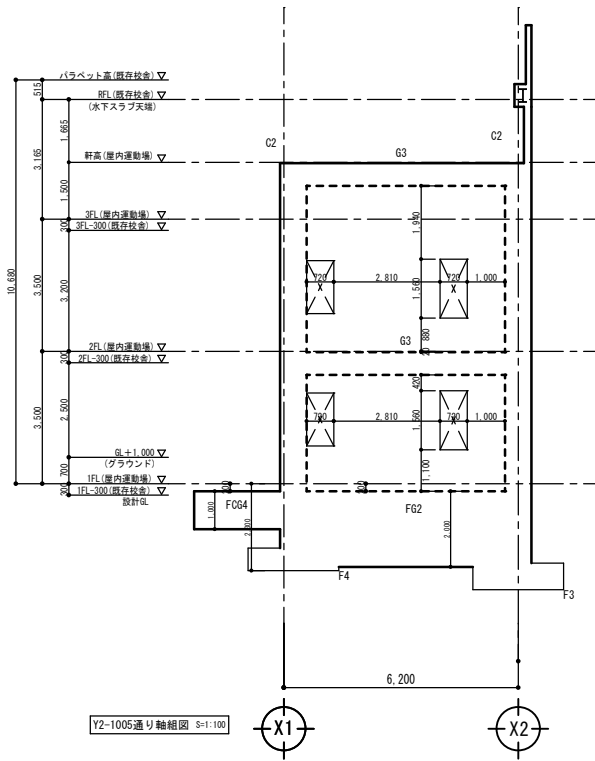


Y1通り軸組図 S=1/100

整理番号	注記	KBM1(校舎FL): GL±0(TP30.00) KBM2(樹天端): GL+1000(TP31.00) KBM3(北東側市道): TP30.82(GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H309B-8(31.672 TP)を使用
		設計GL: GL+1000(TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1FL: GL+300(TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位: TP※(GL-※)
		校舎1FL: GL±0(TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465(校舎FLより)

設計年月日	2026.03	工事名称	新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事
図面名称	軸組図1	縮尺	A1= 1/100 A3= 1/200

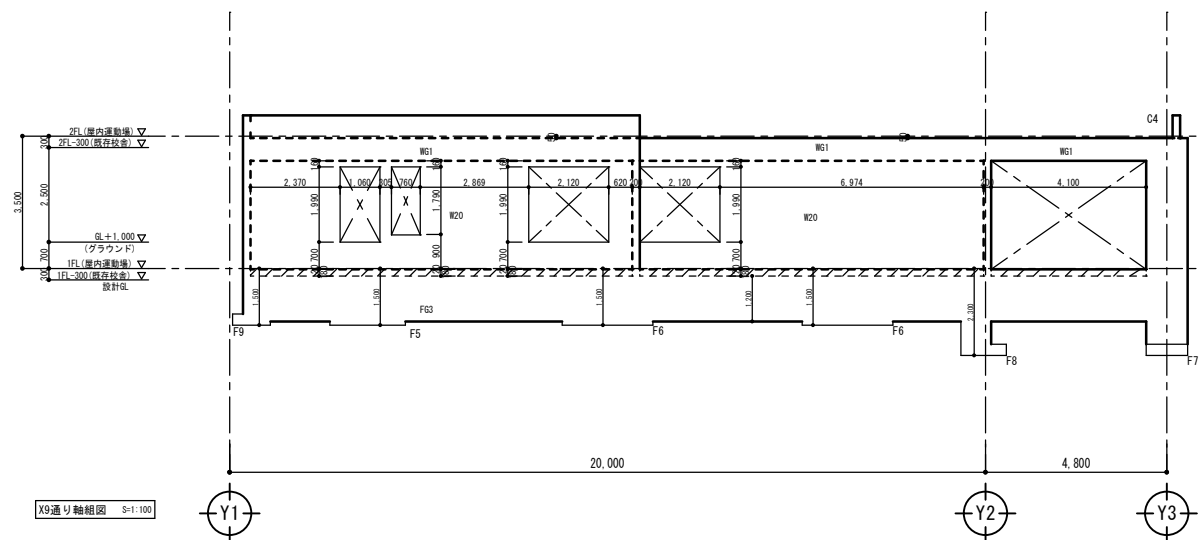
特記なき限り以下とする。
 1. 壁は、W20とする
 2. 門は構造スリットを示す。



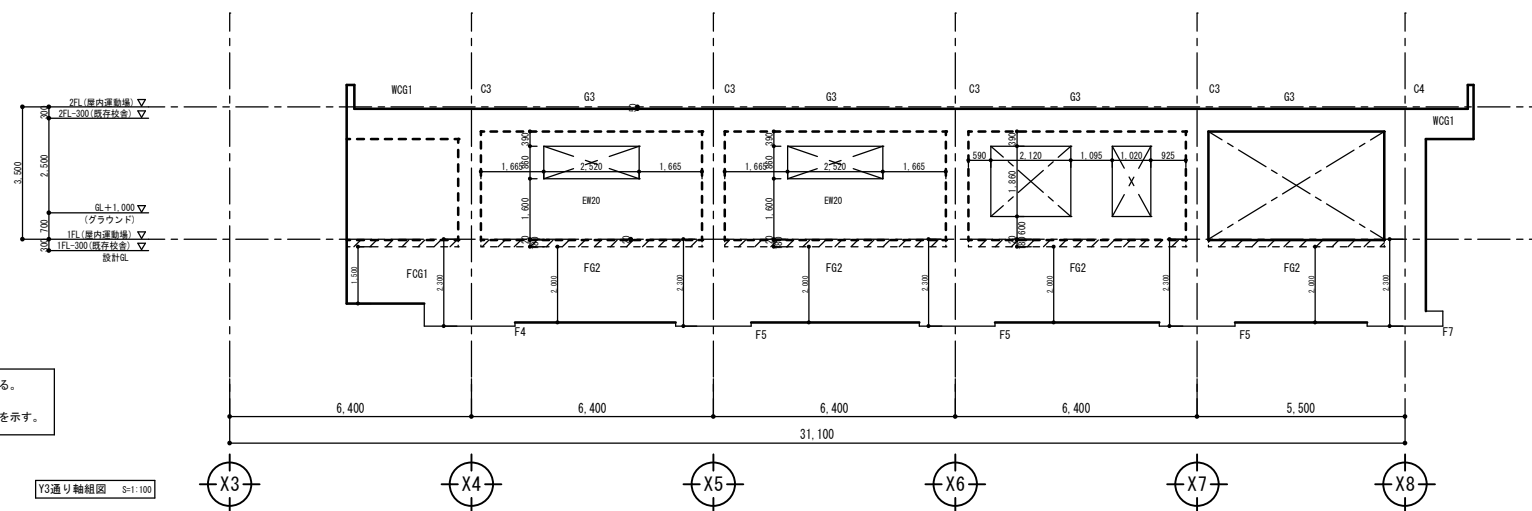
Y1+10,750通り軸組図 S=1/100

整理番号	注記	KBM1(校舎FL): GL±0(TP30.00) KBM2(樹天端): GL+1000(TP31.00) KBM3(北東側市道): TP30.82(GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H308M-8(31.672 TP)を使用
		設計GL: GL+1000(TP31.00) 計画建物【屋内運動場】IFL: GL+300(TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位: TP※(GL-※)
		校舎IFL: GL±0(TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465(校舎FLより)

設計年月日	2026.03	工事名称	新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事
図面名称	軸組図2	縮尺	A1= 1/100 A3= 1/200



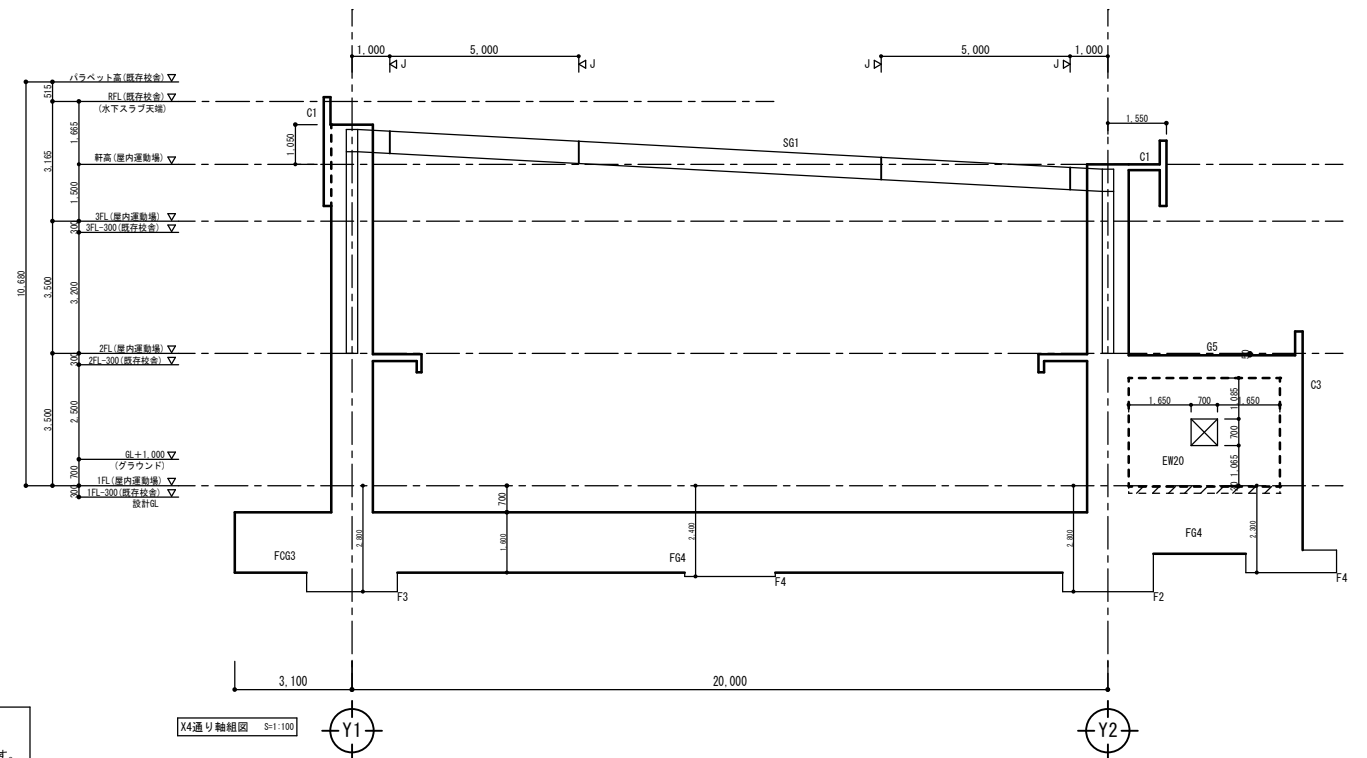
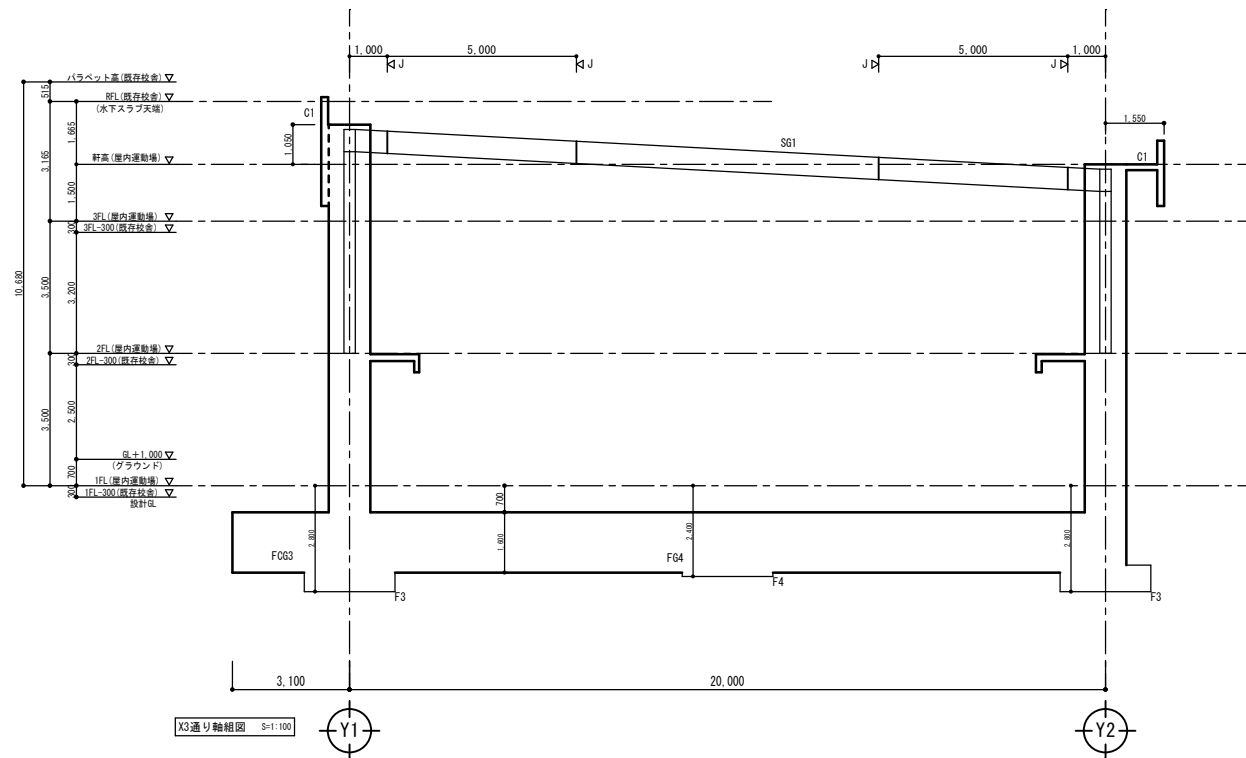
X3通り軸組図 S=1/100



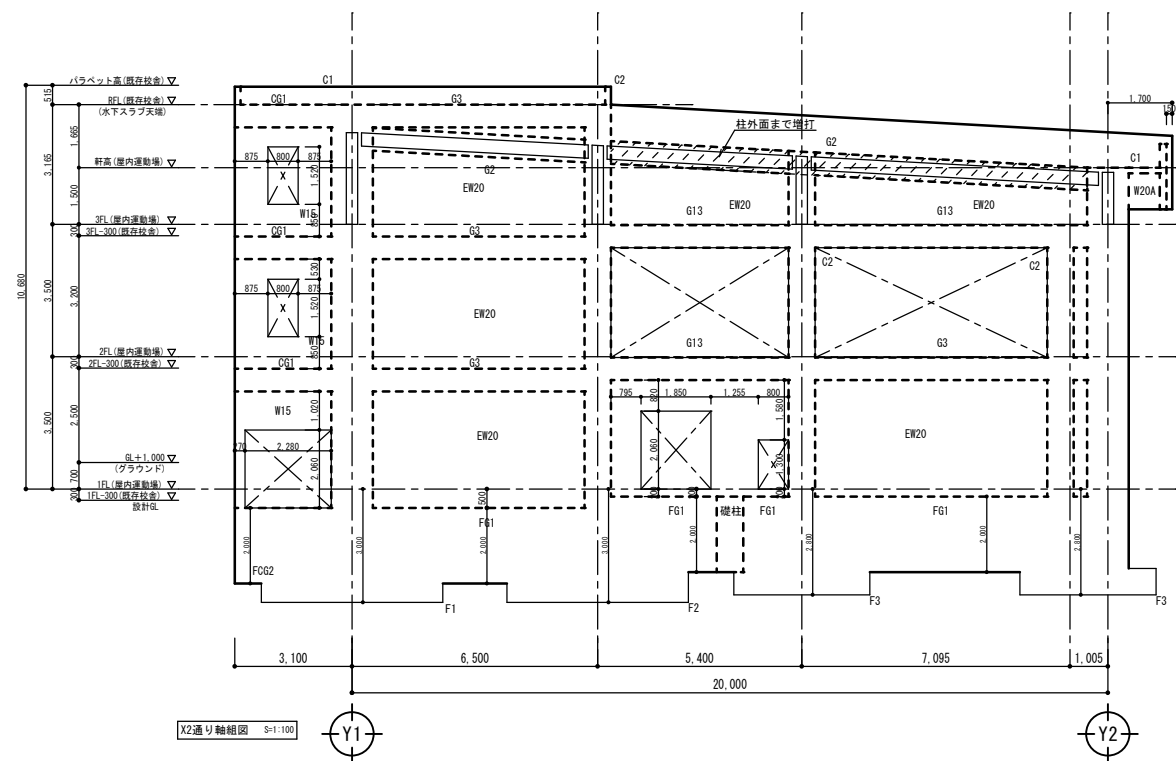
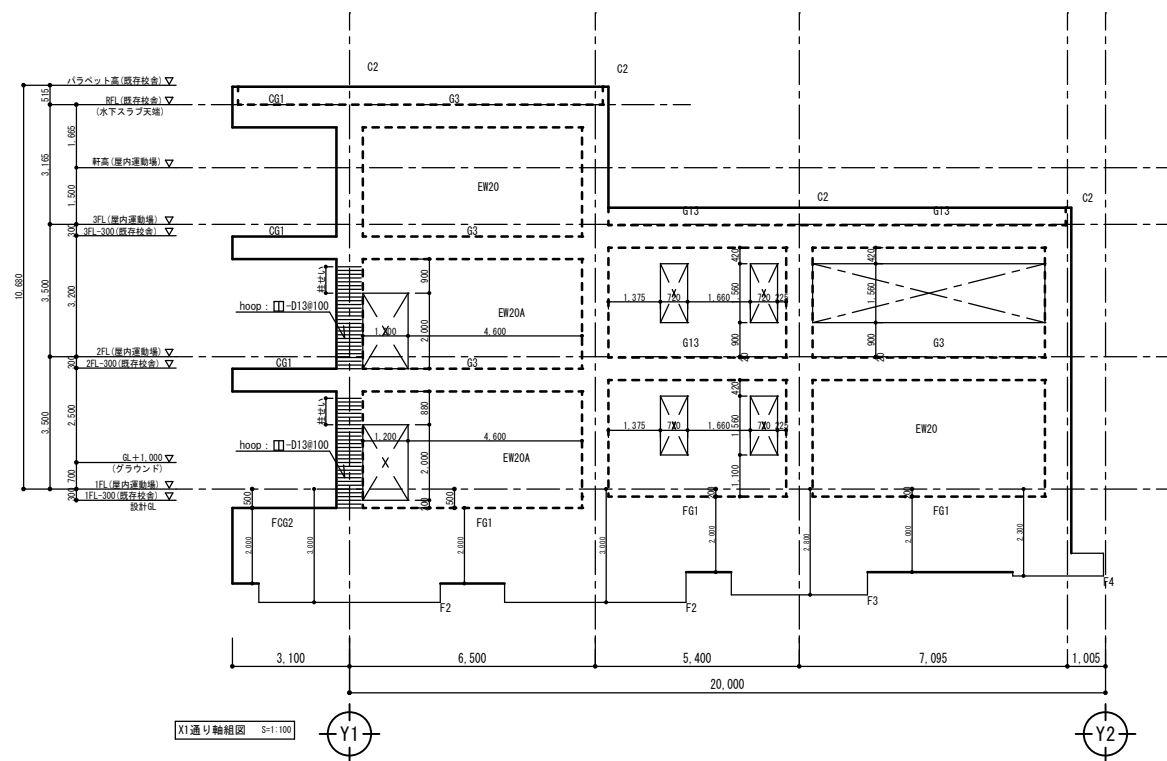
Y3通り軸組図 S=1/100

特記なき限り以下とする。
 1. 壁は、W20とする
 2. 柱は構造スリットを示す。

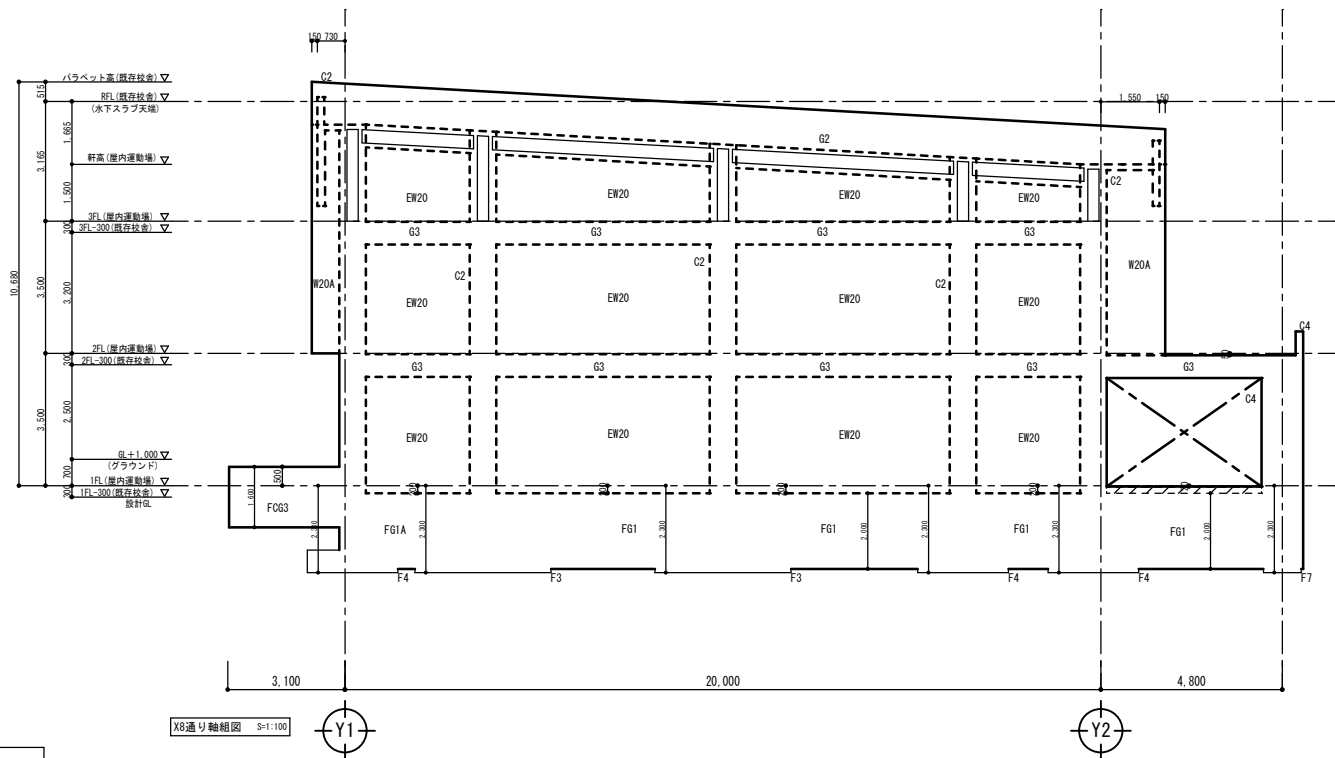
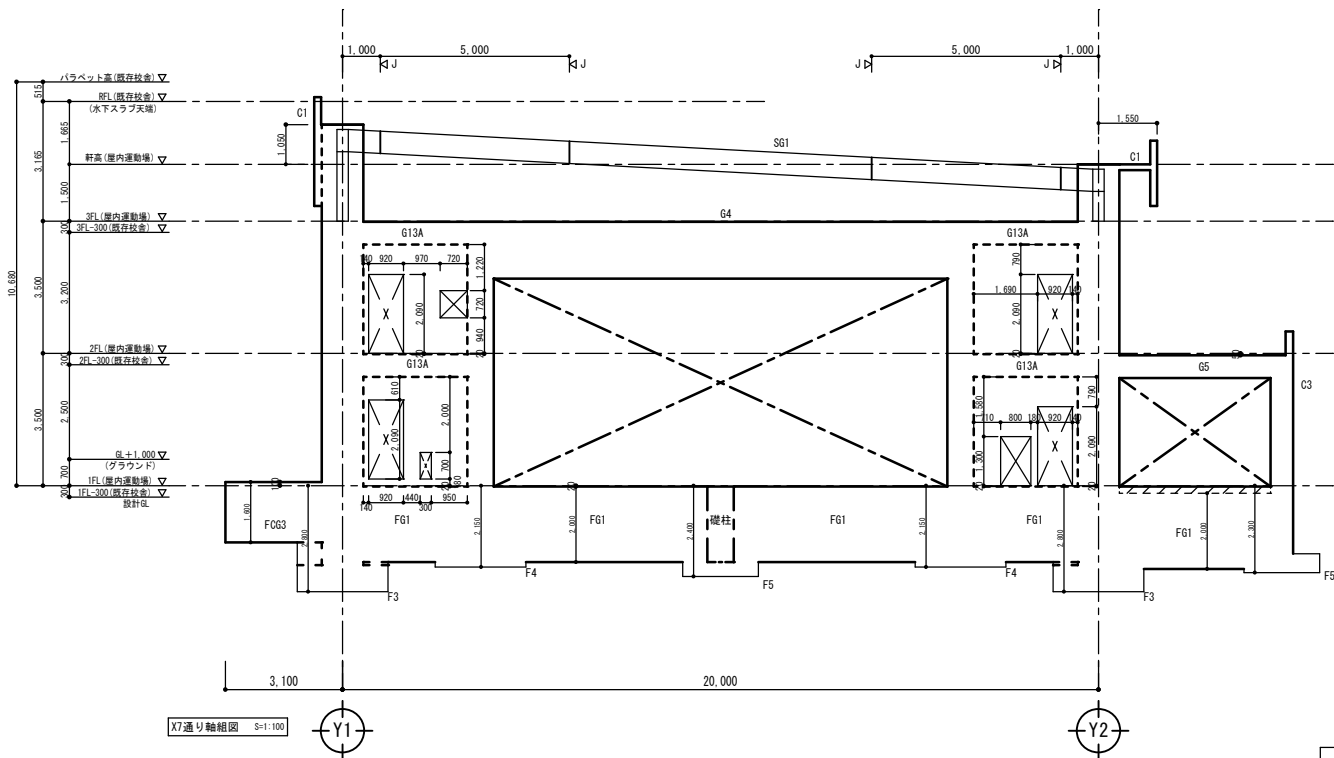
整理番号	注記	KBM1(校舎FL): GL±0 (TP30.00) KBM2(樹天端): GL+1000 (TP31.00) KBM3(北東側市道): TP30.82 (GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H508M-8(31.672 TP) を使用	設計年月日	2026.03	工事名称	新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事	縮尺 A1= 1/100 A3= 1/200
		設計GL: GL+1000 (TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1F: GL+300 (TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位: TP※(GL-※)	図面名称	軸組図3			
		校舎1F: GL±0 (TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 (校舎FLより)					



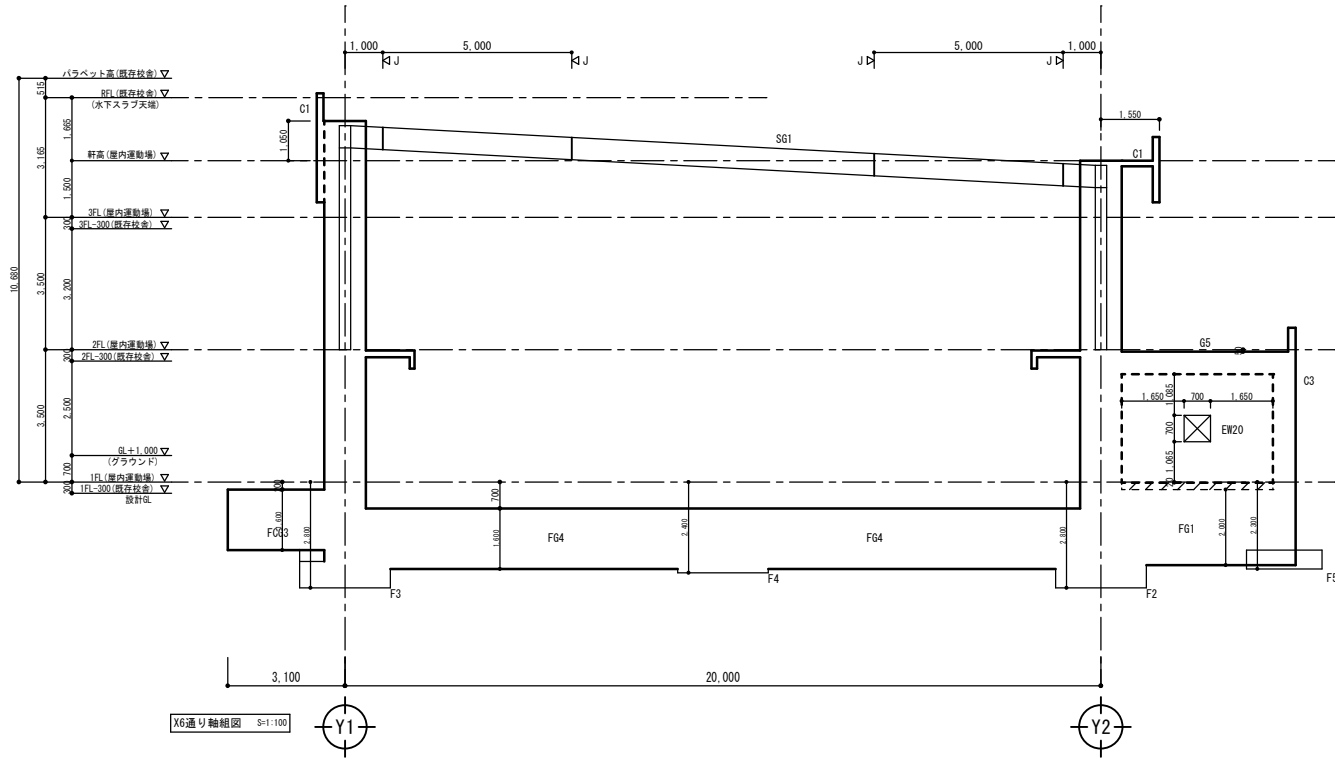
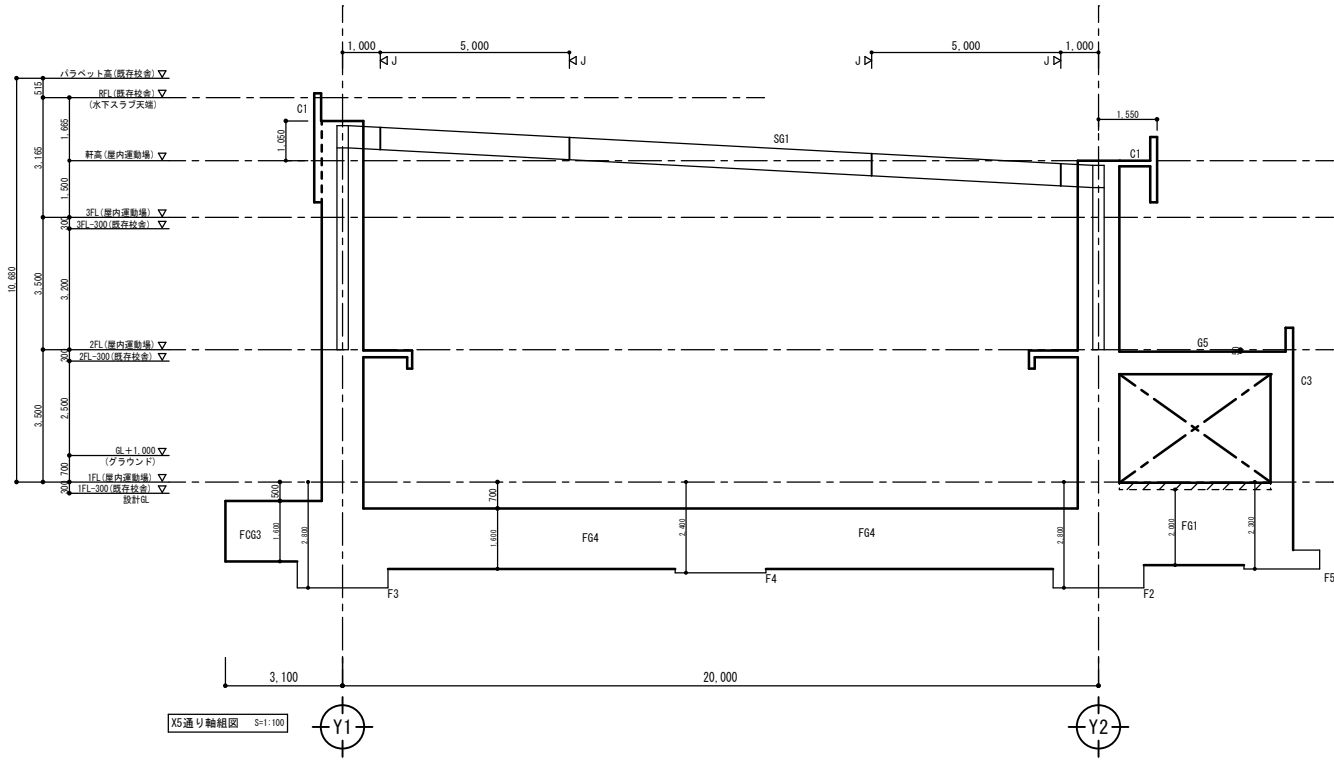
特記なき限り以下とする。
 1. 壁は、W20とする
 2. 窓は構造スリットを示す。



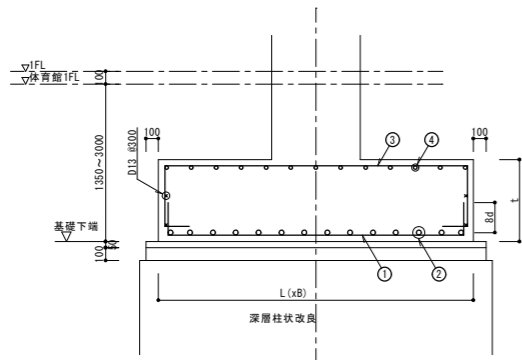
整理番号	注記 KBM1 (校舎FL) : GL±0 (TP30.00) KBM2 (樹天端) : GL+1000 (TP31.00) KBM3 (北東側市道) : TP30.82 (GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H308M-8(31.672 TP) を使用 設計GL : GL+1000 (TP31.00) 計画建物【屋内運動場】IFL : GL+300 (TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高 : 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位 : TP※(GL-※) 校舎IFL : GL±0 (TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高 : 1F-3500/2F-3500/3F-3465 (校舎FLより)	設計年月日	工事名称	S-19
		2026.03	新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事	
		図面名称	縮尺	
		軸組図4	A1= 1/100 A3= 1/200	



特記なき限り以下とする。
 1. 壁は、W20とする
 2. ▽は構造スリットを示す。



整理番号	注記	KBM1 (校舎FL): GL±0 (TP30.00) KBM2 (樹天端): GL+1000 (TP31.00) KBM3 (北東側市道): TP30.82 (GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H308M-8(31.672 TP)を使用	設計年月日	2026.03	工事名称	新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事
		設計GL: GL+1000 (TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1F: GL+300 (TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位: TP※(GL-※)	縮尺	A1= 1/100 A3= 1/200	図面名称	軸組図5
		校舎1F: GL±0 (TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 (校舎FLより)				



符号	B	L	t	①	②	③	④
F1	3600	4800	1000	25-D25	33-D22	25-D19	33-D16
F2	2400	4800	1000	23-D25	25-D22	23-D16	25-D16
F3	2400	3600	700	17-D22	19-D22	17-D16	19-D16
F4	2400	2400	600	15-D19	15-D19	15-D13	15-D13
F5	2000	2000	500	11-D19	11-D19	11-D13	11-D13
F6	1200	2400	550	9-D19	13-D19	9-D13	13-D13
F7	1000	2000	400	8-D16	11-D16	8-D13	11-D13
F8	1200	1200	300	7-D16	7-D16	7-D13	7-D13
F9	1000	1000	300	6-D16	6-D16	6-D13	6-D13

整理番号

注記
 KBM1(校舎FL): GL±0(TP30.00) KBM2(胸天端): GL+1000(TP31.00) KBM3(北東側市道): TP30.82(GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H30BM-8(31.672 TP) を使用。
 設計GL: GL+1000(TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1FL: GL+300(TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位: TP※(GL-※)
 校舎1FL: GL±0(TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465(校舎FLより)

設計年月日
2026.03

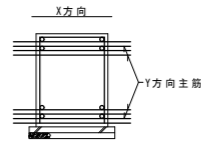
工事名称
新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事

図面名称
コラム基礎断面表

縮尺
A1= 1/30
A3= 1/60

基礎梁断面表 1/30

- 特記なき限り下記による
 1. 巾止筋：φ-D10 #1000以内
 2. 梁主筋位置は右図とする。
 3. 梁上端にEW20が接続する場合は、腹筋を柱へL2定着させる。



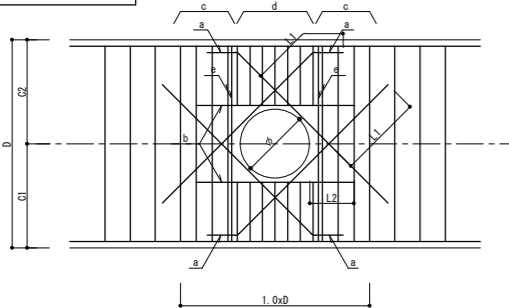
符号	FG 1	FG 1 A	FG 1 B	FG 2・FG 2 A	FG 3	FG 3 A	FG 4			FG 5	FG 6
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	外端	中央	内端	全断面	全断面
断面											
BxD	600 x 2000	600 x 2000	600 x 2000	450 x 2000	350 x 1200	350 x 1200	600 x 1600			450 x 1600	450 x 1200
上主筋	5 - D25	6 - D25	4 - D25	4 - D25	5 - D25	2 - D25	8 - D25	6 - D25	8 - D25	4 - D25	4 - D25
下主筋	5 - D25	6 - D25	4 - D25	4 - D25	3 - D25	2 - D25	6 - D25	6 - D25	6 - D25	4 - D25	4 - D25
スターラップ	□-D13 #100	□-D13 #200	□-D13 #100	□-D13 #200	□-D13 #200	□-D13 #100	□-D13 #200			□-D13 #200	□-D13 #200
腹筋	10 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13	6 - D13	6 - D13	8 - D13			8 - D13	6 - D13

基礎小梁断面表 1/30

- 特記なき限り下記による
 1. 巾止筋：φ-D10 #1000以内

符号	FCG 1	FCG 2	FCG 3	FCG 4	FB 1			FB 2		FB 3	FB 4		FB 5	
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	外端	中央	連続端	端部	中央	全断面	端部	中央	端部	中央
断面														
BxD	450 x 1500	600 x 2000	600 x 1600	400 x 1000	350 x 700			350 x 600		400 x 800	350 x 2000		350 x 700	
上主筋	4 - D25	6 - D25	6 - D25	3 - D25	3 - D22	3 - D22	6 - D22	3 - D22	3 - D22	3 - D22	4 - D22	4 - D22	3 - D22	3 - D22
下主筋	4 - D25	6 - D25	6 - D25	3 - D25	3 - D22	4 - D22	4 - D22	3 - D22	4 - D22	3 - D22	4 - D22	7 - D22	3 - D22	4 - D22
スターラップ	□-D13 #200	□-D13 #200	□-D13 #200	□-D13 #200	□-D13 #200			□-D13 #200		□-D13 #200	□-D13 #200		□-D13 #200	
腹筋	8 - D13	10 - D13	8 - D13	4 - D13	2 - D13			2 - D13		2 - D13	10 - D13		2 - D13	

人通孔補強図 5/1/30



符号	D	φ	C1	C2	a'斜め補強筋	b'横筋	c'補強スターラップ	d'上下スターラップ	e'人通孔縦筋
FG1	2000	600	1000	1000	2x4-D16	2-D16	□-D13 #100	□-D13 #100	□-D13
FB4	2000	600	1000	1000	2x4-D16	2-D16	□-D13 #200	□-D13 #200	□-D13

整理番号	注記
	KBW1(校舎FL):GL±0(TP30.00) KBW2(胸天端):GL+1000(TP31.00) KBW3(北東側市道):TP30.82(GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H308M-8(31.672 TP)を使用。
	設計GL:GL+1000(TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1FL:GL+300(TP30.30)=設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高:1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位:TP※(GL-※)
	校舎1FL:GL±0(TP30.00)=設計GL-1000 既存校舎階高:1F-3500/2F-3500/3F-3465(校舎FLより)

設計年月日	工事名称
2026.03	新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事
	図面名称
	基礎梁断面表
	縮尺
	A1= 1/30 A3= 1/60

柱断面表 1/30		Y ↑ X →				
階	符号	C 1	C 2	C 3	C 4	礎柱
3・M3階	断面					
	主筋	鉄骨: H-300x300x10x15 (SM400B)	鉄骨 (G2梁接合部のみ): H-300x300x10x15 (SM400B)	16 - D25		
	フープ	18 - D25 □-D13 #100	16 - D25 □-D13 #100	16 - D25 □-D13 #100		
2階	断面	同上		同上		
	主筋		20 - D25			
	フープ		田-D13 #100			
1階	断面			同上		
	主筋	26 - D25	24 - D25		16 - D25	12 - D19
	フープ	□-D13 #100	田-D13 #100		□-D13 #100	□-D13 #100

床断面表

符号	階層	位置	主筋方向		配筋筋方向		備考
			端部	中央部	端部	中央部	
FS1	200	上筋	D13 #150	←	D13 #200	←	雨水抑制槽
		下筋	D10-D13 #150	←	D10-D13 #200	←	
FS2	180	上筋	D13 #200	←	D13 #200	←	配管ピット
		下筋	D10-D13 #200	←	D10-D13 #200	←	
S1	170	上筋	D13 #200	←	D13 #200	←	アリーナ等
		下筋	D10-D13 #200	←	D10-D13 #200	←	
S2	170	上筋	D10-D13 #200	←	D10-D13 #200	←	一般床
		下筋	D10 #200	←	D10 #200	←	
S3	150	上筋	D10-D13 #200	←	D10-D13 #200	←	ゴミ置場
		下筋	D10 #200	←	D10 #200	←	
S4	180	上筋	D13 #200	←	D10-D13 #200	←	南側屋外スロープ
		下筋	D13 #200	←	D10 #200	←	
S5	200	上筋	D13 #200	←	D10-D13 #200	←	2階屋外設置場
		下筋	D10-D13 #200	←	D10 #200	←	
CS1 (CS1A)	180	上筋	D13 #100(150)	←	D10-D13 #200	←	2階観覧スペース
		下筋	D10-D13 #100(150)	←	D10 #200	←	
CS2	220	上筋	D16 #100	←	D10-D13 #200	←	2階バスケットゴール受
		下筋	D13 #100	←	D10 #200	←	
CS3	200	上筋	D13 #100	←	D10-D13 #200	←	Y9通り側屋外スロープ
		下筋	D13 #100	←	D10 #200	←	
CS4	200	上筋	D16 #100	←	D10-D13 #200	←	M3階6日目隠し壁受
		下筋	D13 #100	←	D10 #200	←	
CS5	170	上筋	D13 #100	←	D10-D13 #200	←	2階屋外倉庫屋根
		下筋	D10-D13 #100	←	D10 #200	←	

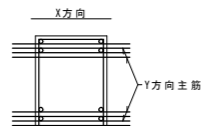
壁断面表 1/30 特記なき限り下記とする。
1. 巾止め筋は、D10 #750以下とする。

符号	W 1 5	W 1 8	W 2 0 (W 2 0 A)	EW 1 8	EW 2 0	RW 1 8	EW 2 0 A・KW 2 0	開口部一般補強図
縦断面								
縦筋	D10・D13 #150シングル	D10・D13 #200ダブル	D10・D13 #200ダブル	D10・D13 #200ダブル	D10・D13 #200ダブル	内: D10・D13 #200ダブル 外: D13 #200ダブル	D13 #200ダブル	
横筋	D10・D13 #150シングル	D10・D13 #200ダブル	(D13) D10・D13 #200ダブル	D10・D13 #200ダブル	D10・D13 #200ダブル	D10・D13 #200ダブル	D10・D13 #200ダブル	
開口補強筋	縦筋	1 - D13	2 - D13	2 - D13	4 - D13	-	4 - D13	
	横筋	1 - D13	2 - D13	2 - D13	4 - D13	-	4 - D13	
	斜筋	1 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	-	2 - D13	

整理番号	注記	KBW1(校舎FL): GL±0(TP30.00) KBW2(胸天端): GL+1000(TP31.00) KBW3(北東側市道): TP30.82(GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H308M-8(31.672 TP) を使用。
	設計GL: GL+1000(TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1FL: GL+300(TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位: TP※(GL-※)	
	校舎1FL: GL±0(TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465(校舎FLより)	

設計年月日	2026.03	工事名称	新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事
図面名称	柱・壁・床断面表	縮尺	A1= 1/30 A3= 1/60

特記なき限り下記による。
 1. スターラップは、D13 #200とする。
 2. 腹筋は、2-D10とする。
 3. 巾止筋：▽-D10 #1000以内。
 4. 大梁主筋位置は右図とする。



大梁断面表 1:30

階	符号	G 1		G 2		G 3		G 3 A	G 4	G 5	G 6		G 1 3 (G 1 3 A)		WG1	WG1・(WG2)	
		全断面		全断面		端部	中央	全断面		全断面	全断面	端部	中央	端部	中央	全断面	全断面
R階	位置	全断面		全断面		端部	中央	全断面		全断面	端部	中央	端部	中央	全断面	全断面	
	断面																
	鉄骨	H-350x175x7x11 (SN400B)		H-350x175x7x11 (SN400B)													
	上主筋	7 - D25		4 - D25		4 - D25		4 - D25		4 - D25	4 - D25	5 - D25	4 - D25	4 - D25	4 - D25		
	下主筋	7 - D25		4 - D25		4 - D25		4 - D25		4 - D25	4 - D25	4 - D25	4 - D25	4 - D25	4 - D25		
あばら筋	□-D13 #100		□-D13 #200		□-D13 #200		□-D13 #200		□-D13 #200	□-D13 #200	□-D13 #200		□-D13 #100				
腹筋	6-D22 (柱にL2定着させる)		-		2 - D13		2 - D13		8 - D13		2 - D13		2 - D13				
3階	位置	同上		同上		端部	中央	同上		同上	同上	同上	同上	同上			
	断面	同上		同上				同上		同上	同上						
	上主筋					4 - D25		4 - D25				7 - D25	4 - D25	5 - D25	(5) 4 - D25		
	下主筋					4 - D25		4 - D25				4 - D25	4 - D25	4 - D25	4 - D25		
	あばら筋					□-D13 #150						□-D13 #100		□-D13 #100			
腹筋					2 - D13						2 - D13		2 - D13				
2階	位置	同上		同上		端部	中央	同上		同上	同上	同上	同上	同上			
	断面	同上		同上				同上									
	上主筋					7 - D25		5 - D25				8 - D25 + 1 - D22		5 - D25		4 - D19	4 - D19
	下主筋					5 - D25		4 - D25				5 - D25		5 - D25		2 - D19	4 - D19
	あばら筋					□-D13 #100 (□-D13 #100)		□-D13 #100		□-D13 #200	□-D13 #200	□-D13 #100		□-D13 #100		□-D13 #200	□-D10 #150
腹筋					2 - D13 (8-D19、柱にL2定着させる)				2 - D13	2 - D13	2 - D13		2 - D13		壁横筋と同径・同ピッチ	W20横筋と同径・同ピッチ	

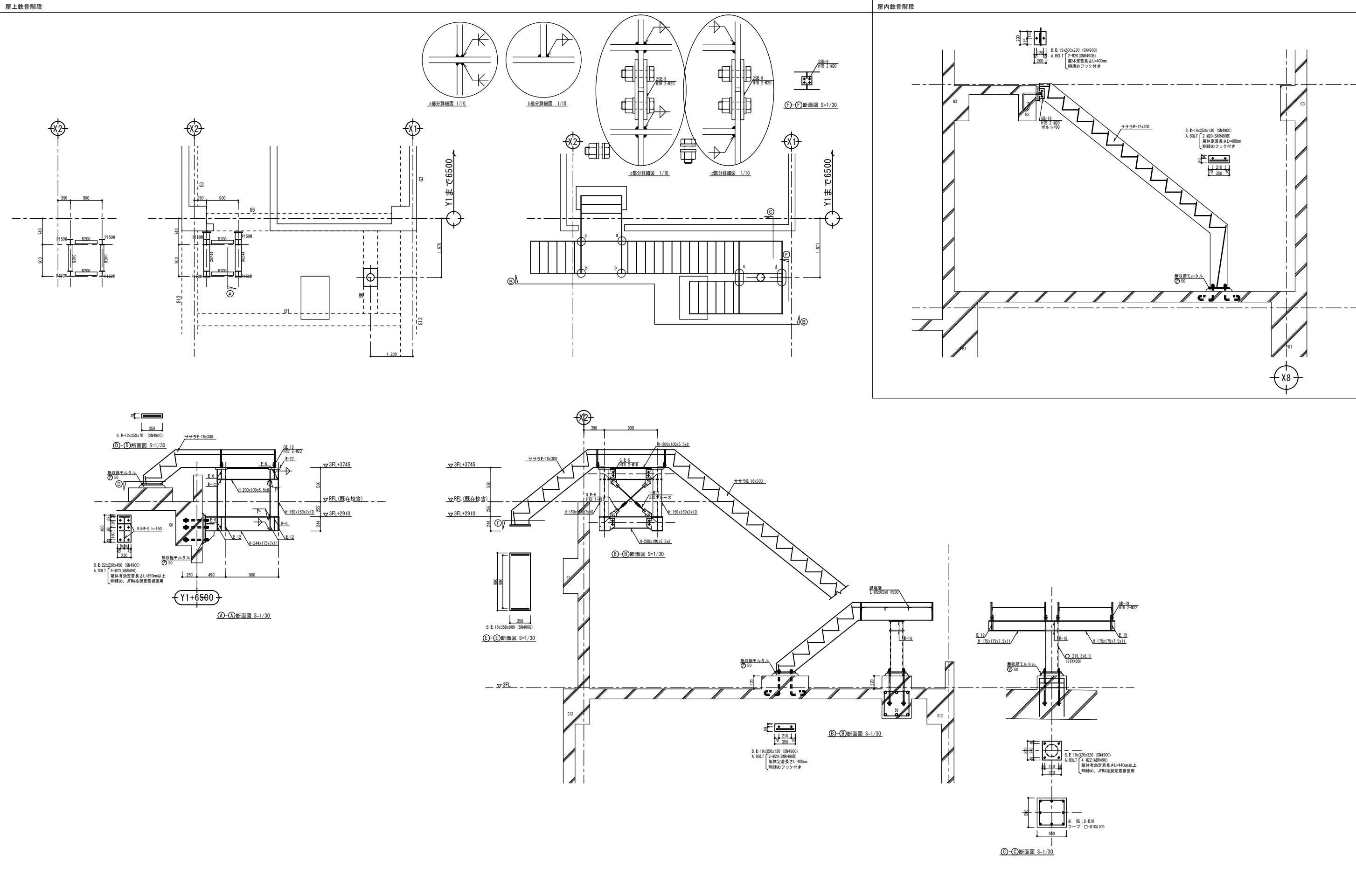
特記なき限り下記による。
 1. スターラップは、D13 #200とする。3. 巾止筋：▽-D10 #1000以内。

小梁断面表 1:30

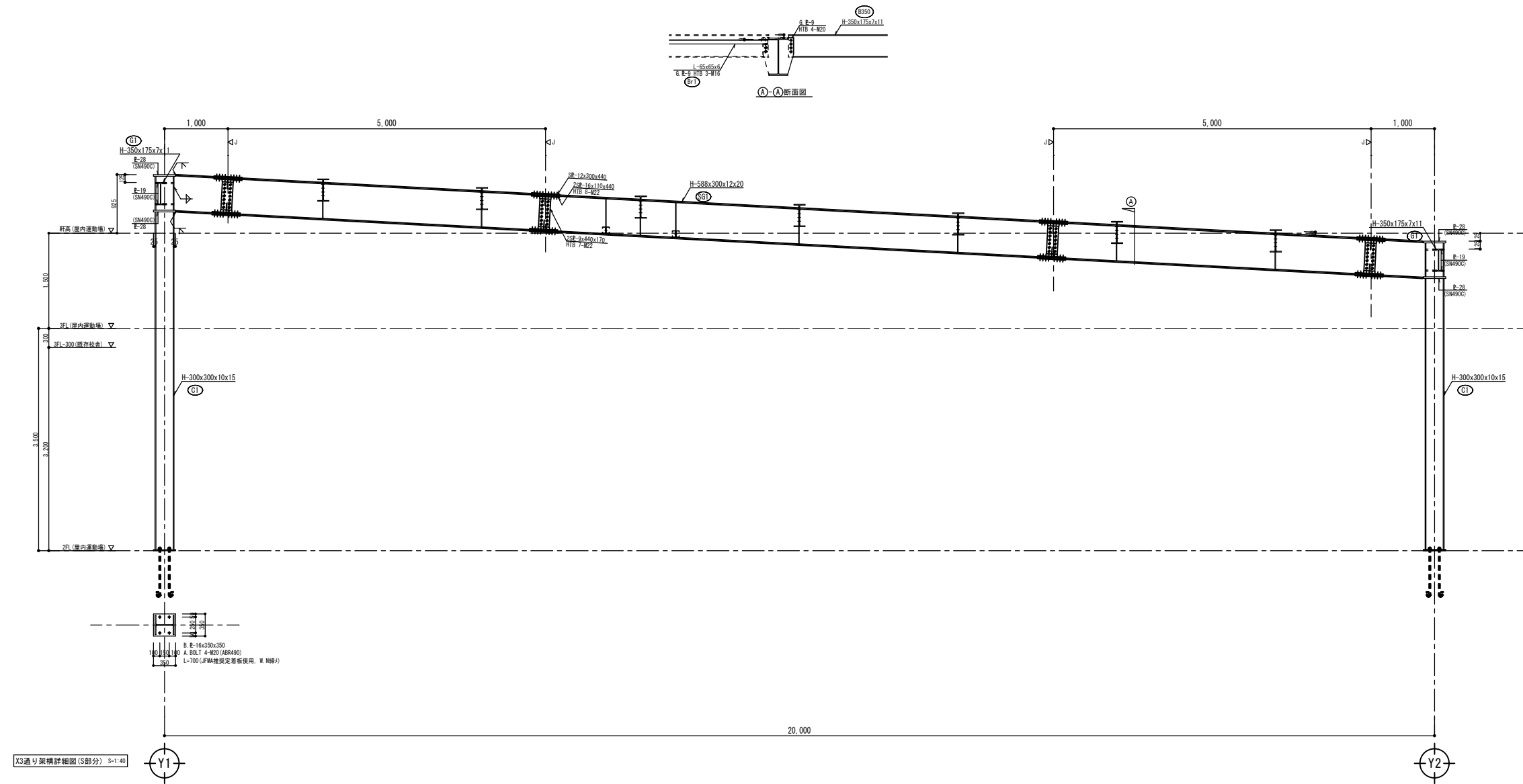
階	符号	B 1		B 2	B 3	B 4	B 5	B 6	WB 1 (WB 3)		WB 2	
		端部	中央	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	端部	中央	全断面
R階	位置	端部	中央	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	端部	中央	全断面
	断面											
	上主筋	3 - D22	4 - D22	3 - D22	3 - D22	2 - D19	3 - D22	3 - D22	3 - D22	2 - D22	2 - D22	4 - D16
	下主筋	3 - D22	6 - D22	3 - D22	3 - D22	2 - D19	3 - D22	3 - D22	3 - D22	2 - D22	4 - D22	4 - D16
	あばら筋	□-D13 #200		□-D13 #200	□-D13 #200	□-D13 #200	□-D13 #200	□-D13 #200	□-D13 #200	□-D13 #200		□-D10 #200
腹筋	2 - D13		2 - D13	2 - D13	-	-	-	-	壁横筋と同径・同ピッチ		D10 #200ダブル	

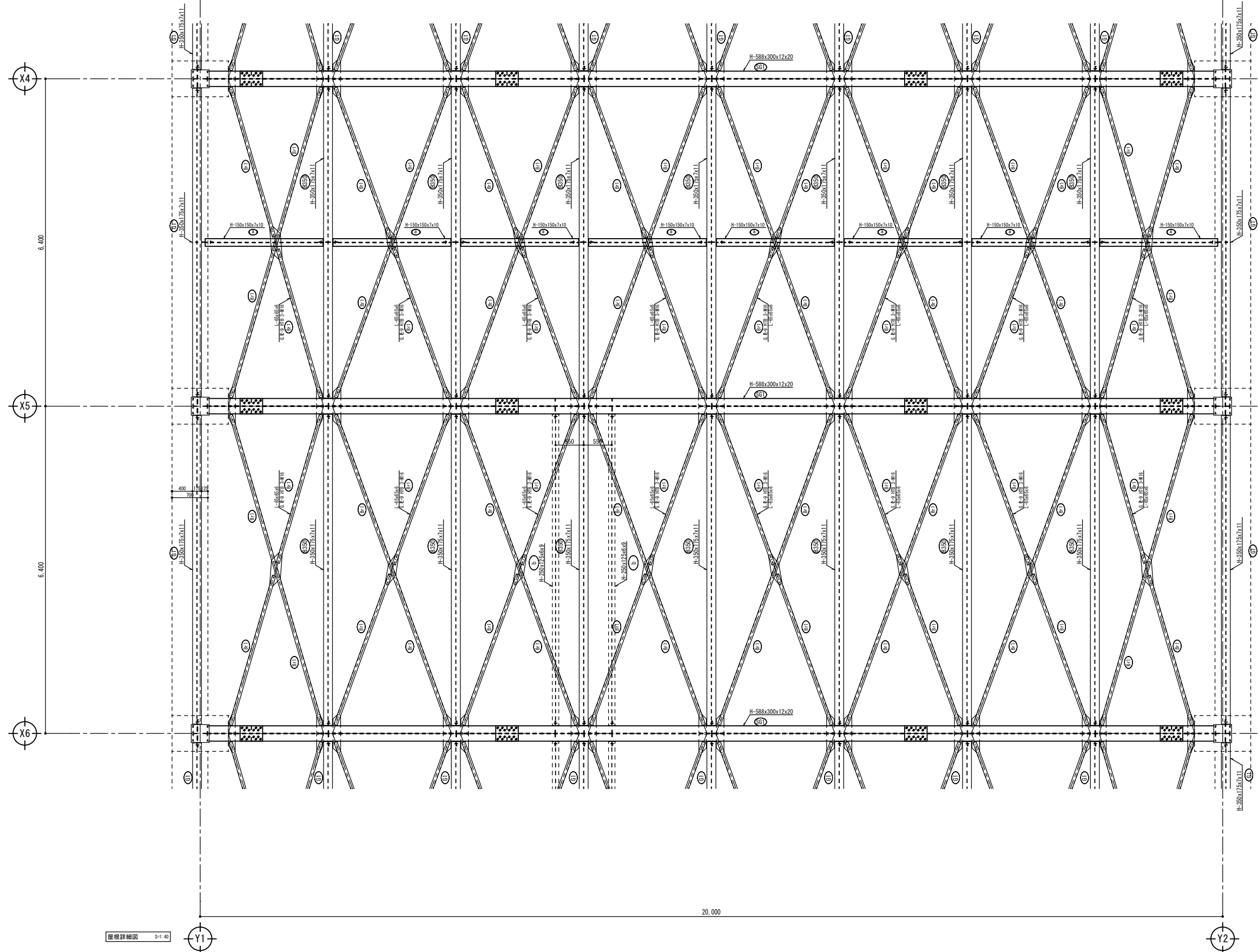
整理番号 注記
 KBM1(校舎FL): GL±0(TP30.00) KBM2(胸天端): GL+1000(TP31.00) KBM3(北東側市道): TP30.82(GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H308M-8(31.672 TP)を使用。
 設計GL: GL+1000(TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1FL: GL+300(TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位: TP※(GL-※)
 校舎1FL: GL±0(TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465(校舎FLより)

設計年月日 2026.03
 工事名称 新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事
 図面名称 大梁・小梁断面表
 縮尺 A1= 1/30 A3= 1/60



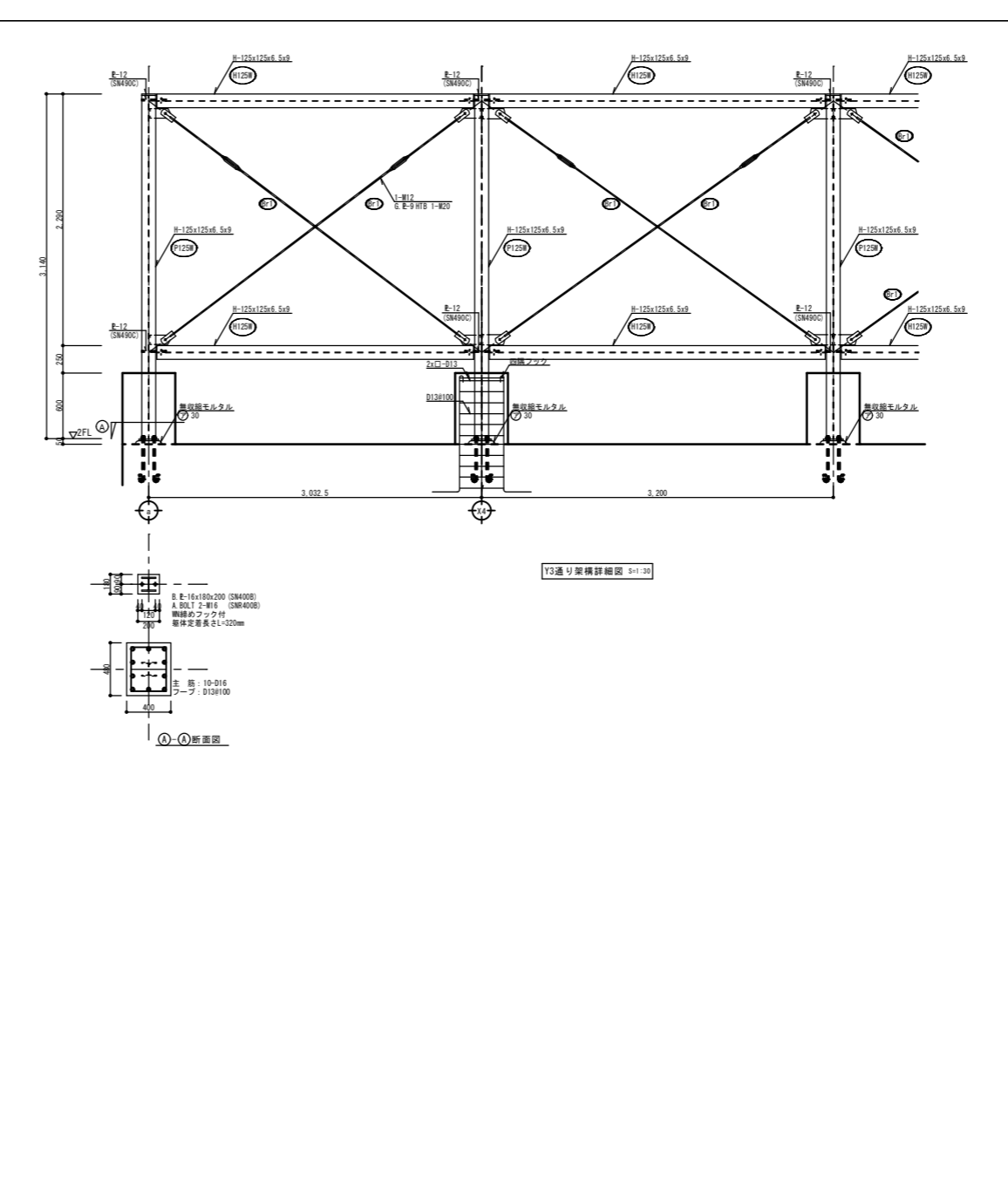
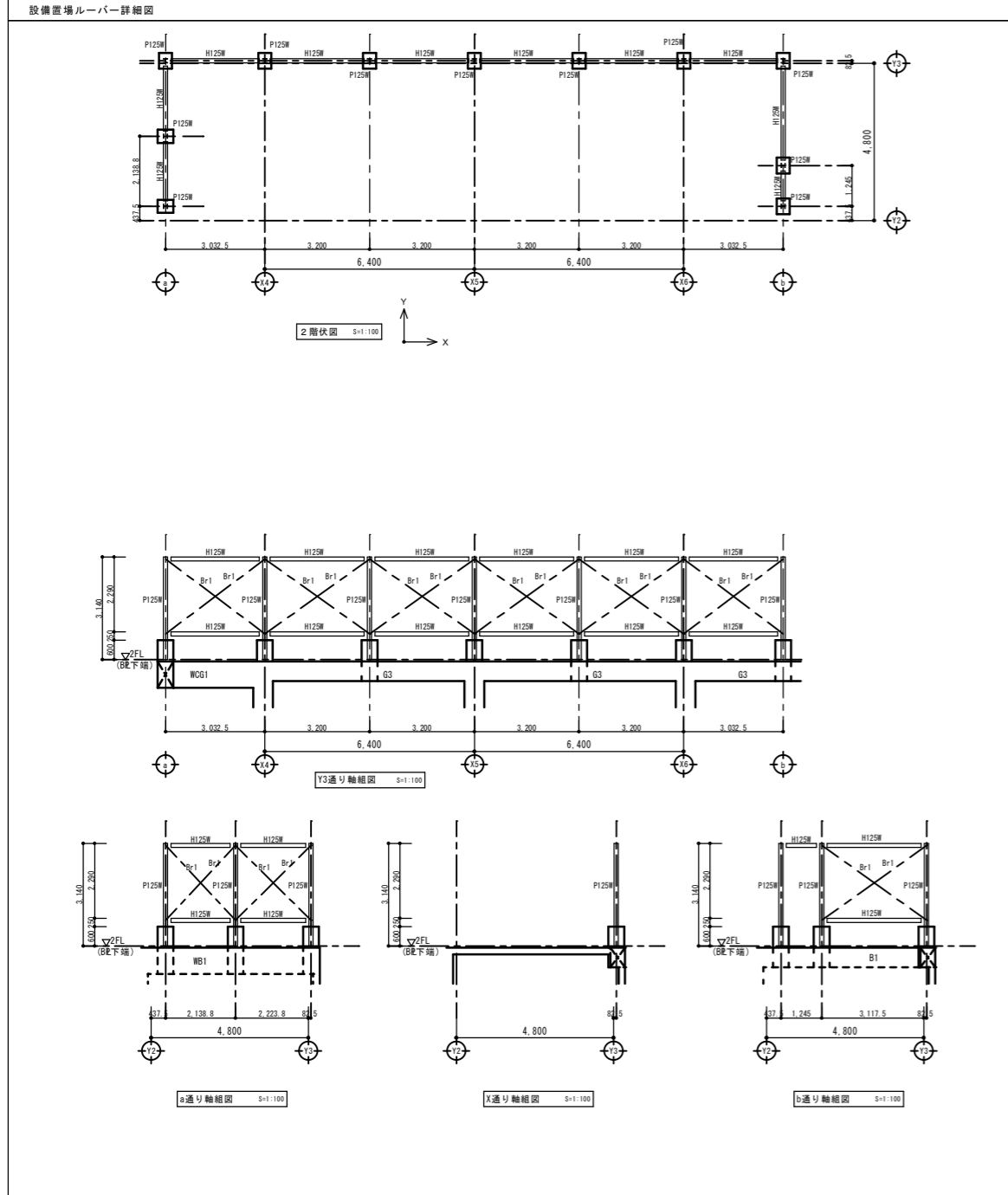
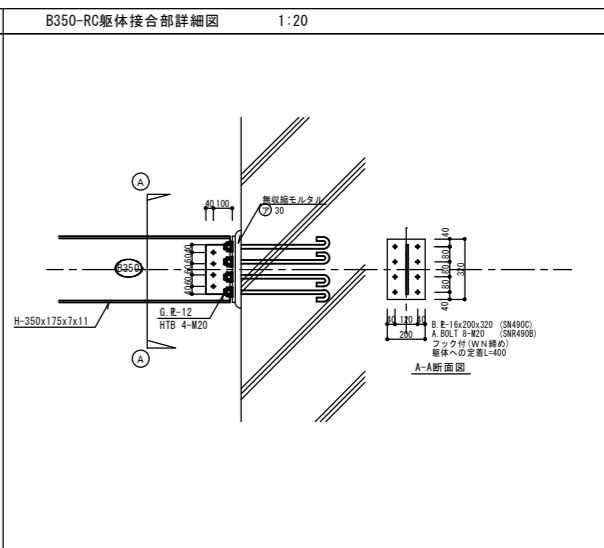
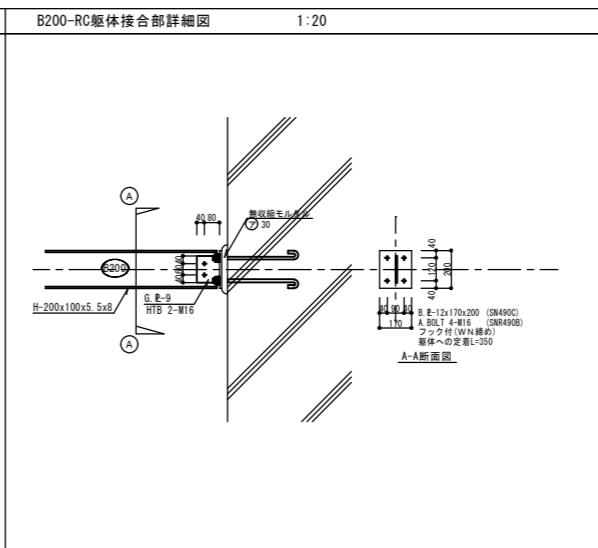
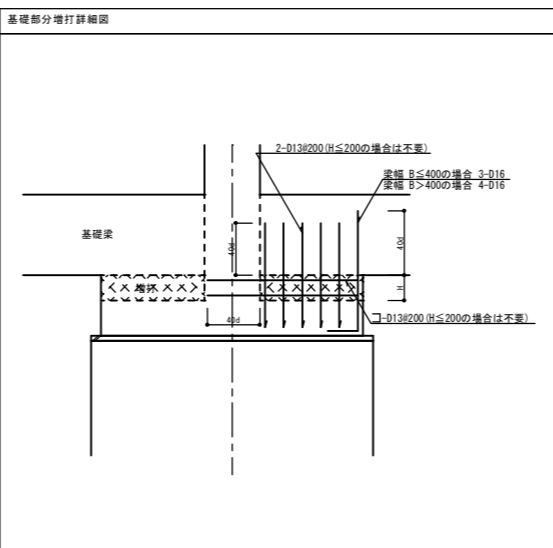
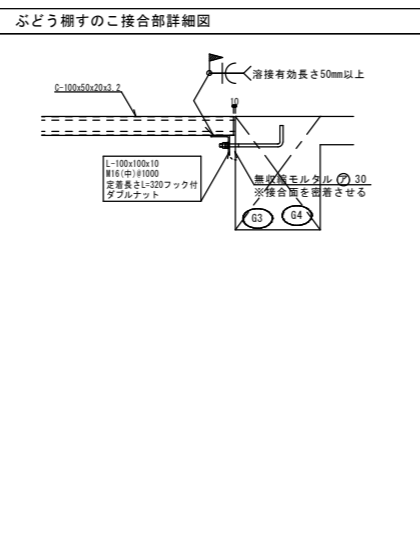
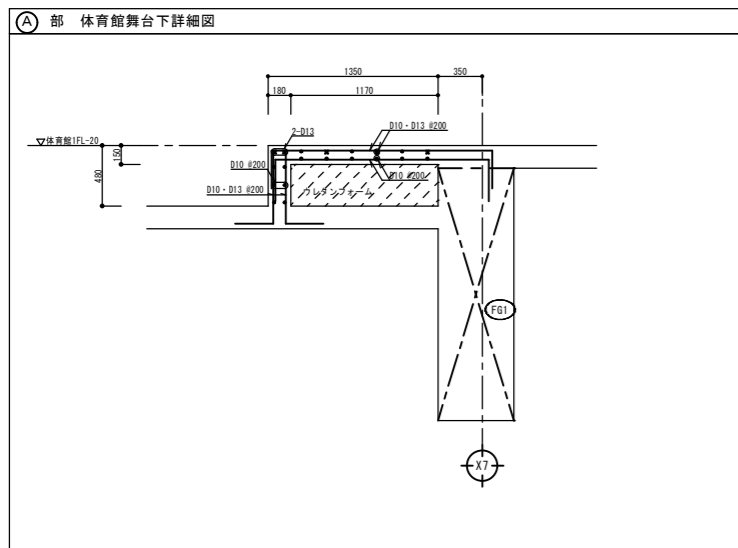
整理番号	注記	設計年月	工事名称	縮尺
図面名称			鉄骨階段詳細図	





整理番号	注記	KBM1(校舎FL): GL±0 (TP30.00) KBM2(樹天端): GL+1000 (TP31.00) KBM3(北東側市道): TP30.82 (GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H5098M-8(31.672 TP) を使用
	設計GL: GL+1000 (TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1FL: GL+300 (TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位: TP※(GL-※)	
	校舎1FL: GL±0 (TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 (校舎FLより)	

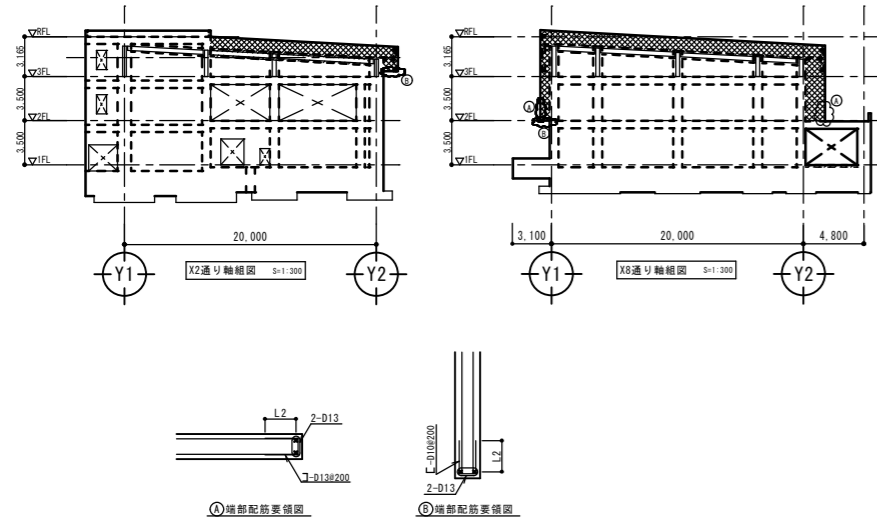
設計年月日	2026.03	工事名称	新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事	S-29
縮尺	A1= 1/40 A3= 1/80	図面名称	屋根詳細図	



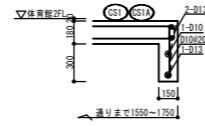
鉄骨断面表 特記なき限り、下記とする。
1. 鉄骨材質 SS400, SN400

符号	部材	継手		材質	備考
		HTB	G.E		
P125W	H-125x125x6.5x9	2-M16	G.E-9		
H125W	H-125x125x6.5x9	2-M16	G.E-9		横使い
Br1	1-M12 (TB付き)	1-M16	G.E-6		JISブレース
脚継	D-100x50x20x2.3 (中ボルト)	2-M16	G.E-6		緩み止め処置を行う

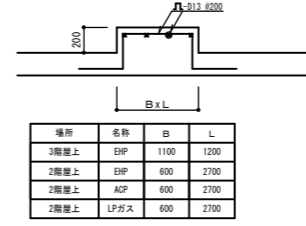
Y2/X2・Y1、Y2/X8通り袖壁端部配筋要領詳細図



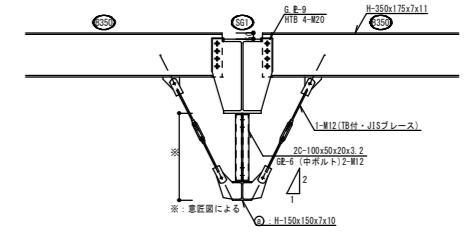
2階キャットウォーク垂壁詳細図



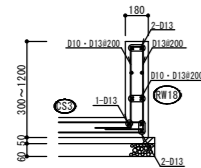
屋上設備基礎詳細図



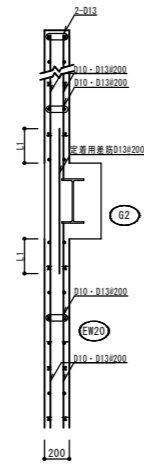
電動防球ネット受け取付要領図



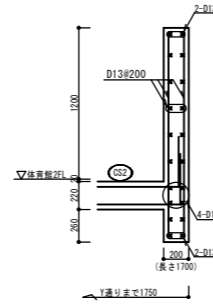
X9通りRW18詳細図



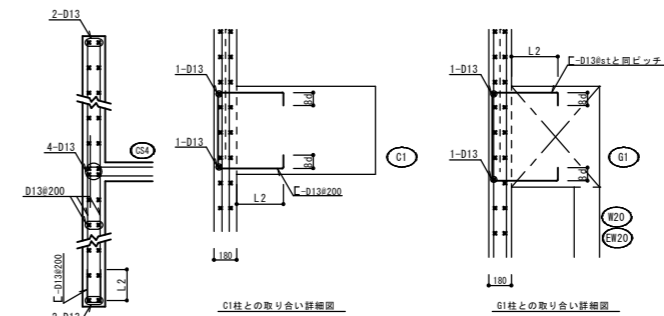
X2・X8通りパラベット詳細図



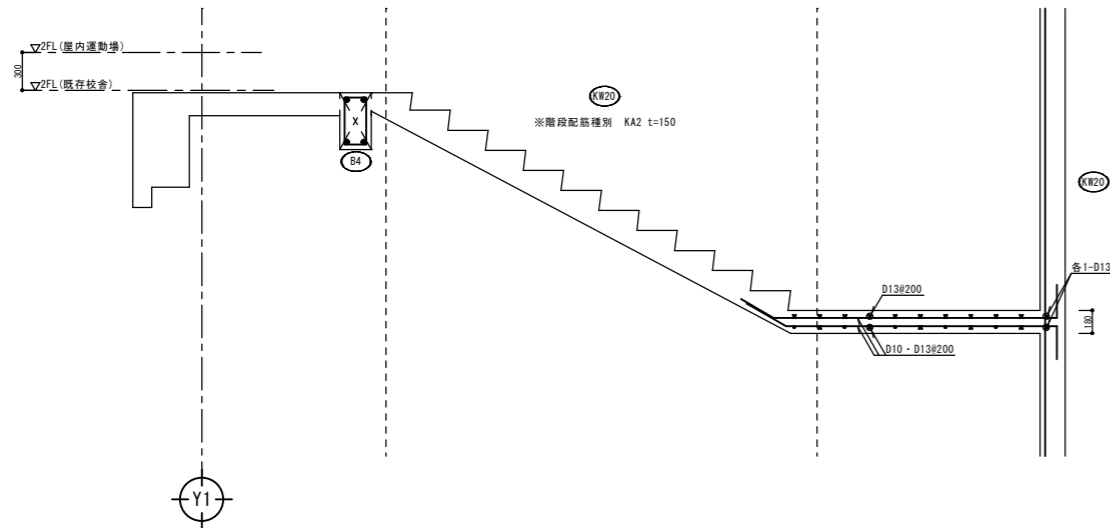
2階バスケットゴール受け詳細図



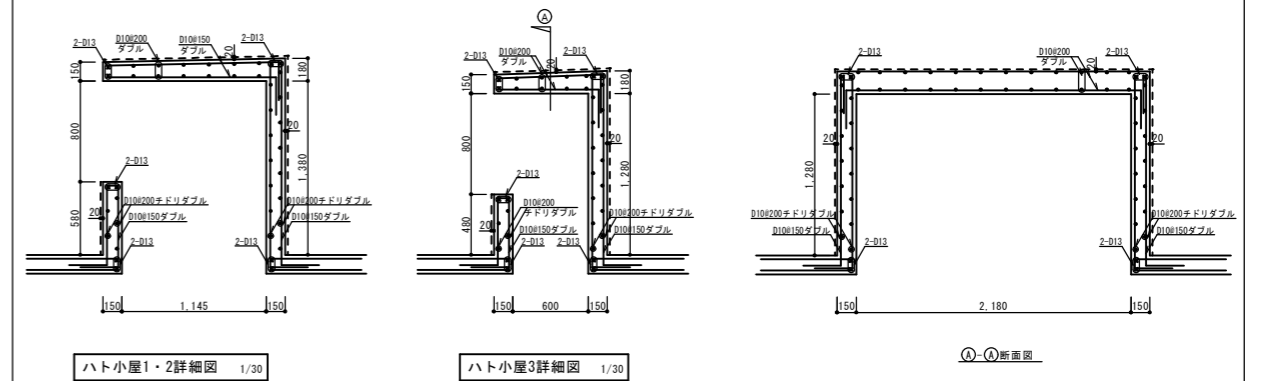
Y1・Y2通り垂壁詳細図



RC階段詳細図



ハト小屋詳細図



整理番号	注記	設計年月日	工事名称
	KBM1(校舎FL): GL±0(TP30.00) KBM2(駒天堀): GL+1000(TP31.00) KBM3(北東側市道): TP30.82(GL+820) ※TPレベル基準は、4級水準点H30BM-8(31.672 TP)を使用。 設計GL: GL+1000(TP31.00) 計画建物【屋内運動場】1FL: GL+300(TP30.30) = 設計GL-700 計画建物【屋内運動場】階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465 地下水位: TP※(GL-※) 校舎1FL: GL±0(TP30.00) = 設計GL-1000 既存校舎階高: 1F-3500/2F-3500/3F-3465(校舎FLより)	2026.03	新座市立大和田小学校屋内運動場改築工事
			図面名称
			雑詳細図2

縮尺	A1= 1/20・30 A3= 1/40・60
----	----------------------------